PENTAX

レンズ交換式デジタル一眼カメラ

PENTAX Q

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・レンズ交換式デジタル一眼カメラ PENTAX Qをお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからないときや、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

使用できるレンズについて

このカメラで使用できるレンズは、Qマウントレンズです。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Macintosh、Mac OS、QuickTimeは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
SDXCロゴは、SD-3C、LLCの商標です。
この製品はAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の許可のもと、DNG技術を取り入れています。
DNGロゴは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
SILKYPIXは、株式会社市川ソフトラボラトリーの登録商標です。
その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。なお、本文中にはTM、®マークは明記していません。

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。
PRINT Image Matching、PRINT Image Matching II、PRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

本機を使用するにあたって

- テレビ塔など強い電波や磁気を発生する施設の周囲や、強い静電気が発生する場所では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが誤作動を起こす場合があります。
- 画像モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび画像モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

ご注意ください

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

 警告　このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

 注意　このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 太陽などの強い光に向けての撮影や、レンズキャップを外した状態で直射日光のあたる場所に放置しないでください。カメラの故障や火災の原因になる場合があります。
- レンズを太陽に向けてのぞかないでください。失明や視力障害の原因になります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、バッテリーまたはACアダプターを取り外した上、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどの恐れがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などの恐れがあります。

- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ち続けると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異常が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。

バッテリー充電器とACアダプターについて

警告

- バッテリー充電器とACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外をご使用になったり、指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。AC指定電圧は、100-240Vです。
- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグを外し、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よく拭いてください。火災の原因となります。

注意

- ACコードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理に曲げたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、ACコードの接続部をショートさせたり、触ったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器で充電式リチウムイオンバッテリーD-LI68以外のバッテリーは充電しないでください。他のバッテリーを充電しようとすると、発熱や爆発、充電器の故障の原因となります。

バッテリーについて

- バッテリーの液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠ 注意

- このカメラでは、決められたバッテリー以外は使用しないでください。バッテリーの爆発、発火の原因となることがあります。
- バッテリーは分解しないでください。無理に分解をすると、爆発や液漏れの原因となります。
- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こしたときは、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分注意してください。
- バッテリーの「＋」と「－」の接点に、針金やヘアピンなどの金属類が触れないようにご注意ください。
- バッテリーをショートさせたり、火の中へ入れないでください。爆発や発火の原因となります。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 発熱・発火・破裂の恐れがありますので、バッテリー使用の際は、下記注意事項を必ずお守りください。
  1. 専用充電器以外では絶対に充電しないこと。
  2. 火中投入、加熱、高温での充電・使用・放置をしないこと。
  3. 変形や、ショートさせたり分解・改造をしないこと。

カメラや付属品は乳幼児の手の届かない場所に

- カメラや付属品を、乳幼児の手の届く場所には置かないでください。
  1. 製品の落下や不意の動作により、傷害を受ける恐れがあります。
  2. ストラップを首に巻き付け、窒息する恐れがあります。
  3. バッテリーやSDメモリーカードなどの小さな付属品を飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。

取り扱い上の注意

お使いになる前に

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証についてはご容赦ください。

バッテリー・充電器について

- バッテリーをフル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。特に高温下での保管は避けてください。
- バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電になり、バッテリー寿命を縮める原因となります。
- 充電は使用する当日か前日にすることをお勧めします。
- 本製品に付属しているACコードは、バッテリー充電器D-BC68P専用です。他の機器に接続してお使いにならないでください。

持ち運びとご使用の際のご注意

- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 強い振動、ショック、圧力などを加えないでください。オートバイ、車、船などの振動からは、クッションなどでくるんで保護してください。
- カメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥、砂、ほこり、水、有害ガス、塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- 破損や故障の原因になりますので、画像モニターの表面を強く押さないでください。
- 三脚使用時は、ねじの締め過ぎに十分ご注意ください。

お手入れについて

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- レンズのほこりは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロアーは、レンズを破損させる恐れがありますので、使用しないでください。
- CMOS センサーの清掃につきましては、できるだけ弊社修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。（有料）

保管について

- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用・保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用・保管は避けてください。
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。

その他

- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録できなくなり、カメラやパソコンで削除やフォーマットができなくなります。

- カメラを使用した直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合があります。
- SDメモリーカードへのアクセス中は、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データやカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SDメモリーカードのフォーマット中は絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で失われる場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  1. 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  2. SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  3. 長期間SDメモリーカードを使用しなかったとき
  4. SDメモリーカードのアクセス中にカードを取り出したり、バッテリーを抜いたとき
- 長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- SDメモリーカードをご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。

- 未使用品や他のカメラで使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。
- フォーマットしたカードでも、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。廃棄にはSDメモリーカード本体を物理的に破壊し、譲渡の際は市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってSDメモリーカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。
- SDメモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属のCD-ROMと当社ホームページから登録が可能です。p.209を参照してください。

目次

ご注意ください.......... 1
取り扱い上の注意.......... 4
目次.......... 7
本書の構成.......... 13

お使いになる前に 15

主な同梱品の確認..........16

各部の名称と機能..........17
撮影時.......... 18
再生時.......... 20
画像モニターの表示.......... 22

機能の設定方法..........30
ダイレクトキーで設定する.......... 30
コントロールパネルで設定する.......... 31
メニューで設定する.......... 32

準備編 35

ストラップを取り付ける..........36

バッテリーをセットする..........37
バッテリーを充電する.......... 37
バッテリーを入れる／取り出す.......... 38
バッテリー容量の確認.......... 39
撮影可能枚数と再生時間（バッテリーフル充電時）.......... 40
ACアダプター（別売）を使用する.......... 40

SDメモリーカードを入れる／取り出す..........43

レンズを取り付ける..........45

電源を入れる..........47

初期設定をする..........48
言語を設定する.......... 48
日時を設定する.......... 50

使ってみよう 53

撮影の基本操作 54
カメラまかせで撮影する 54

ズームレンズを使う 56

内蔵ストロボを使う 57
ストロボモードを設定する 57
ストロボを使って撮影する 59

画像を確認する 61
撮影した画像を再生する 61
画像を消去する 62

いろいろな撮影 63

撮影関連機能の操作 64
ダイレクトキーの設定項目 64
撮影メニューの設定項目 65
動画メニューの設定項目 67
カスタムメニューの設定項目 68

撮影モードを選ぶ......69
オートピクチャーモード 70
シーンモード 71
ボケコントロールモード 73
露出モード 74

露出を設定する 75
ISO感度を設定する 75
露出モードを切り替える 76
露出を補正する 79
露出を記憶させる（AEロック）...... 82
測光方式を選択する...... 84
ノイズを減らす（ノイズリダクション）...... 85

ピントを合わせる......86
フォーカスモードを設定する 86
オートフォーカスの方法を設定する 87
⦿/🗑ボタンでピントを合わせる 90
ピントを固定する（フォーカスロック）...... 91
マニュアルでピントを調整する
（マニュアルフォーカス）...... 92

被写界深度を確認する（プレビュー）..........94
グリーンボタンにプレビュー機能を割り当てる 94
プレビューを表示する 95

手ぶれを防いで撮影する..........96
手ぶれ補正機能を使って撮影する 96
セルフタイマーで撮影する 98
リモコン（別売）を使って撮影する 100

連続して撮影する..........102
連続撮影.......... 102
インターバル撮影 104
多重露出.......... 107

動画を撮影する 109
動画の設定を変更する 109
動画を撮影する 111
撮影した動画を再生する 115
動画を編集する 117

撮影のための設定 119

画像の記録形式を設定する 120
記録形式.......... 121
アスペクト比 121
JPEG記録サイズ 122
JPEG画質 123
色空間 123

ホワイトバランスを設定する..........124
マニュアルでホワイトバランスを調整する.......... 125
ホワイトバランスを微調整する.......... 127

明るさを補正して撮影する 128
ハイライト補正.......... 128
シャドー補正 129
HDR撮影.......... 130

仕上がりイメージを設定して撮影する 131
カスタムイメージを設定する 131
デジタルフィルターを設定する.......... 135
よく使う機能をクイックダイヤルに登録する 138
スマートエフェクトを設定する.......... 140
カメラの設定を登録する 142

グリーンボタンと電子ダイヤルの機能を設定する 144
グリーンボタンの動作を設定する 144
P 時の電子ダイヤルの動作を設定する... 146
M時のグリーンボタンの動作を設定する 147
レンズに関する機能を設定する 148
NDフィルターを設定する.. 148
歪曲収差を補正する... 149

いろいろな再生 151

再生関連機能の操作 152
再生モードパレットの設定項目... 152
再生メニューの設定項目 153
再生モードの表示を設定する...154
画像を拡大表示する 155
複数の画像を表示する..156
マルチ画面表示をする 156
フォルダーごとに表示する... 157
撮影日ごとに表示する（カレンダー表示）..................................... 158
画像を比較する.. 159
複数画像を貼り付ける（インデックス）.. 160
連続して再生する..162
スライドショウの表示方法を設定する... 162
スライドショウを開始する... 163
画像を回転して表示する 164
複数画像を消去する 165
選択して消去する 165
フォルダーを消去する 166
まとめて消去する 167
AV機器と接続する 168
ビデオ端子／HDMI端子に接続する.. 168
出力方式を設定する.. 169

画像を編集する　171

画像のサイズを変更する 172
記録サイズを変更する（リサイズ）................... 172
画像の一部を切り取る（トリミング）................... 173
画像を加工・補正する...................174
デジタルフィルターで加工する................... 174
赤目を補正する 179
RAW展開する 180
1画像ずつRAW展開する 180
まとめてRAW展開する 182

その他の設定を変更する　183

詳細設定メニューの操作...................184
詳細設定メニューの設定項目 184
カメラの設定...................186
音／日時／言語を設定する................... 186
画像モニター／メニュー表示を設定する 190
カメラに保存する設定を選択する
（モードメモリ）................... 195
設定をリセットする................... 196
カメラのバージョンを確認する................... 197
画像管理に関する設定...................198
SDメモリーカードをフォーマットする 198
画像を消去できないようにする（プロテクト）................... 199
フォルダー名の付け方を選択する 200
ファイルNo.の付け方を選択する 200
フォルダーを作成する 201
DPOFを設定する................... 201

パソコンと接続する　203

画像をパソコンで利用するには 204
画像をパソコンに保存する 205
転送モードを設定する 205
カメラとパソコンを接続する 206
付属ソフトウェアを使用する...................207
ソフトウェアのインストール 207
SILKYPIX Developer Studioの画面 208

ストロボの活用 211

内蔵ストロボの詳細 212
露出モードによるストロボ撮影の特徴 212
スローシンクロを利用する 212
後幕シンクロを利用する 213
内蔵ストロボ撮影時の距離と絞り 213
レンズと内蔵ストロボの適合 214
外付けストロボ（別売）を利用する 215
P-TTLで撮影する 216
外付けストロボを延長コードで接続する 217

付録 219

初期設定一覧 220
各種レンズを組み合わせたときの機能 226
CMOSセンサーのクリーニング 227
CMOSセンサーを振動させてほこりを落とす
（ダストリムーバル） 227
別売アクセサリー 228
エラーメッセージ 232
困ったときは 234
主な仕様 237
索引 243
アフターサービスについて 250
製品の点検・修理について 251
ペンタックスピックアップリペアサービス 251
宅配便・郵便による修理受付、修理に関するお問い合わせ 251

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 お使いになる前に

付属品や各部の名称、機能について説明しています。

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮影するまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に操作を行ってください。

3 使ってみよう

基本の撮影方法と再生方法を説明しています。

4 いろいろな撮影

撮影に関する様々な機能を説明しています。

5 撮影のための設定

保存形式など、撮影時の設定を説明しています。

6 いろいろな再生

様々な再生のしかたや消去などを説明しています。

7 画像を編集する

画像の加工と、RAW画像の現像方法を説明しています。

8 その他の設定を変更する

画面表示やフォルダー命名規則など、カメラ全般とファイル管理に関する設定を説明しています。

9 パソコンと接続する

カメラとパソコンのつなぎ方や、付属ソフトウェアのインストール方法と概要を説明しています。

10ストロボの活用

内蔵ストロボや外付けストロボの使用方法を説明しています。

11付録

困ったときの対処のしかたや別売品のご紹介、各種資料を掲載しています。

本書で使用している表記の意味は次のようになっています。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。

1 お使いになる前に

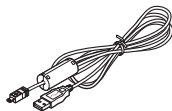
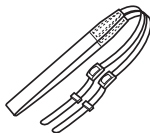
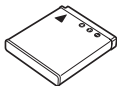
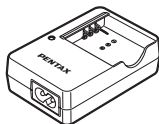
お使いになる前に、同梱品と各部の名称や機能を確認してください。

主な同梱品の確認 16
各部の名称と機能 17
機能の設定方法 30

主な同梱品の確認

このカメラには以下の付属品が同梱されています。
お使いになる前に、付属品に不足がないかお確かめください。

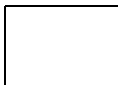
ホットシューカバー FK
（カメラ装着）

ボディマウントカバー
（カメラ装着）

USBケーブル
I-USB7

ストラップ
O-ST115

充電式リチウムイオン
バッテリー D-LI68

バッテリー充電器
D-BC68P

ACコード
D-CO2J

ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW115

使用説明書（本書）

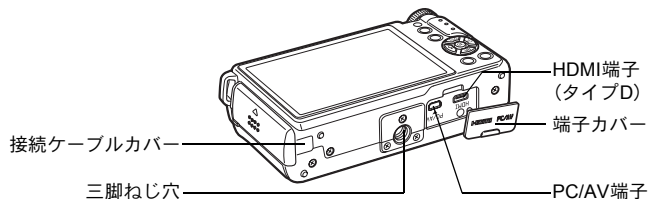
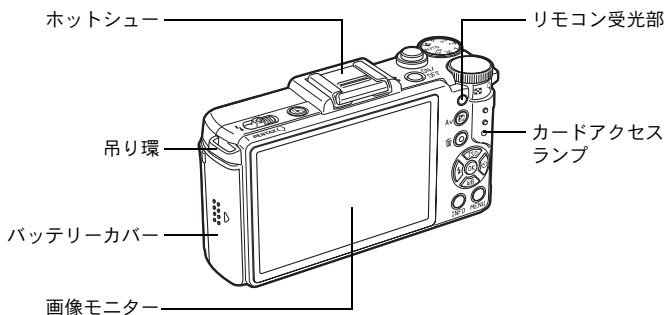
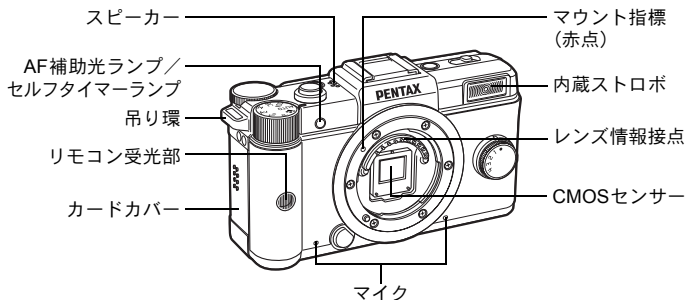
簡単ガイド

保証書

別売のアクセサリーについては、p.228を参照してください。

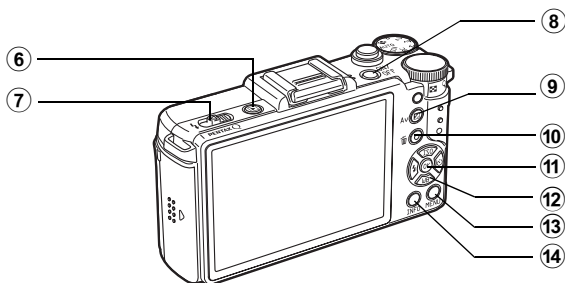
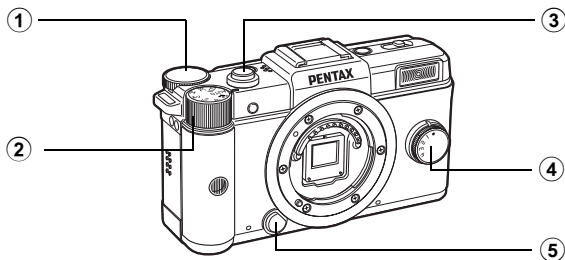
各部の名称と機能

スピーカー
AF補助光ランプ／
セルフタイマーランプ
吊り環
リモコン受光部
カードカバー
マウント指標
（赤点）
内蔵ストロボ
レンズ情報接点
CMOSセンサー
マイク
PENTAX

ホットシュー
吊り環
バッテリーカバー
画像モニター
リモコン受光部
カードアクセス
ランプ

接続ケーブルカバー
三脚ねじ穴
HDMI端子
（タイプD）
端子カバー
PC/AV端子

撮影時

撮影時に使用するボタンやダイヤル、レバーの機能を示します。

メモ ここでは工場出荷時の状態の機能を説明します。ボタンによっては、機能を変更することができます。

① **電子ダイヤル**

シャッター速度／絞り値／露出補正値を設定します。（p.77）

メニュー画面が表示されているときは、メニューを切り替えます。（p.32）

コントロールパネルが表示されているときは、設定を切り替えます。（p.32）

② **モードダイヤル**

撮影モードを切り替えます。（p.69）

③ **シャッターボタン**

画像を撮影します。（p.55）

④ **クイックダイヤル**

お好みの撮影設定を登録し、簡単に呼び出すことができます。（p.138）

⑤ **レンズ取り外しボタン**

レンズを取り外すときに押します。（p.46）

⑥ **▶ボタン**

再生モードに切り替えます。（p.61）

⑦ **ストロボポップアップレバー**

内蔵ストロボをポップアップします。（p.59）

⑧ **電源ボタン**

電源のON ／OFF をします。（p.47）

⑨ **☒Avボタン**

露出補正値や絞り値を変更するときに押します。（p.77、p.79）

⑩ **◉/🗑（グリーン／消去）ボタン**

機能を割り当てて使用します。（p.144）

⑪ **OKボタン**

コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときに、選択した項目を決定します。

⑫ **十字キー（▲▼◀▶）**

ISO感度／ホワイトバランス／ストロボモード／ドライブモードの設定画面を呼び出します。（p.64）

コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときは、カーソルの位置や項目を変更します。

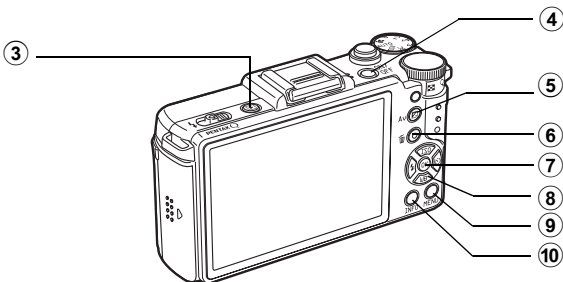
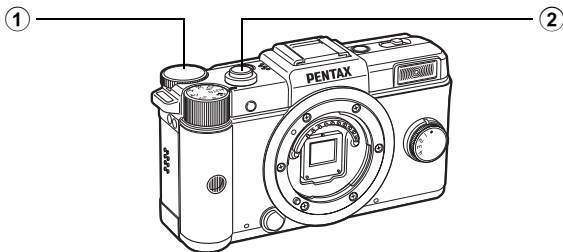
⑬ **MENUボタン**

「📷 撮影1」メニュー（p.65）を表示します。メニューが表示されているときに押すと、1つ前の画面に戻ります。（p.32）

⑭ **INFOボタン**

画像モニターの表示を切り替えます。（p.22）

再生時

再生時に使用するボタンやダイヤルの機能を示します。

① **電子ダイヤル**
再生した画像を拡大表示（p.155）、またはマルチ画面表示（p.156）します。

② **シャッターボタン**
半押しすると撮影モードに切り替わります。

③ **▶ボタン**
撮影モードに切り替えます。

④ **電源ボタン**
電源のON／OFFをします。（p.47）

⑤ **☑Avボタン**
JPEG形式で撮影した直前の画像がカメラ内の撮影バッファに残っている場合に、RAW形式の画像を追加保存します。（p.61）

⑥ **◉/🗑（グリーン／消去）ボタン**
画像の消去や設定値のリセットなどを行います。（p.62、p.144）

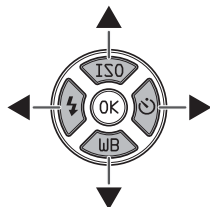
⑦ **OKボタン**
メニュー画面や再生画面で選択した項目を決定します。

⑧ **十字キー（▲▼◀▶）**
メニュー画面や再生画面でカーソルの位置や項目を変更します。
十字キー（▼）を押すと、再生モードパレットを表示します。（p.152）

⑨ **MENUボタン**
「▶再生1」メニュー（p.153）を表示します。

⑩ **INFOボタン**
画像モニターの表示を切り替えます。（p.25）

キーの表記について

本書では、十字キーを次のように表記します。

画像モニターの表示

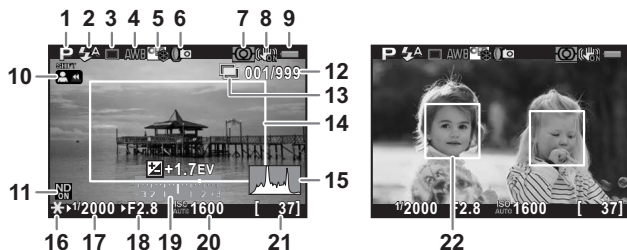
画像モニターには、カメラの状態によって様々な情報が表示されます。

画像モニターの明るさと色味を調整することができます。（p.193）

撮影時

撮影時には、撮影機能の設定内容が表示されます。**INFO** ボタンを押すと、表示が切り替わります。

● 標準表示

（説明のため全項目を表示しています。実際に表示される画面とは異なります。）

1 撮影モード（p.69）
2 ストロボモード（p.57）
3 ドライブモード（p.64）
4 ホワイトバランス（p.124）
5 カスタムイメージ（p.131）
6 インターバル撮影（p.104）／HDR 撮影（p.130）／デジタルフィルター（p.135）
7 測光方式（p.84）
8 Shake Reduction（p.96）／Movie SR（p.110）

9 バッテリー残量（p.39）
10 **MF** モードピントリング操作中（p.93）
11 NDフィルター（p.148）
12 多重露出撮影回数
13 多重露出（p.107）
14 AFフレーム（p.55）
15 ヒストグラム（p.28）
16 AEロック（p.82）
17 シャッター速度（p.77）
18 絞り値（p.77）
19 露出バー（p.79）
20 ISO感度（p.75）
21 撮影可能枚数
22 AF方式「顔検出」の顔検出枠（p.87）

※ 14 の AF フレームは白で表示され、ピントが合うと緑の四角枠になります。ピントが合わなかったときは、赤になります。フォーカスモードが **MF** に設定されているときは表示されません。
※ 22 は、AF 方式を「顔検出」に設定していて顔を検出した場合に最大 12 個まで表示され、メイン顔検出枠は黄色、その他は白で表示されます。

● コントロールパネル

撮影モードで**INFO**ボタンを押すと表示され、設定を変更することができます。

📷モード

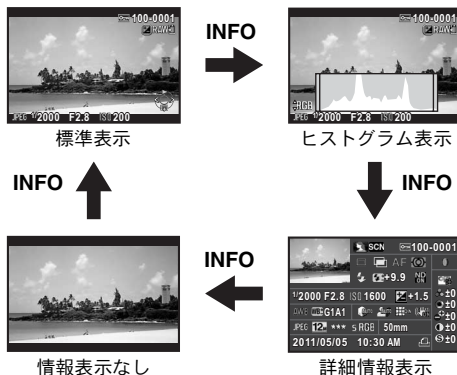
🎥モード

1 機能名称
2 設定
3 カスタムイメージ（p.131）／SCNモード（p.71）
4 デジタルフィルター（p.135）
5 HDR撮影（p.130）
6 ハイライト補正（p.128）
7 シャドー補正（p.129）
8 測光方式（p.84）
9 フォーカスモード（p.86）
10 AF方式（p.87）
11 NDフィルター（p.148）
12 Shake Reduction（p.96）／Movie SR（p.110）
13 アスペクト比（p.121）
14 記録形式（p.121）
15 JPEG記録サイズ（p.122）／動画記録サイズ（p.109）
16 JPEG画質（p.123）
17 音声（p.109）
18 現在の日時（p.50）
19 撮影可能枚数

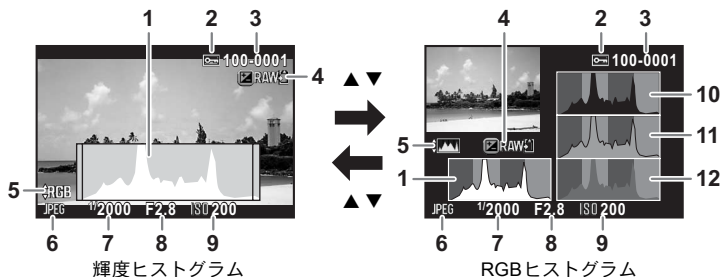
- カメラの設定状況により変更できない項目は、選択できません。
- コントロールパネルは何も操作しないと、30秒で標準表示に戻ります。
- モードダイヤルがSCNのときは、シーンモードのコントロールパネルが表示されます。（p.72）
- 撮影モードの表示についての設定は、「撮影モードの表示を設定する」（p.191）を参照してください。

再生時

画像再生時に**INFO**ボタンを押すと、表示情報が切り替わります。

標準表示	撮影画像と記録形式、操作ガイドを表示します。
ヒストグラム表示	画像とヒストグラム（輝度／RGB）を表示します。動画のときは、表示されません。（p.26）
詳細情報表示	撮影時の詳細情報を表示します。（p.27）
情報表示なし	撮影画像のみを表示します。

再生時に最初に表示される情報は、前回最後に表示した情報です。「撮影3」メニューの「モードメモリ」（p.195）で「再生情報表示」を□（オフ）に設定すると、電源を入れるたびに標準表示から表示されます。

● ヒストグラム表示

静止画の再生時に、画像の明るさの分布を表した「輝度ヒストグラム」と、色の強度の分布を表した「RGBヒストグラム」の2種類のヒストグラムが表示できます。輝度ヒストグラム／RGBヒストグラムの表示は十字キー（▲▼）で切り替えます。

1	ヒストグラム（輝度）	**7**	シャッター速度
2	プロテクト	**8**	絞り値
3	フォルダー No.-ファイルNo.	**9**	ISO感度
4	RAW形式追加保存可能	**10**	ヒストグラム（R）
5	RGBヒストグラム／輝度ヒストグラム切り替え	**11**	ヒストグラム（G）
		12	ヒストグラム（B）
6	記録形式		

※ 2は設定されている画像のみ表示されます。
※ 4は直前に撮影した画像がJPEG 形式で、RAW画像の追加保存ができる場合のみ表示されます。（p.61）

「▶再生1」メニューの「白とび黒つぶれ警告」（p.154）を☑（オン）にすると、白とび部分は赤、黒つぶれ部分は黄色で点滅表示されます。（RGBヒストグラム表示／詳細情報表示のときを除く）

● 詳細情報表示

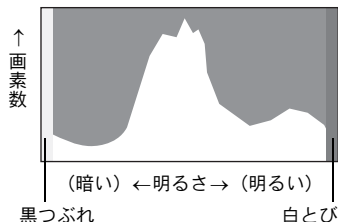
静止画

動画

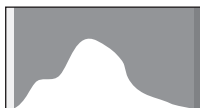
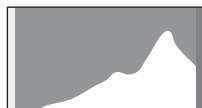
1 撮影画像
2 撮影モード（p.69）
3 プロテクト（p.199）
4 フォルダー No.-ファイルNo.（p.200）
5 ドライブモード（p.64）
6 HDR撮影（p.130）／多重露出（p.107）
7 フォーカスモード（p.86）
8 測光方式（p.84）
9 ストロボモード（p.57）
10 ストロボ光量補正（p.58）
11 NDフィルター（p.148）
12 シャッター速度（p.77）
13 絞り値（p.77）
14 ISO感度（p.75）
15 露出補正（p.79）
16 ホワイトバランス（p.124）
17 ホワイトバランス微調整（p.127）
18 ハイライト補正（p.128）
19 シャドー補正（p.129）
20 ディストーション補正（p.149）
21 Shake Reduction（p.96）／Movie SR（p.110）
22 記録形式（p.121）
23 JPEG記録サイズ（p.122）／動画記録サイズ（p.109）
24 JPEG画質（p.123）
25 色空間（p.123）
26 レンズ焦点距離
27 デジタルフィルター（p.135）
28 画像仕上（p.131）
29 カスタムイメージパラメーター（p.132）
30 撮影日時
31 DPOF設定（p.201）
32 音声（p.109）
33 記録時間

※ 9・10はストロボが発光した画像のみ表示されます。
※ 6・11・17・18・19・20・26・27・31は、設定されている画像のみ表示されます。
※ RAW画像は、23・24は表示されません。

ヒストグラムの見かた

ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさの画素数を積み上げて示します。
撮影の前後にヒストグラムの形状や分布を見ることで、露出レベルと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断に利用できます。

☞露出を補正する（p.79）
☞明るさを補正して撮影する（p.128）

画像の明るさを見る
極端な明暗部がない適正な明るさの画像の場合、グラフは中間域に分布します。暗い画像ではグラフの分布は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

暗い画像

明部暗部の少ない画像

明るい画像

画像の中で、暗すぎてヒストグラムの左端よりも左になる部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明るすぎてヒストグラムの右端よりも右になる部分は真っ白になってしまいます（白とび）。
このカメラでは、撮影時または再生時に、黒つぶれ・白とび部分を警告表示させることができます。

☞撮影した画像を再生する（p.61）
☞再生モードの表示を設定する（p.154）
☞撮影モードの表示を設定する（p.191）
☞クイックビューの表示を設定する（p.192）

色のバランスを見る

「RGBヒストグラム」では各色の強度分布を表示します。ホワイトバランスがうまく調整されている画像は、各色のグラフ右部分が似た形になります。1色のみ左に偏っている場合などは、色がかぶっているといえます。

☞ホワイトバランスを設定する （p.124）

操作ガイド

画像モニターには、その状態で操作できるボタン等を示すガイドが表示されます。

（表示例）

▲	十字キー（▲）	SHUTTER	シャッターボタン
▼	十字キー（▼）	MENU	MENUボタン
◀	十字キー（◀）	INFO	INFOボタン
▶	十字キー（▶）	◉/🗑	グリーン／消去ボタン
OK	OKボタン	☑	☑Avボタン
⊖	電子ダイヤル		

- 低輝度または高輝度の撮影条件の場合、画像モニターの表示と撮影結果が異なる場合があります。
- 撮影中に光源が変化すると、画面がちらつくことがあります。「🔧詳細設定1」メニューの「フリッカー低減」（p.184）でご使用の地域の電源周波数に設定することで、ちらつきを抑えることができます。
- 撮影中にカメラの向きを変えるなどの急激な変化があると、適切な明るさで表示されない場合があります。表示が安定するのを待ってから撮影してください。
- 暗い場所では画像モニターにノイズが生じる場合があります。
- 長時間連続して撮影を行うとカメラ内部の温度が上がり、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切るようにしてください。画質低下を軽減するため、長時間露光や動画撮影時は撮影の間隔をあけ、カメラ内の温度が上昇しないようにしてください。
- ISO感度を高くすると、ノイズや色ムラが生じる場合があります。
- SDメモリーカードへのデータ記録中は、画像モニターは表示できません。

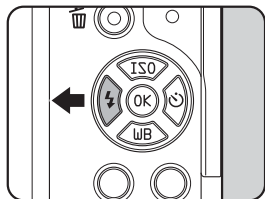
機能の設定方法

機能は、ダイレクトキー／コントロールパネル／メニューのいずれかで設定します。
ここでは、基本的な機能の設定方法を説明します。

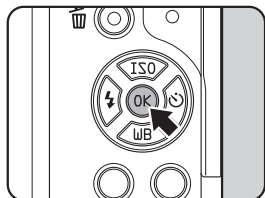
ダイレクトキーで設定する

撮影モードで十字キー（▲▼◀▶）を押すと、ISO感度／ホワイトバランス／ストロボモード／ドライブモードが設定できます。（p.64）
ここでは「ストロボモード」を設定する場合を例に説明します。

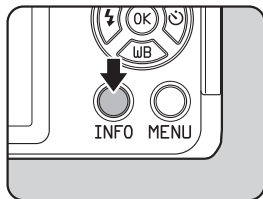
1 撮影モードで十字キー（◀）を押す

ストロボモードを設定する画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選ぶ

3 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

コントロールパネルで設定する

撮影時に画像モニターで設定を確認し、コントロールパネルに切り替えて設定を変更することができます。
ここでは「JPEG画質」を設定する場合を例に説明します。

1 撮影モードでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で変更する項目を選ぶ

変更できない項目は選択できません。

3 OKボタンを押す

選択した項目の設定画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）または電子ダイヤルで設定値を選ぶ

5 OK ボタンを押す

コントロールパネルに戻り、撮影できる状態になります。

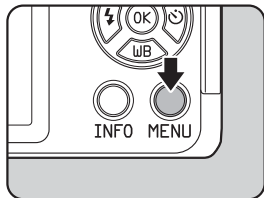
手順2で変更する項目が選択されている状態で、電子ダイヤルを回して設定を変更することもできます。パラメーターなどの詳細設定は、**OK** ボタンを押してから変更します。

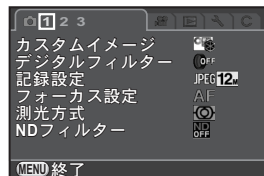
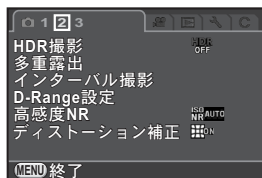
メニューで設定する

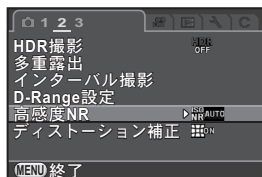
「撮影」／「動画」／「再生」／「詳細設定」／「**C** カスタム」メニューの操作方法を説明します。
ここでは「撮影2」メニューの「高感度NR」を設定する場合を例に説明します。

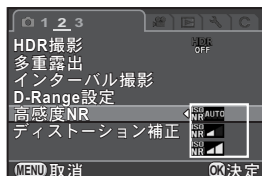
1 撮影モードでMENUボタンを押す

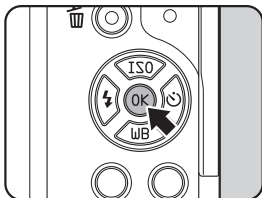
画像モニターに「撮影1」メニューが表示されます。
次のときは、それぞれ以下のメニューが表示されます。

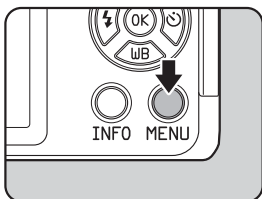
モードダイヤル	「動画1」メニュー
再生モード	「再生1」メニュー

2 十字キー（▶）を押す

1回押すごとに「撮影2」→「撮影3」→「動画1」・・・と順に切り替わります。
電子ダイヤルを回して切り替えることもできます。

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

ポップアップまたはサブメニューに設定できる項目が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

MENUボタンを押すと、ポップアップの取り消し、または1つ前の画面に戻ります。

6 OKボタンを押す

設定が決定されます。
サブメニューが表示されていたときは、**MENU**ボタンを押します。
続けて他の項目が設定できます。

7 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

MENU ボタンを押してメニュー画面を閉じても、電源を入れたままバッテリーを取り出したりするなど誤った操作で電源を切ると、設定は保存されません。

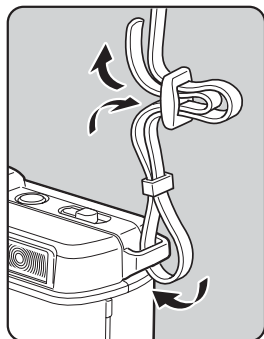
- 次にメニューを表示したときに、最後に選択したメニューのページから表示するか、常に「撮影1」から表示するかを設定することができます。(p.192)
- 各メニューの設定内容については、以下を参照してください。
  - 「撮影」メニュー ☞p.65
  - 「動画」メニュー ☞p.67
  - 「再生」メニュー ☞p.153
  - 「詳細設定」メニュー ☞p.184
  - 「C カスタム」メニュー ☞p.68
- 撮影機能の一部は、クイックダイヤルに登録しておいて、ダイヤル操作で呼び出すことができます。(p.138)

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮影するまでに必要な準備について説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に、操作をしてください。

ストラップを取り付ける 36
バッテリーをセットする 37
SDメモリーカードを入れる／取り出す 43
レンズを取り付ける 45
電源を入れる 47
初期設定をする 48

ストラップを取り付ける

1 ストラップの先端をカメラの吊り環に通し、留め具の内側に固定する

2 もう一方も同様に取り付ける

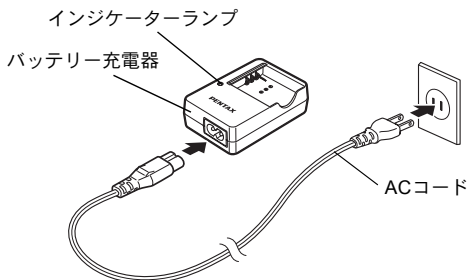
バッテリーをセットする

カメラにバッテリーをセットします。バッテリーはPENTAX Q専用のD-LI68を使用します。

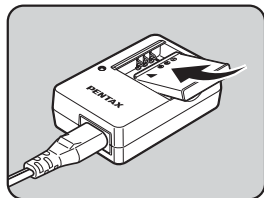
バッテリーを充電する

初めて使用するときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、バッテリーを充電してください。

1 バッテリー充電器にACコードを接続する

2 ACコードをコンセントに差し込む

3 バッテリーを ▲ マークがある面を上にしてセットする

充電中はインジケーターランプが点灯します。

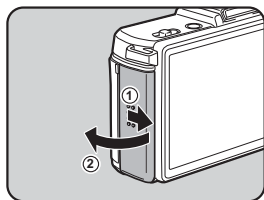
充電が完了すると、インジケーターランプが消灯します。

4 充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り外す

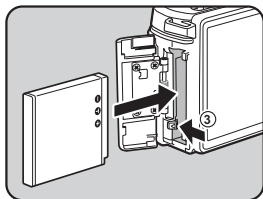
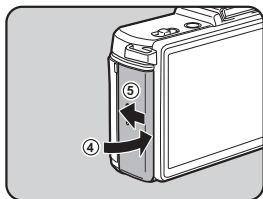
- 付属のバッテリー充電器D-BC68Pでは、専用の充電式リチウムイオンバッテリーD-LI68以外は充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- 次の場合は、新しいバッテリーと交換してください。
  - バッテリー充電器に正しくセットしてもインジケーターランプが点滅する、または点灯しない
  - 正しく充電しても使用できる時間が短い（バッテリーの寿命）

充電時間は、最大で約115分です（周囲の温度や充電状態によって異なります）。周囲の温度が0～40℃の範囲で充電してください。

バッテリーを入れる／取り出す

- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると、取り出せなくなる場合があります。また、バッテリーの電極は、乾いた柔らかい布でよく拭いてから入れてください。
- 電源が入っているときは、バッテリーカバーを開けたり、バッテリーを取り出したりしないでください。
- カメラを長時間連続で使用した場合、本体やバッテリーが熱くなっていることがありますので、ご注意ください。
- 長い間使わないときは、バッテリーを取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、バッテリーが液漏れをすることがあります。
- 長期間バッテリーをセットしていないと、日時がリセットされることがあります。その場合は、「日時を設定する」（p.50）の手順に従って設定し直してください。

1 バッテリーカバーを矢印の方向にスライドさせてから開く（①→②）

2 バッテリーの ▲ マークをカメラのレンズ側に向けて挿入する

バッテリーを取り出すときは、バッテリーロックレバーを矢印③の方向に手で押します。バッテリーが少し飛び出すので、引き抜いてください。

3 バッテリーカバーを閉じ、矢印の方向にスライドさせる（④→⑤）

バッテリー容量の確認

画像モニターでバッテリーの残量を確認することができます。

画像モニターの表示	バッテリーの状態
（緑）	バッテリーが十分に残っています。
（緑）	少し減っています。
（黄）	だいぶ減っています。
（赤）	残量がほとんどありません。
「電池容量がなくなりました」	メッセージ表示後、電源が切れます。

低温下や連続撮影を続けた場合、容量が十分に残っていても ／ （赤）が点灯することがあります。電源を入れ直してみて （緑）が表示されれば、そのまま使用できます。

リサイクルについて

このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。
ご使用済みの小型充電式電池を廃棄するときは、端子部に絶縁テープを貼って、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

撮影可能枚数と再生時間（バッテリーフル充電時）

バッテリー	使用温度	一般撮影	ストロボ撮影		再生時間
			使用率50％	使用率100％	
D-LI68	23℃	約250枚	約230枚	約210枚	約160分

撮影枚数（一般撮影、ストロボ使用率50％）はCIPA規格に準じた測定条件、その他については当社の測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

- 使用環境の温度が下がると、バッテリーの性能が低下します。寒冷地で使用する場合は、予備のバッテリーを用意して、衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、低温によって低下したバッテリーの性能は、常温の環境で元に戻ります。
- 海外旅行、寒冷地で撮影する場合や大量に撮影する場合は、予備のバッテリーをご用意ください。

ACアダプター（別売）を使用する

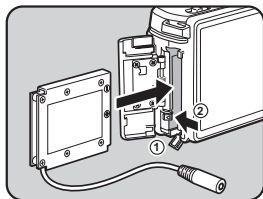
画像モニターを長時間使用するときや、パソコンやAV機器と接続するときは、ACアダプターキットK-AC115J（別売）のご使用をお勧めします。

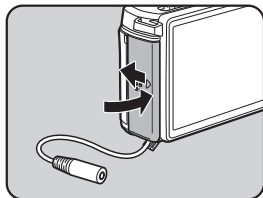
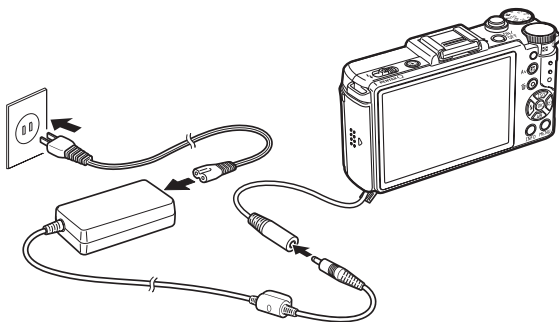
1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

2 バッテリーカバーを開ける

p.38の手順1を参照してください。
バッテリーがセットされていた場合は、バッテリーを取り出します。

3 バッテリー室下側の接続ケーブルカバー（①）を引き上げてからバッテリー室にDCカプラーを挿入する

DCカプラーを取り出すときは、バッテリーロックレバーを矢印②の方向に手で押します。DCカプラーが少し飛び出すので、引き抜いてください。

4 バッテリーカバーを閉める

接続ケーブルカバー部分から接続ケーブルを引き出します。

5 DCカプラーとACアダプターを接続する

6 ACアダプターをACコードに接続する

7 ACコードをコンセントに差し込む

- ACアダプターを接続または外すときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- 各端子はしっかりと接続してください。カメラがSDメモリーカードにアクセス中に接続部が外れると、SDメモリーカードやデータが破損する恐れがあります。
- ACアダプターを使用しているときは、バッテリーカバーから接続ケーブルが引き出された状態になります。カメラを机などに立てて置くことができませんので注意してください。
- DCカプラーを取り出したら、接続ケーブルカバーを元に戻してください。

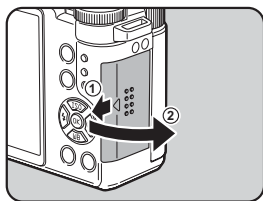
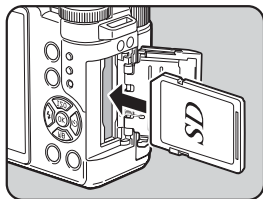
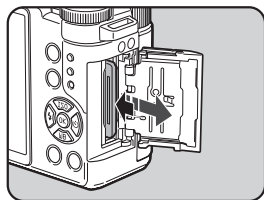
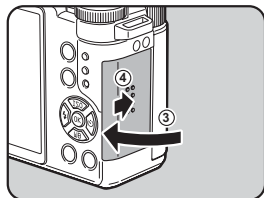
ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC115Jの使用説明書をあわせて参照してください。

SDメモリーカードを入れる／取り出す

このカメラでは、市販のSDメモリーカード／SDHCメモリーカード／SDXCメモリーカードが使用できます（本書では総称して「SDメモリーカード」と表記します）。
SDメモリーカードを入れるときや取り出すときは、必ず電源をOFFにしてください。

注意
- カードアクセスランプ点灯中は、絶対にSDメモリーカードを取り出さないでください。
- 電源が入っているときにカードカバーを開けると、電源が切れます。使用中にカバーを開けないでください。
- 未使用または他の機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットの方法については「SDメモリーカードをフォーマットする」（p.198）を参照してください。
- 動画を撮影する場合は、高速のSDメモリーカードを使用してください。書き込みが間に合わなくなると、撮影途中で終了する場合があります。

1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

2 カードカバーを矢印の方向にスライドさせてから開く（①→②）

3 SD メモリーカードのラベル面を画像モニター側に向け、奥まで押し込む

SDメモリーカードを取り出すときは、カードをさらに押し込みます。

4 カードカバーを閉じ、矢印の方向にスライドさせる（③→④）

メモ SDメモリーカードに記録できる撮影可能枚数の目安は、「撮影可能枚数の目安」（p.242）を参照してください。

レンズを取り付ける

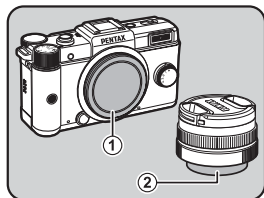
カメラ本体にレンズを取り付けます。
ここでは、01 STANDARD PRIMEレンズを使用して説明します。

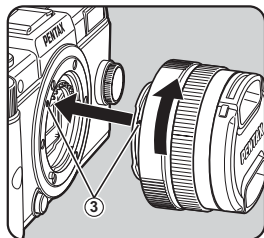
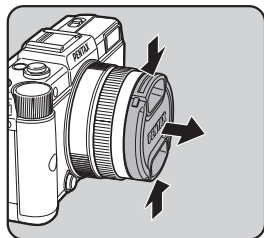
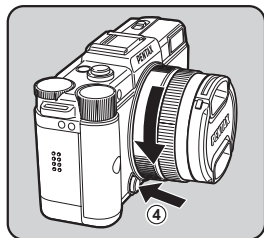
注意

- レンズの取り付け／取り外しは、ゴミやほこりの少ない場所で行ってください。
- 持ち運ぶときなどカメラ本体にレンズを取り付けていないときは、必ずボディマウントカバーを装着してください。
- 取り外したレンズには、必ずレンズマウントカバーとレンズキャップを取り付けてください。
- カメラのマウント内に指を入れたり、CMOS センサーを触ったりしないでください。
- カメラやレンズのマウント部分には、レンズ情報接点があります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系統のトラブルの原因になる場合があります。もし汚れたときは、弊社修理センターにご相談ください。
- 本製品に他社製レンズを使用されたことによる事故、故障、不具合などにつきましては保証いたしかねます。

1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

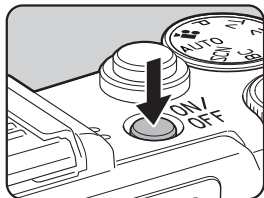
2 ボディマウントカバー（①）とレンズマウントカバー（②）を取り外す

レンズマウントカバーを外したレンズは、マウント周辺を傷つけないため、カメラに取り付ける面を上にして置いてください。

3 カメラとレンズのマウント指標（赤点、③）を合わせて差し込み、「カチッ」と音がするまでレンズを右に回してレンズを取り付ける

レンズ取り付け後、レンズを左に回して確実にロックされていることを確認してください。

4 図の矢印部分を内側に押してレンズキャップを取り外す

レンズを取り外すときはレンズキャップを取り付け、レンズ取り外しボタン（④）を押しながらレンズを左へ回します。

注意　電源が入っているときにレンズを取り外すと、画像モニターがオフになり、シャッターボタンがロックされます。電源が入っているときは、レンズの着脱をしないでください。

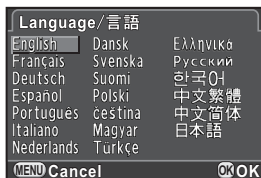
電源を入れる

1 電源ボタンを押す

電源が入ります。
もう一度電源ボタンを押すと電源が切れます。

- カメラを使用しないときは、必ず電源を切ってください。
- 一定時間操作をしないと、自動的に電源が切れます（オートパワーオフ）。自動的に電源が切れるまでの時間は、初期設定では1分間です。「🔧詳細設定2」メニューの「オートパワーオフ」で変更できます。（p.190）
- ▶ボタンを押しながら電源ボタンを押すと、再生モードで起動します。

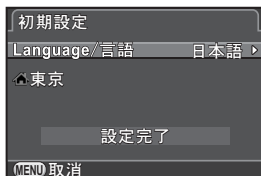
初期設定をする

工場出荷後にカメラの電源を初めて入れると、画像モニターに「Language/言語」画面が表示されます。以下の手順に従って、画像モニターに表示される言語と現在の日付や時刻を設定してください。一度設定すれば、次回電源を入れたときには、これらの設定は必要ありません。

日本語で「日時設定」画面が表示されたときは、「日時を設定する」(p.50)の手順に従って日時を設定してください。

言語を設定する

使用する言語を日本語に設定します。

1 十字キー(▲▼◀▶)で「日本語」を選択してOKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。
右図のように⌂が「東京」に設定されていたら、手順6に進んでください。

2 十字キー（▼）でカーソルを⌂に移動し、十字キー（▶）を押す

「⌂現在地」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で都市を「東京」にする

指定できる都市については、「都市名一覧」（p.189）を参照してください。

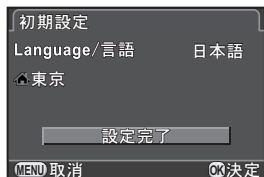
4 十字キー（▼）で「夏時間」を選び、十字キー（◀▶）で□（オフ）に設定する

5 OK ボタンを押す

「初期設定」画面に戻ります。

6 十字キー（▼）で「設定完了」を選び、OK ボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。

メモ

現在地や日時を設定していない場合は、電源を入れ直したときに再度「初期設定」画面または「日時設定」画面が表示されます。

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付、時刻を設定します。

1 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを選択する

年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択できます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で24h（24時間表示）／12h（12時間表示）を選択する

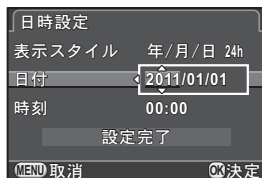
3 十字キー（▶）を押す

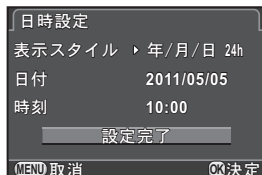
選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

4 十字キー（▼）を押してから十字キー（▶）を押す

選択枠が西暦年に移動します。

5 十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

同様に「月」「日」を設定します。
続いて時刻を設定します。
手順2で「12h」を選択した場合は、時刻に連動してAM／PMが切り替わります。

6 十字キー（▼）で「設定完了」を選び、OKボタンを押す

撮影モードになり、撮影できる状態になります。
メニュー操作で設定した場合は「🔧詳細設定1」メニューに戻るので、**MENU**ボタンを押してください。

日時設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされ、撮影できる状態になります。日時を設定しないまま次回電源を入れた場合に、初期設定が設定されていれば、最初に「日時設定」画面が表示されます。あとから日時をメニュー操作で設定することもできます。（p.187）

- 手順6で**OK**ボタンを押したときに、秒数は0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定ができます。
- 設定した言語や日時はメニュー操作で変更することができます。（p.187、p.190）

3 使ってみよう

この章では、簡単な操作で失敗のない写真が撮影できる方法として、モードダイヤルを**AUTO**（オートピクチャー）に設定した場合の基本操作について説明しています。

高度な機能や意図に合った撮影をするための設定については、4章以降を参照してください。

撮影の基本操作 54
ズームレンズを使う 56
内蔵ストロボを使う 57
画像を確認する 61

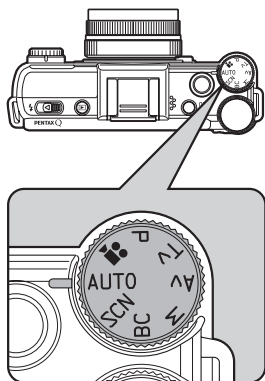
撮影の基本操作

カメラまかせで撮影する

本機には、様々な撮影モードやフォーカスモード、ドライブモードが備わっています。ここでは、基本的にシャッターボタンを押すだけの最も簡単な撮影方法を説明します。

1 モードダイヤルをAUTOに合わせる

被写体に最適な撮影モードをカメラが選択します。

☞撮影モードを選ぶ（p.69）

2 画像モニターで被写体を確認する

ズームレンズを使うと被写体の大きさを変えることができます。(p.56)

3 AF フレームの中に被写体を入れてシャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

ピントが合うと、AF フレームが緑になり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

AUTO（オートピクチャー）モードでは、（標準）／（人物）／（風景）／（マクロ）／（夜景人物）／（夕景）／（青空）／（フォレスト）から最適な撮影モードをカメラが自動的に選択します。（p.70）

4 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

この動作を「シャッターをきる」「レリーズ」といいます。

5 画像モニターで撮影した画像を確認する

撮影直後には、画像モニターに画像が1秒間表示されます（クイックビュー）。

☞クイックビューの表示を設定する （p.192）

クイックビュー表示中に、電子ダイヤルで拡大表示ができます。（p.155）

クイックビュー表示中に⦿/🗑ボタンを押すと、画像を消去できます。

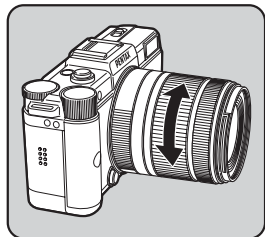
☞画像を消去する （p.62）

- シャッター音と合焦時の電子音を鳴らないように設定することもできます。（p.186）
- シャッターボタン半押しによる合焦動作を、⦿/🗑 ボタンで行うこともできます。（p.90）
- 撮影前に画像モニターにプレビューを表示して、被写界深度を確認できます。（p.94）

ズームレンズを使う

ズームレンズを使うと、写したいものを大きくしたり（望遠)、広い範囲で撮影したり（広角）自由に変えることができます。好みの大きさに合わせて撮影してください。

1 ズームリングを左右に回す

画角が変わります。

装着しているレンズによって、カメラ側で機能が設定できます。
- レンズに内蔵されたNDフィルターを使用するかどうか設定する（p.148）
- 歪曲収差を補正する（p.149）

内蔵ストロボを使う

背景が撮りたいものより明るい場合や逆光での撮影では、ストロボを使用して撮影します。
内蔵ストロボが有効なのは、被写体との距離がおおよそ0.7～3mの範囲です。0.7mより近いと、露出が正しく制御されず、ケラレ（撮影した写真の周辺部が配光不足で黒くなる現象）などが発生します。（この距離は使用するレンズや、ISO感度の設定によって多少異なります。（p.213））

内蔵ストロボの特徴や外付けストロボを使った撮影など、ストロボについての詳細は「ストロボの活用」（p.211）を参照してください。

ストロボモードを設定する

ストロボモード		機能
⚡A	自動発光	周りの明るさをカメラが自動的に測定し、ストロボの発光をカメラが判断します。
⚡A◉	自動発光＋赤目軽減	自動発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
⚡	強制発光	ストロボが常に発光します。
⚡◉	強制発光＋赤目軽減	強制発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
SLOW⚡	スローシンクロ	明るさによって、遅いシャッター速度に設定されます。夕景などを背景に人物撮影をするときに利用すると、人物も背景もきれいに写すことができます。
SLOW◉⚡	スローシンクロ＋赤目軽減	スローシンクロで発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
SLOW▶▶⚡	後幕シンクロ	シャッターの後幕が閉じる直前に発光するので、乗り物など動く被写体の光跡を、後ろに流れるように写し込むことができます。（p.213）
⊘	発光禁止	ストロボを発光しません。

撮影モードによって、選択できるストロボモードが異なります。

撮影モード	選択できるストロボモード
AUTO／SCN [*1]／BC	⚡A／⚡A◎／⚡／⚡◎／⊛
P／Av	⚡A／⚡A◎／⚡／⚡◎／SLOW⚡／SLOW◎⚡／SLOW▶▶⚡／⊛
Tv／M	⚡A／⚡A◎／⚡／⚡◎／SLOW▶▶⚡／⊛

*1 （夕景）／（青空）／（夜景）／（夜景HDR）／**HDR**（HDR）／（逆光シルエット）／（キャンドルライト）／（ステージライト）／（美術館）は、⊛固定

1 撮影モードで十字キー（◀）を押す

ストロボモードを設定する画面が表示されます。
設定されている撮影モードで選択できるストロボモードだけが表示されます。

2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選択してOKボタンを押す

撮影できる状態になります。

ストロボ光量を補正する

ストロボの光量を–2.0～+1.0の範囲で変えることができます。使用しているレンズによって設定ステップが1/3 EVか1/2 EVとなり、光量補正値は以下のようになります。

ステップ幅	光量補正値
1/3 EV	–2.0／–1.7／–1.3／–1.0／–0.7／–0.3／0.0／+0.3／+0.7／+1.0
1/2 EV	–2.0／–1.5／–1.0／–0.5／0.0／+0.5／+1.0

1 p.58の手順2の画面で十字キー（▼）を押す

2 電子ダイヤルを回す

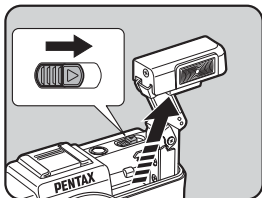
光量補正値が表示されます。
⦿/🗑 ボタンを押すと0.0にリセットされます。（「📷撮影3」メニューの「グリーンボタン」を「グリーンボタン」に設定しているときのみ有効（p.144））

- +側に補正しても、ストロボの最大発光量以上になると効果はありません。
- 被写体に近すぎる場合、絞り値が小さい場合、ISO感度を高く設定している場合などは、–側に補正をしても効果がないことがあります。
- ストロボ光量補正は、P-TTL対応の外付けストロボでも有効です。

ストロボを使って撮影する

1 ストロボモードを設定する

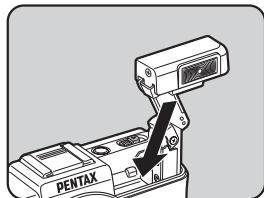
2 ストロボポップアップレバーを矢印の方向にスライドさせる

内蔵ストロボがポップアップします。

3 シャッターボタンを半押しする

ストロボの充電が始まります。

4 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

5 矢印の方向に押し下げ、内蔵ストロボを収納する

注意

- 内蔵ストロボは収納したままでも発光しますが、使用するレンズによってはケラレが発生することがあります。また、撮影条件によってもケラレが発生することがあります。
- 内蔵ストロボを使用しないときは、必ず収納してください。また、収納するときに指などを挟まないように注意してください。

- 内蔵ストロボを収納しているときに発光させたくない場合は、「**C** カスタム2」メニューの「10. ストロボ収納時の発光」（p.68）を「発光しない」に設定します。
- 内蔵ストロボの充電中は撮影ができません。充電中にも撮影をしたい場合は、「**C** カスタム2」メニューの「11. 充電中のレリーズ」（p.68）を「オン」に設定します。

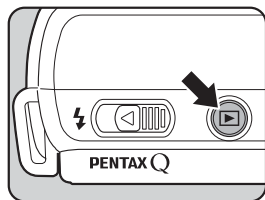
画像を確認する

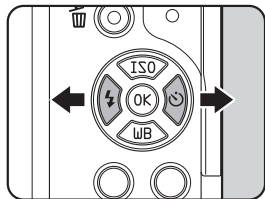
撮影した画像を再生する

撮影した画像をカメラで確認します。

1 ▶ボタンを押す

再生モードになり、最後に撮影した画像（ファイルNo.が一番大きい画像）が画像モニターに表示されます。

再生中に**INFO**ボタンを押すと、画像に関する撮影情報の表示が切り替わります。（p.25）

2 十字キー（◀▶）を押す

◀：前の画像を表示
▶：次の画像を表示

- 再生モード機能の詳細は、「いろいろな再生」（p.151）を参照してください。
- JPEG形式で撮影した直前の画像のRAW画像が撮影バッファに残っている場合は、クイックビューまたは再生時に☒Avボタンを押してRAW画像を追加保存することができます。
  以下の機能を設定して撮影した場合は、それぞれ次の画像が保存されます。
  - デジタルフィルター　　フィルターオフのRAW画像
  - スマートエフェクト　　画像仕上「鮮やか」のRAW画像

  連続撮影、ブラケット撮影では、RAW画像の追加保存はできません。

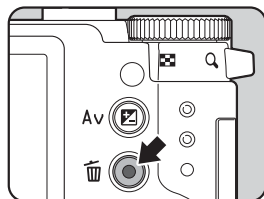
画像を消去する

画像を1つずつ消去します。

- 消去した画像は復元できません。
- プロテクトされている画像は消去できません。（p.199）

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で消去したい画像を選ぶ

2 ◉/🗑ボタンを押す

消去画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「消去」を選ぶ

RAW+で保存した画像は、どの記録形式の画像を消去するか選択します。

JPEG消去	JPEG画像のみ消去
RAW消去	RAW画像のみ消去
RAW+JPEG消去	両形式とも消去

4 OKボタンを押す

画像が消去されます。

メモ

複数の画像をまとめて消去することもできます。「複数画像を消去する」（p.165）を参照してください。

4 いろいろな撮影

この章では、撮影の基本から応用まで、本機でできる様々な撮影方法を説明しています。

撮影関連機能の操作 64

撮影モードを選ぶ 69

露出を設定する 75

ピントを合わせる 86

被写界深度を確認する（プレビュー）.................... 94

手ぶれを防いで撮影する 96

連続して撮影する 102

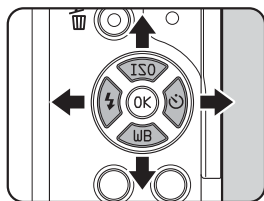
動画を撮影する 109

撮影関連機能の操作

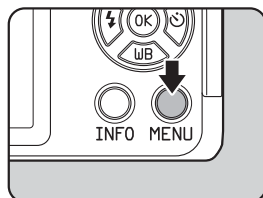
撮影に関する機能は、ダイレクトキー／コントロールパネル／「撮影」メニュー／「動画」メニュー／「Cカスタム」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」（p.32）を参照してください。

ダイレクトキーの設定項目

撮影モードで十字キー（▲▼◀▶）を押すと、以下の項目が設定できます。

キー	項目	機能	参照
▲	ISO感度	ISO感度を設定します。	p.75
▼	ホワイトバランス	被写体の色を光源に合った適正な色に補正します。	p.124
◀	ストロボモード	ストロボの発光方式を設定します。	p.57
▶	ドライブモード	連続撮影／セルフタイマー／リモコン／露出ブラケットを選択します。	p.102 p.98 p.100 p.80

撮影メニューの設定項目

「📷 撮影1～3」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影モードで**MENU**ボタンを押すと、「📷撮影1」メニューが表示されます。

メニュー	項目		機能	参照
📷1	カスタムイメージ *1		色味やコントラストなどの画像の仕上がり具合を設定します。	p.131
	デジタルフィルター *1		フィルター効果をかけて撮影します。	p.135
	記録設定	記録形式 *1	ファイルフォーマットを設定します。	p.120
		アスペクト比 *1	画像の横：縦の比率を設定します。	
		JPEG記録サイズ *1	JPEGで記録した場合の記録サイズを設定します。	
		JPEG画質 *1	JPEGで記録した場合の画質を設定します。	
		色空間	使用する色空間を設定します。	
	フォーカス設定	フォーカスモード *1	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを選択します。	p.86
		AF方式 *1	**AF**モードでのオートフォーカスの方法を選択します。	p.87
		MFアシスト	マニュアルフォーカス時の画像モニターの表示を拡大してピントを合わせやすくします。	p.93
	測光方式 *1		センサーのどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	p.84
	NDフィルター *1		レンズに装着されたNDフィルターを使用するかどうか設定します。	p.148

メニュー	項目	機能	参照
2	HDR撮影 *1	ハイダイナミックレンジ撮影を行います。	p.130
	多重露出	任意の枚数を1枚の画像に合成しながら撮影します。	p.107
	インターバル撮影	指定した時刻から等間隔で自動撮影します。	p.104
	D-Range設定 *1	ダイナミックレンジを拡大し、白とび・黒つぶれを防ぎます。	p.128 p.129
	高感度NR	高感度撮影時のノイズリダクションを設定します。	p.85
	ディストーション補正	レンズの特性によって生じる歪曲収差を軽減します。	p.149
3	クイックダイヤル	クイックダイヤルに機能を割り当てます。	p.138
	グリーンボタン	⦿/🗑ボタンに機能を割り当てます。	p.144
	画面設定	撮影モードでの画像モニターの表示を設定します。	p.191
	クイックビュー	クイックビューの表示を設定します。	p.192
	モードメモリ	電源を切ったときに設定を保存しておく項目を選択します。	p.195
	Shake Reduction *1	手ぶれ補正機能を設定します。	p.96

*1 コントロールパネルで設定することもできます。

動画メニューの設定項目

「動画1」メニューでは、以下の設定を行います。
モードダイヤルが のときに**MENU**ボタンを押すと、「動画1」メニューが表示されます。

メニュー	項目	機能	参照
1	記録サイズ *1	動画の記録サイズを設定します。	p.109
	音声 *1	動画と一緒に音声を録音するかどうかを設定します。	
	露出設定	露出をマニュアルで設定するかどうかを選択します。	
	Movie SR *1	手ぶれ補正機能を設定します。	
	インターバル動画	指定した時刻から一定間隔で静止画を撮影し、1つの動画ファイルとして記録します。	p.113

*1 コントロールパネルで設定することもできます。

カスタムメニューの設定項目

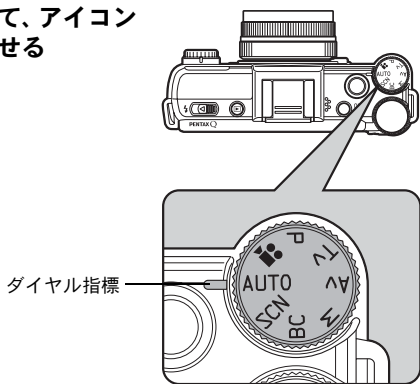
「**C**カスタム1～2」メニューでは、本機の機能を生かして撮影するための設定を行います。

メニュー	項目	機能	参照
C1	1. AFロック時のAE-L	フォーカスロック時に露出値も固定するかどうかを設定します。	p.83
	2. 測距点と露出の関連付	分割測光時に露出値とAFエリア内の測距点を関連付けるかどうかを設定します。	p.84
	3. ブラケット撮影順	露出ブラケット撮影時の撮影順を設定します。	p.80
	4. Shake Reductionの動作	撮影待機中も手ぶれ補正するかどうかを設定します。	p.97
	5. ストロボ発光時のWB	ストロボ発光時のホワイトバランスの設定を行います。	p.125
	6. 白熱灯下のAWB	ホワイトバランスが **AWB** のときに、白熱灯の色味を残すか補正するかを設定します。	—
	7. AFの動作	**AF** モードでシャッターボタンを全押ししたときの優先動作を設定します。	p.88
C2	8. AF補助投光	暗い場所でオートフォーカスするときに、AF補助投光を行うかどうかを設定します。	p.87
	9. リモコン時のAF	リモコン撮影するときに、オートフォーカスするかどうかを設定します。	p.101
	10. ストロボ収納時の発光	内蔵ストロボを収納したまま発光させるかどうかを設定します。	p.60
	11. 充電中のレリーズ	内蔵ストロボの充電中に撮影可能にするかどうかを設定します。	p.60
	12. メニュー選択の記憶	直前に操作したメニューを記憶し、次に **MENU** ボタンを押したときも同じ画面を表示するかどうかを設定します。	p.192
	13. 電子シャッターの併用	シャッター内蔵レンズを使用しているときに、電子シャッターを併用するかどうかを設定します。	p.226
	カスタムのリセット	「**C**カスタム1～2」メニューの各項目の設定内容を初期状態に戻します。	p.196

撮影モードを選ぶ

本機には多彩な撮影モードがあります。用途に合わせて、撮影モードを選択してください。
本書では撮影モードを以下のように呼びます。

撮影モード	種類	参照
AUTO（オートピクチャー）モード	カメラが自動的に最適な撮影モードを選択します。	p.70
SCN（シーン）モード	様々な撮影シーンから撮影モードを選択します。	p.71
BC（ボケコントロール）モード	ボケ味を表現して撮影します。	p.73
露出モード（**P**／**Tv**／**Av**／**M**）	シャッター速度と絞り値を設定して撮影します。	p.74
（動画）モード	動画を撮影します。	p.111

1 モードダイヤルを回して、アイコンをダイヤル指標に合わせる

画像モニターに選択した撮影モードが表示されます。（ガイド表示）

- ガイド表示については、「🔧詳細設定 1」メニューの「ガイド表示」で設定します。（p.191）
- モードダイヤルをSCNに合わせたときは、シーンモードを選択する画面が表示されます。（p.72）

オートピクチャーモード

AUTO（オートピクチャー）モードでは、カメラが以下の撮影モードの中から最適なモードを自動的に選択します。

モード	特徴
標準	以下の7つのモードに該当しない場合に選択されます。
人物	人物の撮影時に選択されます。肌の色が健康的に仕上がります。
風景	風景の撮影時に選択されます。木々の緑の彩度が強調され、鮮やかな色の画像に仕上がります。
マクロ	被写体に近づいた撮影で選択されます。花などが鮮やかに撮影されます。
夜景人物	夕暮れや夜景を背景とした人物の撮影時に選択されます。 ストロボを使用しても、ストロボの光が届かない背景を写し込むためにシャッター速度が遅くなります（☞スローシンクロ（p.212））。手ぶれ補正機能を使用するか、三脚などを使用して手ぶれしないように注意してください。
夕景	夕焼けや朝焼けの撮影時に選択されます。
青空	青空の撮影時に選択されます。青空が深い青で印象的に表現されます。
フォレスト	木漏れ日や木々の緑を鮮やかに表現します。

シーンモード

モードダイヤルをSCN（シーン）に合わせると、次の撮影シーンから選択して撮影できます。

モード	特徴
人物	人物の撮影に適しています。肌の色を健康的に仕上げます。
風景	木々の緑の彩度を強調して鮮やかな色に仕上げます。
マクロ	近くにある花などを鮮やかに撮影できます。
動体	スポーツなど動きのある被写体に適しています。 ドライブモードは（連続撮影（Hi））に固定されます。
夜景人物	夕暮れや夜景を背景とした人物撮影に適しています。ストロボを使用しても、ストロボの光が届かない背景を写し込むためにシャッター速度が遅くなります（☞スローシンクロ（p.212））。手ぶれ補正機能を使用するか、三脚などを使用して手ぶれしないように注意してください。
夕景	夕焼けや朝焼けの写真を美しく仕上げます。
青空	青空を深い青で印象的に表現します。
夜景	夜景撮影に最適です。三脚などで固定して撮影してください。
夜景HDR	暗いところでスナップ写真を撮影するときに、3枚の画像を合成してノイズを抑えて仕上げます。
ナイトスナップ	暗いところでスナップ写真を撮影するのに適しています。
料理	料理の撮影に適しています。彩度をやや高めにし、色鮮やかに仕上げます。
テーブルフォト	テーブルの上の小物の撮影に適しています。
ペット	動き回るペットを撮影するのに適しています。 ドライブモードは（連続撮影（Hi））に固定されます。
キッズ	動きの多い子供を撮影するのに適しています。肌の色を健康的に仕上げます。 ドライブモードは（連続撮影（Hi））に固定されます。
フォレスト	木漏れ日や木々の緑を鮮やかに表現します。
サーフ&スノー	砂浜や雪山など背景の明るい場所での写真をきれいに仕上げます。
HDR HDR	3枚の画像を合成して幅広い階調を表現します。
逆光シルエット	逆光時に被写体がシルエットになるように仕上げます。

モード	特徴
キャンドルライト	キャンドルライトの雰囲気を生かして撮影します。
ステージライト	暗いところで動きのある被写体を撮影するのに適しています。
美術館	美術館などストロボを発光させたくない場所での撮影に適しています。

注意
／／／／HDR／／／／では、ストロボは（発光禁止）になります。「Shake Reduction」をオンに設定するか、三脚などを使用して手ぶれしないように注意してください。

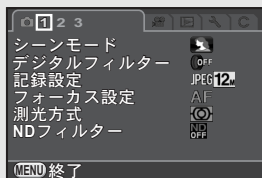
撮影シーンを選ぶ

1 モードダイヤルをSCNに合わせる

SCNモードになり、シーンモードを選択する画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）または電子ダイヤルでシーンを選択し、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

- シーンモードを変更するときは**INFO**ボタンを押し、コントロールパネルで「シーンモード」を選択します。
- モードダイヤルをSCNに合わせて**MENU**ボタンを押すと、「撮影1」メニューに「シーンモード」が表示されます。十字キー（▶）を押すと、手順2と同じ画面が表示され、シーンが選択できます。

ボケコントロールモード

ピント位置が異なる画像を合成し、絞りを開いて被写界深度を浅くしたような画像を撮影することができます。従来のコンパクトカメラでは難しかったボケ味を表現することができます。

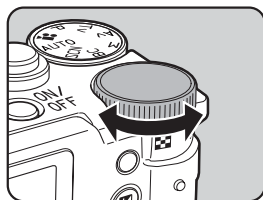
BCモードは以下の設定で撮影されます。

• 露出制御	絞り開放優先
• ISO感度	AUTO固定
• 記録形式	JPEG固定

1 モードダイヤルをBCに合わせる

BCモードになります。

2 電子ダイヤルを回す

3段階で調節できます。
ボケ具合は、再生モードで確認してください。

注意

- 撮影中はカメラを動かさないでください。
- 手持ちで撮影する場合は、「Shake Reduction」をオンに設定してください。
- AFレンズ以外では、十分な効果が得られません。
- 以下の機能は使用できません。
  - 連続撮影／リモコン連続撮影／露出ブラケット
  - 多重露出
  - HDR撮影
  - スマートエフェクト
  - クイックビュー
- 以下の条件では、ボケの効果がうまく表現できません。
  - 全体のコントラストが低いとき
  - 噴水など、色や形が常に変化しているもの
  - 動いているもの
  - 小さなもの
  - 被写体が画面の端にあるとき
  - 逆光またはそれに近いとき
  - 特殊なフィルターを使用しているとき
  - 遠い被写体（ポートレートのバストアップ程度の距離を推奨）

露出モード

シャッター速度と絞り値を任意に変更して撮影します。

モード		特徴	参照
P	プログラム	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	p.76
Tv	シャッター優先	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使用します。	
Av	絞り優先	絞り値を任意の値に設定して撮影します。	
M	マニュアル	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、より撮影意図に合った画作りをしたいときに使用します。	

露出を設定する

ISO感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、ISO感度を設定します。
ISO感度は、「AUTO（自動調整)」か、ISO 125～6400相当の間で1/3 EVステップで設定できます。初期設定は「AUTO」です。

1 撮影モードで十字キー（▲）を押す

ISO感度を設定する画面が表示されます。

2 十字キー(▲▼)でISO AUTO／ISOを選択する

ISO AUTO	自動調整する範囲を設定
ISO	固定値を設定

3 電子ダイヤルでISO感度を変更する

4 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

- 撮影モードがSCN（シーン）モードの（夜景HDR）／（ナイトスナップ）／**HDR**（HDR）／（ステージライト）に設定されているときは、ISO感度はAUTO固定になり、変更できません。
- モードダイヤルが**M**（マニュアル）のときは、「ISO AUTO」は表示されません。また、ISO感度がAUTOの設定でモードダイヤルを**M**にした場合は、ISO感度は最後に設定した固定値に設定されます。
- 「ハイライト補正」（p.128）をオンに設定すると、最低感度はISO 250になります。
- ISO感度を高感度に設定するほど、撮影画像にノイズが発生しやすくなります。「撮影2」メニューの「高感度NR」でノイズ軽減について設定できます。（p.85）

ダイナミックレンジを拡大する

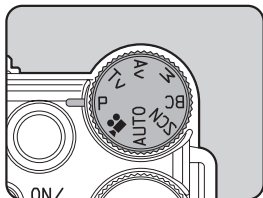
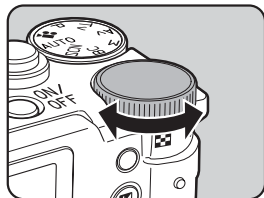
ダイナミックレンジとは、CMOSセンサーの画素が明部から暗部でどのくらい階調表現できるかを表した比率のことで、大きいほど明るい部分から暗い部分まできれいに表現できます。
ダイナミックレンジを拡大すると、表現できる階調の幅が広がり、白とびが起こりにくくなります。
ダイナミックレンジを拡大する場合は、「撮影2」メニューの「D-Range設定」で設定します。（p.128）

露出モードを切り替える

本機には、4つの露出モードが用意されています。
各露出モードで設定できる項目は以下のとおりです。

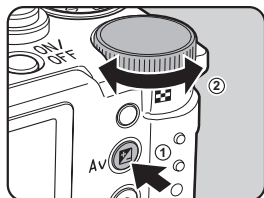
露出モード	露出補正	シャッター速度変更	絞り値変更	ISO感度変更
P プログラム	○	△*1	△*1	○
Tv シャッター優先	○	○	×	○
Av 絞り優先	○	×	○	○
M マニュアル	×	○	○	AUTO以外

*1「撮影3」メニューの「グリーンボタン」で、電子ダイヤルでシャッター速度または絞り値が変更できるように設定できます。（p.146）

1 モードダイヤルをP／Tv／Av／Mに合わせる

2 電子ダイヤルを回して設定を変更する

画像モニターには、変更できる数値の前に▶が表示されます。
選択した露出モードによって、以下の設定が調整できます。

P	「📷撮影3」メニューの「グリーンボタン」で設定した項目（p.146）
Tv	シャッター速度
Av	絞り値
M	シャッター速度

3 M モードの場合は、☑Av ボタン（①）を押してから電子ダイヤル（②）を回して絞り値を変更する

P／**Tv**／**Av**モードでは、この操作で露出補正ができます。（p.79）

- ISO感度を固定値で設定する（p.75）と、設定したシャッター速度／絞り値で適正露出が得られない場合があります。
- 明るすぎるときは、別売の減光（ND）フィルターをお使いください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。
- **M**モードでは、シャッター速度／絞り値調整中に適正露出との差がバーグラフで表示されます。適正露出との差が±3.0 以上になると、数字が赤で表示されます。
- **M**モードのときの⦿/🗑ボタンの機能を、「📷撮影3」メニューの「グリーンボタン」で設定できます。（p.147）
- **Tv**／**M**モードでシャッター速度を2秒より長い速度に設定したときは、ISO 1600より高いISO感度は使用できません。

バルブ撮影を利用する

花火や夜景などの撮影で、長時間シャッターを開きたいときに利用します。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 電子ダイヤルを左（▣）に回してシャッター速度をBulbにする

Bulb は、シャッター速度の最も遅い側にあります。

3 シャッターボタンを押す

シャッターボタンを押している間、シャッターが開きます。

- レンズシャッター内蔵のレンズを使用しているときのみ、バルブ撮影ができます。
- バルブ撮影では、以下の機能は使用できません。
  - 露出補正
  - 露出ブラケット
  - AEロック
  - 連続撮影
  - インターバル撮影
  - HDR撮影
  - Shake Reduction
- 露光時間が32秒を超えると、撮影は強制的に終了します。

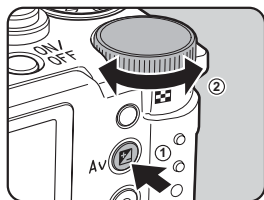
- バルブ撮影をするときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用してください。
- バルブ撮影のISO感度の上限は、ISO 1600です。
- バルブ撮影ではバッテリーを消費しますので、長時間露光の際にはACアダプターキットK-AC115J（別売）のご使用をお勧めします。（p.40）

露出を補正する

意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）で撮影することができます。
補正値は－3～＋3 EVの範囲で、使用しているレンズによって1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。

ステップ幅	露出設定値
1/3 EV	±0.3／±0.7／±1.0／±1.3／±1.7／±2.0／±2.3／±2.7／±3.0
1/2 EV	±0.5／±1.0／±1.5／±2.0／±2.5／±3.0

1 Av ボタン（①）を押してから電子ダイヤル（②）を回す

露出が補正されます。

補正中は画像モニターに露出バーが表示されます。
Avボタンを押すと、露出バーの表示が消えます。

露出バー

- 撮影モードが**M**（マニュアル）モードのときは、露出補正はできません。
- 電源を切ったり、他の撮影モードにしても露出補正は解除されません。
- 「撮影3」メニューの「グリーンボタン」を「グリーンボタン」に設定しているとき（p.144）に⦿/🗑ボタンを押すと、補正値は0.0にリセットされます。

露出を自動的に変化させて撮影する（露出ブラケット）

シャッターボタンを押したときに、露出が異なる画像を連続して3枚撮影できます。1回のレリーズで3枚の画像が保存されます。

標準露出

アンダー露出

オーバー露出

撮影される順番は「**C** カスタム1」メニューの「3. ブラケット撮影順」（p.68）で設定します。初期設定では、1枚目は補正なし、2枚目はアンダー露出（マイナス補正）、3枚目はオーバー露出（プラス補正）の順に画像を撮影します。

1	0 – +	標準 → アンダー → オーバー（初期設定）
2	– 0 +	アンダー → 標準 → オーバー
3	+ 0 –	オーバー → 標準 → アンダー
4	0 + –	標準 → オーバー → アンダー

注意

- 以下のときは、露出ブラケット撮影はできません。
  - 撮影モードがSCN（シーン）モードの（動体）／（夜景HDR）／（ペット）／（キッズ）／**HDR**（HDR）に設定されているとき
  - シャッター速度が**Bulb**に設定されているとき
  - HDR撮影が設定されているとき
- インターバル撮影／多重露出との併用はできません。（あとから設定した機能が有効）

1 撮影モードで十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でを選ぶ

3 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で[露出ブラケット]／[露出ブラケット+リモコン]を選ぶ

[icon]	露出ブラケット	シャッターボタンで撮影します。
[icon]	露出ブラケット +リモコン	別売のリモコンで撮影します。 リモコンの動作はリモコン撮影（p.100）の設定に従います。[icon]（リモコン連続撮影）に設定されている場合は、即レリーズになります。

4 十字キー（▼）を押してから電子ダイヤルを回し、ブラケット幅を設定する

ブラケット幅は、使用しているレンズによって1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。

ステップ幅	ブラケット幅
1/3 EV	±0.3／±0.7／±1.0／±1.3／±1.7／±2.0／±2.3／±2.7／±3.0
1/2 EV	±0.5／±1.0／±1.5／±2.0／±2.5／±3.0

ボタン・ダイヤル等の操作

[icon]Avボタン →電子ダイヤル	露出補正（オーバー方向またはアンダー方向のみの露出ブラケット撮影を行う場合）
⦿/[icon]ボタン	補正値をリセット （「[icon] 撮影3」メニューの「グリーンボタン」を「グリーンボタン」に設定しているときのみ有効（p.144））

5 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

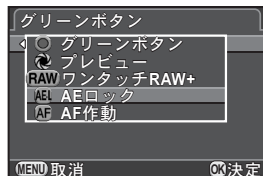
- 「AF方式」（p.87）がセレクト（25点）／セレクト／スポットに設定されているときは、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- 露出ブラケットを解除したいときは、ドライブモードの設定画面で■／■以外のモードに切り替えてください。なお「■撮影3」メニューの「モードメモリ」（p.195）で「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに設定が解除されます。
- 内蔵ストロボ、または外付けストロボ（P-TTLオートの場合のみ）と露出ブラケット撮影を併用することで、ストロボの光量だけを連続的に変化させることができます。

露出を記憶させる（AEロック）

AEロックは、撮影前の露出（明るさ）を記憶させる機能です。撮りたいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときや、逆光撮影のときなどに利用してください。
まず、⦿/🗑ボタンにAEロックの機能を割り当てます。

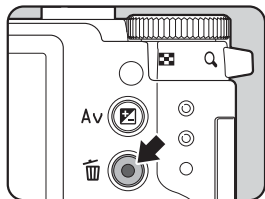
1 「■撮影3」メニューの「グリーンボタン」を選び、十字キー（▶）を押す

「グリーンボタン」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で「AEロック」を選択してOKボタンを押す

3 MENUボタンを2回押す

⦿/🗑ボタンにAEロックが割り当てられ、撮影できる状態になります。

4 露出を設定し、⦿/🗑ボタンを押す

その時点の露出をカメラが記憶します。
AEロック中は、画像モニターに✱が表示されます。

- ⦿/🗑ボタンを押し続けたり、シャッターボタンを半押ししている間は露出が記憶され続けます。
- AEロック時は電子音が鳴ります。電子音を鳴らないように設定することもできます。（p.186）
- 次のいずれかの操作を行うと、AEロックは解除されます。
  - 再度⦿/🗑ボタンを押す
  - ▶ボタン／**MENU**ボタン／電源ボタンのいずれかを押す
  - モードダイヤルを回す
  - レンズを交換する
- シャッター速度が**Bulb**に設定されているときは、AEロックは利用できません。
- フォーカスロック時は、AEロックされます。フォーカスロック時にAEロックさせたくない場合は、「**C**カスタム1」メニューの「1. AFロック時のAE-L」（p.68）を「オフ」に設定します。
- **M**（マニュアル）モードでは、AEロックした状態でシャッター速度／絞り値を変更すると、露出値を保持したままシャッター速度と絞り値の組み合わせが変化します。例えばシャッター速度1/125秒・絞り値F 4でAEロックし、シャッター速度を1/30秒に変更した場合、絞り値はF 8に変化します。
- 焦点距離によって開放F値が変わるズームレンズでは、AEロック中でもズームを動かすことで、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変わります。ただし露光量は変わりませんので、AEロックした時点の明るさで画像は撮影されます。

測光方式を選択する

センサーのどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。次の3つの測光方式が用意されています。

分割測光	センサーを分割して明るさを測定します。（初期設定） 逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるかを自動的に判断し、補正します。
中央重点測光	センサー中央部分に重点を置いて測光します。 中央部分ほど感度が高く、逆光の場合でも自動補正は行われません。
スポット測光	センサー中央の限られた狭い範囲の明るさだけを測光します。 撮影したいものが非常に小さく、適正な露出を得るのが難しいときは、AEロック機能（p.82）と組み合わせて利用すると便利です。

1 撮影モードでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「測光方式」を選択し、OKボタンを押す

「測光方式」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で測光方式を選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- メニューから設定するときは、「撮影1」メニューで設定します。
- 「Cカスタム1」メニューの「2. 測距点と露出の関連付」（p.68）で、分割測光時に露出値とAFエリア内の測距点（ピントを合わせた位置）を関連付けることができます。

ノイズを減らす（ノイズリダクション）

デジタルカメラは、次のようなときに画像にノイズ（画像のざらつきやムラ）が目立つようになります。

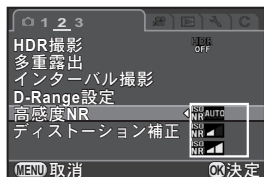
- 長時間露光のとき
- ISO感度を高く設定しているとき
- CMOSセンサーが高温になっているとき

ノイズリダクションを設定すると、ノイズを低減させることができます。

高感度NR

ISO高感度時のノイズリダクション処理を設定します。

1 **「撮影2」メニューの「高感度NR」を選び、十字キー（▶）を押す**

2 **十字キー（▲▼）でオート／弱／強を選択し、OK ボタンを押す**

オート	ISO感度の設定に応じて最適なノイズリダクションを行います。（初期設定）
弱／強	ISO感度の設定に関係なく、一定のノイズリダクションを行います。

3 **MENUボタンを押す**

撮影できる状態になります。

ノイズリダクション処理中はカードアクセスランプが点滅し、操作はできません。

ピントを合わせる

フォーカスモードを設定する

ピント合わせの方法には、以下の2つあります。

AF オートフォーカス	シャッターボタンを半押しすると自動的にピントを合わせます。
MF マニュアルフォーカス	マニュアルでピントを調整します。

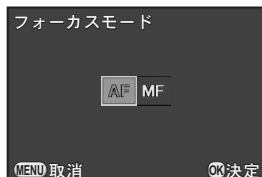
1 撮影モードでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「フォーカスモード」を選択し、OKボタンを押す

「フォーカスモード」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でフォーカスモードを選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

AF モードの撮影方法は、「カメラまかせで撮影する」（p.54）を参照してください。

MF モードの撮影方法は、「マニュアルでピントを調整する （マニュアルフォーカス）」（p.92）を参照してください。

- メニューから設定するときは、「撮影 1」メニューの「フォーカス設定」(p.65)で設定します。
- 撮影モードが AUTO(オートピクチャー)/BC(ボケコントロール)モード、または SCN(シーン)モードの(動体)/(ナイトスナップ)/(テーブルフォト)/(ペット)/(キッズ)/(ステージライト)に設定されているときは、AF に固定されます。
- AF モードでは、被写体が暗い場合にシャッターボタンを半押しすると、AF補助光が発光します。補助光を発光させたくない場合は、「C カスタム2」メニューの「8. AF補助投光」(p.68)を「オフ」に設定します。

オートフォーカスの方法を設定する

AF モードでのオートフォーカスの方法を以下の5つから選択できます。

顔検出	人物の顔を検出し、追尾します。最大12個の顔を検出できます。AF・AEの対象となるメインの顔検出枠は黄色で表示されます。 ピントが合っていなくても、シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
追尾	シャッター半押しでピントが合った被写体を追尾します。 ピントが合っていなくても、シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
セレクト(25点)	任意のエリアにピントを合わせます。(初期設定) センサーを25分割(横5×縦5)し、AFエリアを任意の範囲に設定します。AFエリアの大きさは、25分割中の25/9/5/3/1個のサイズが選択できます。(p.89)
セレクト	ピクセル単位でAFエリアを設定できます。「セレクト(25点)」よりも細かく設定ができます。
スポット	中央の限られた範囲にピントを合わせます。

1 撮影モードでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー(▲▼◀▶)で「AF方式」を選択し、OKボタンを押す

「AF方式」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でAF方式を選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- メニューから設定するときは、「撮影 1」メニューの「フォーカス設定」（p.65）で設定します。
- 撮影モードが AUTO（オートピクチャー）に設定されているとき、または SCN（シーン）モードの（キッズ）は、に固定されます。
- 撮影モードがSCN（シーン）モードの（動体）／（ナイトスナップ）／（ペット）／（ステージライト）に設定されているときは、に固定されます。
- セレクト(25点)／セレクト／スポットは、ピントが合っているときだけシャッターボタン全押しで撮影ができます。ピントが合っていなくても撮影したいときは、「C カスタム1」メニューの「7. AFの動作」(p.68）で「レリーズ優先」に設定します。

任意の範囲にピントを合わせる

オートフォーカスするエリア（AFエリア）を任意の位置・範囲に設定します。

1 p.88の手順3でセレクト（25点）／セレクトを選択し、OKボタンを押す

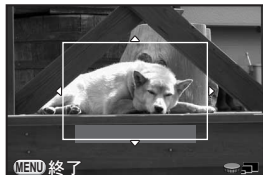
コントロールパネルに戻ります。

2 INFOボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

3 OKボタンを押す

AFエリアが変更できる状態になります。

4 AFエリアを指定する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	AFエリアを移動
電子ダイヤル右（Q）	（セレクト（25点））AFエリアを拡大
電子ダイヤル左（⊞）	（セレクト（25点））AFエリアを縮小
OKボタン	AFエリアを中央に戻す

5 MENUボタンを押す

AFエリアが確定します。

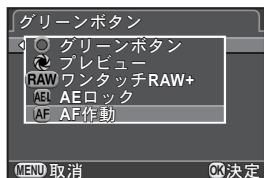
設定したAFエリアは、AF方式を変更したり、電源を切っても記憶されています。

⦿/🗑 ボタンでピントを合わせる

⦿/🗑 ボタンを押したときにピント合わせをするように設定できます。シャッターボタンの半押しによるオートフォーカス操作がわずらわしい場合などに利用してください。
まず、⦿/🗑 ボタンにAF作動の機能を割り当てます。

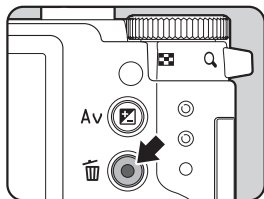
1 「📷撮影3」メニューの「グリーンボタン」を選び、十字キー（▶）を押す

「グリーンボタン」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で「AF作動」を選択してOKボタンを押す

3 MENUボタンを2回押す

⦿/ 🗑ボタンにAF作動が割り当てられ、撮影できる状態になります。

4 画像モニターで被写体を確認し、⦿/🗑 ボタンを押す

合焦動作が行われます。

注意

- ⦿/🗑ボタンにAF作動を割り当てると、シャッター半押しでのAF作動は無効になります。
- 撮影モードが BC（ボケコントロール）モード、または SCN（シーン）モードの 🍽（テーブルフォト）に設定されているときは、必ず⦿/🗑ボタンで合焦動作をしてください。ピントが合っていないと、ボケの効果が得られません。

ピントを固定する（フォーカスロック）

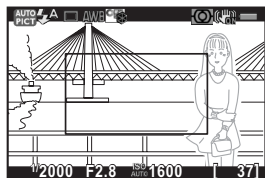
オートフォーカスでピントを調整するときに、ピントを合わせたいものがAFエリアの範囲外にあると、被写体にピントを合わせることができません。そのような場合は、いったんAFエリアの範囲内で被写体にピントを合わせて固定（フォーカスロック）し、画像の構図を変えて撮影します。

1 フォーカスモードをAFに設定する

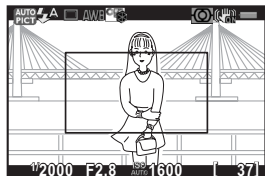
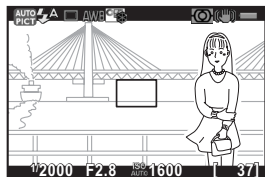
「フォーカスモードを設定する」（p.86）を参照してください。

2 AF方式をセレクト（25点）／セレクト／スポットに設定する

「オートフォーカスの方法を設定する」（p.87）を参照してください。

3 撮りたい画像の構図を画像モニターで確認する

例）人物にピントが合わずに背景にピントが合ってしまう。

4 ピントを合わせたい被写体を画像モニターの中心にして、シャッターボタンを半押しする

ピントが合うとAFフレームが緑になります。AFフレームが緑になっている間は、フォーカスロックされます。

5 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい画像の構図に戻す

- フォーカスロックの状態で、ズームリングを回すとピントがずれることがあります。
- 撮影モードがSCN（シーン）モードの（動体）／（ナイトスナップ）／（ペット）／（キッズ）／（ステージライト）に設定されているときは、フォーカスロックできません。これらの場合は、シャッターをきるまでカメラがピントを追い続けます（コンティニュアスオートフォーカス）。

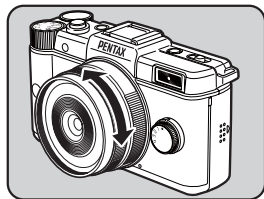
マニュアルでピントを調整する（マニュアルフォーカス）

マニュアルでピントを調整します。

1 フォーカスモードをMFに設定する

「フォーカスモードを設定する」（p.86）を参照してください。

2 画像モニターを見ながらレンズのピントリングを回す

ピントが合っていなくても、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。

拡大表示してピントを合わせる

MF モード時に画像モニターの中央を拡大表示してピントを合わせやすくします。

1 「◘撮影1」メニューの「フォーカス設定」を選び、十字キー（▶）を押す

「フォーカス設定」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「MFアシスト」を選び、十字キー（▶）を押す

3 拡大倍率をオフ／x2／x4から選択してOKボタンを押す

倍率は拡大表示中に電子ダイヤルで変更することもできます。

4 MENUボタンを2回押す

MFアシストが設定され、撮影できる状態になります。

5 レンズのピントリングを回すかOKボタンを押す

画像モニターが拡大表示されます。

6 ピントを確認する

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル右（🔍）	拡大（4倍まで）
電子ダイヤル左（▣）	縮小（1倍まで）
十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動

十字キー（▲▼◀▶）以外のボタンを押すか30秒間操作しないと、通常の表示に戻ります。

被写界深度を確認する（プレビュー）

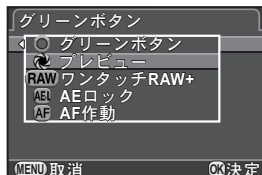
設定した絞り値まで絞って被写界深度を確認します。

グリーンボタンにプレビュー機能を割り当てる

まず、⦿/🗑ボタンにプレビューの機能を割り当てます。

1 「📷撮影3」メニューの「グリーンボタン」を選択し、十字キー（▶）を押す

「グリーンボタン」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で「プレビュー」を選択してOKボタンを押す

3 MENUボタンを2回押す

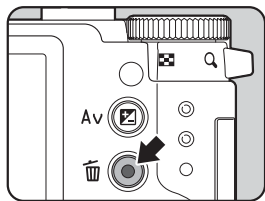
⦿/🗑ボタンにプレビューが割り当てられ、撮影できる状態になります。

プレビューを表示する

1 画像モニターで被写体を確認し、シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

2 ⦿/🗑ボタンを押す

⦿/🗑ボタンを押している間、被写界深度が確認できます。

3 ⦿/🗑ボタンから指を離す

プレビューが終了し、撮影できる状態になります。

手ぶれを防いで撮影する

手ぶれ補正機能を使って撮影する

手ぶれ補正機能（Shake Reduction）とは、シャッターボタンを押す瞬間に起こりやすい手ぶれを補正しながら撮影できる機能です。手ぶれしやすいシーンでの撮影に効果的です。
手ぶれ補正機能は、次のようなシーンでの撮影に適しています。

- 室内、夕方、曇り、日陰など薄暗い環境で撮影するとき
- 望遠で撮影するとき

注意

- 手ぶれ補正機能は、被写体が動くことによるぶれには効果がありません。動いている被写体を撮影するときには、シャッター速度を速くして撮影してください。
- 近距離での撮影では、手ぶれ補正しきれないことがありますので、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用することをお勧めします。
- 流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件では、手ぶれ補正の効果が十分に現れないことがあります。その場合は、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用して撮影することをお勧めします。

1 撮影モードでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「Shake Reduction」を選択し、OKボタンを押す

「Shake Reduction」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で／を選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

	手ぶれ補正を行います（初期設定）
	手ぶれ補正を行いません。

4 シャッターボタンを半押しする

画像モニターにが表示され、手ぶれ補正機能が有効になります。

三脚を使用する場合は、必ずShake Reductionをオフに設定してください。

- メニューから設定するときは、「撮影3」メニュー（p.66）で設定します。
- 次の条件では、固定になります。
  - セルフタイマー撮影
  - リモコン撮影
  - シャッター速度が**Bulb**に設定されているとき
- 撮影モードが**SCN**（シーン）モードの（夜景HDR）／**HDR**（HDR）に設定されているときは、固定になります。
- 撮影時だけ手ぶれ補正するか、撮影待機中も手ぶれ補正するかを「**C**カスタム1」メニューの「4. Shake Reductionの動作」（p.68）で設定できます。
- カメラの電源を入れた直後やオートパワーオフからの復帰直後（それぞれ約2秒間）は、手ぶれ補正機能が安定していません。手ぶれ補正の効果を十分に得るには、手ぶれ補正機能の安定を待って、ゆっくりシャッターボタンを押して撮影してください。
- 本機に装着できる当社製Qマウントレンズであれば、種類を問わず、手ぶれ補正機能が使用できます。

セルフタイマーで撮影する

セルフタイマー撮影には、次の2種類があります。

セルフタイマー（12秒）	約12秒後にシャッターがきれます。撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。
セルフタイマー（2秒）	シャッターボタンを押してから約2秒後にシャッターがきれます。シャッターボタンを押すことで生じるカメラぶれを避けて撮影するときに使います。

撮影モードがSCN（シーン）モードの（動体）／（ペット）／（キッズ）に設定されているときは、セルフタイマー撮影はできません。

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影モードで十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でを選ぶ

4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で／を選択してOKボタンを押す

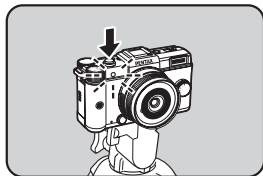
撮影できる状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

6 シャッターボタンを全押しする

⏲の場合、カメラ正面のセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタンを全押ししてから、約12秒後にシャッターがきれます。

⏲2sの場合は、約2秒後にシャッターがきれます。

- セルフタイマー撮影を解除したいときは、ドライブモードの設定画面で⏲／⏲2s以外のモードに切り替えてください。なお「📷撮影3」メニューの「モードメモリ」（p.195）で「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに設定が解除されます。
- ⏲／⏲2sに設定すると、「Shake Reduction」は自動的にオフになります。
- セルフタイマーの電子音が鳴らないように設定できます。（p.186）

リモコン（別売）を使って撮影する

別売のリモコン（p.230）を使うと、カメラから離れたところから撮影することができます。
リモコン撮影には、次の3種類があります。

リモコン	リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。
リモコン（3秒後レリーズ）	リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後にシャッターがきれます。
リモコン連続撮影	リモコンのシャッターボタンを押すと、連続撮影がスタートします。もう一度リモコンのシャッターボタンを押すと、連続撮影が終了します。

以下のときは、リモコン撮影はできません。
- 撮影モードが SCN（シーン）モードの（動体）／（夜景HDR）／（ペット）／（キッズ）／**HDR**（HDR）に設定されているとき
- シャッター速度が**Bulb**に設定されているとき
- HDR撮影が設定されているとき

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影モードで十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でを選ぶ

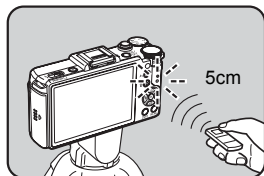
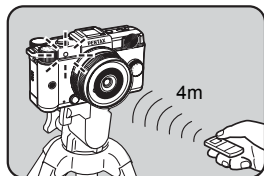
4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で／／を選択してOKボタンを押す

カメラ正面のセルフタイマーランプが点滅し、リモコン待機状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

6 リモコンをカメラ正面／背面のリモコン受光部に向け、リモコンのシャッターボタンを押す

リモコン撮影できる距離はカメラ正面から約4m、背面から約5cmです。

撮影が終了すると、セルフタイマーランプが2秒間点灯し、その後点滅に戻ります。

- 初期設定では、リモコンの操作でピント合わせはできません。あらかじめカメラ側でピント合わせをしてから、リモコン操作をしてください。「**C** カスタム2」メニューの「9. リモコン時のAF」（p.68）で、リモコンでピント合わせができるように設定することもできます。
- 防水リモートコントロールO-RC1を使用した場合は、ボタンでAF動作ができます。**Fn**ボタンは機能しません。
- リモコン撮影を解除したいときは、ドライブモードの設定画面で ／ ／ 以外のモードに切り替えてください。なお「撮影3」メニューの「モードメモリ」（p.195）で「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに設定が解除されます。
- ／ ／ に設定すると、「Shake Reduction」は自動的にオフになります。
- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- リモートコントロールFは、約30,000回リモコン送信することができます。電池の交換（有料）については当社の修理センター、またはお客様窓口にご依頼ください。

連続して撮影する

連続撮影

連続撮影では、シャッターボタンを全押ししている間、連続的にシャッターがきれます。
連続撮影には、次の2種類があります。

連続撮影（Hi）	12M・★★★のJPEG画像の場合、最高約5コマ/秒で連続撮影します。一度に撮影できるのは、最大約5コマまでです。「記録形式」がRAW／RAW+に設定されているときは、選択できません。
連続撮影（Lo）	12M・★★★のJPEG画像の場合、最高約1.5コマ/秒で連続撮影します。一度に撮影できるのは、最大約100コマまでです。

注意
- 以下のときは、連続撮影はできません。
  - 撮影モードがSCN（シーン）モードの（夜景HDR）／**HDR**（HDR）に設定されているとき
  - シャッター速度が**Bulb**に設定されているとき
  - HDR撮影が設定されているとき
- ／を選択した場合、クイックビューまたは再生時にRAW画像を追加保存することはできません。
- 「アスペクト比」を16:9／3:2／1:1に設定している場合、4:3よりも撮影可能枚数が少なくなります。

1 撮影モードで十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でを選ぶ

3 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で⊒/⊒を選択してOKボタンを押す

撮影できる状態になります。

4 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

5 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影されます。シャッターボタンから指を離すと、連続撮影は終了します。

- 撮影モードがSCN（シーン）モードの（動体）／（ペット）／（キッズ）に設定されているときは、⊒に固定されます。
- AFは、最初の合焦位置に固定されます。
- ⊒を選択した状態で「記録形式」をRAW／RAW+に変更すると、⊒で動作します。
- 内蔵ストロボを使用している場合は、充電が完了してからシャッターがきれます。「**C**カスタム2」メニューの「11. 充電中のレリーズ」で、充電中でもシャッターがきれるように設定することもできます。（p.60）
- 連続撮影を解除したいときは、ドライブモードの設定画面で⊒／⊒以外のモードに切り替えてください。なお「📷撮影3」メニューの「モードメモリ」（p.195）で「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに設定が解除されます。

インターバル撮影

指定した時刻から一定間隔で自動撮影をします。
以下の設定を行います。

撮影間隔	2枚以上撮影する場合の待機時間を、1秒間～24時間で設定します。
撮影枚数	撮影する枚数を1～999枚で設定します。「開始トリガー」が「即時」の場合は2枚～になります。
開始トリガー	1枚目を撮影するタイミングを即時／時刻指定から選択します。「即時」はすぐに撮影が開始されます。「時刻指定」の場合は「撮影開始時刻」を設定します
撮影開始時刻	撮影を開始する時刻を設定します。

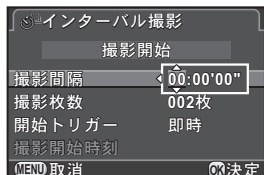
注意
- 以下のときは、インターバル撮影は選択できません。
  - 撮影モードが（動画）／**BC**（ボケコントロール）モード、または**SCN**（シーン）モードの（夜景HDR）／（テーブルフォト）／**HDR**（HDR）に設定されているとき
  - シャッター速度が**Bulb**に設定されているとき
  - デジタルフィルターが設定されているとき
- 露出ブラケット／多重露出との併用はできません。（あとから設定した機能が有効）
- 「HDR撮影」（p.130）が設定されているときは、撮影間隔は10秒以上になります。

1 「撮影2」メニューの「インターバル撮影」を選び、十字キー（▶）を押す

「インターバル撮影」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「撮影間隔」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（◀▶）で時／分／秒を選び、十字キー（▲▼）で時間を設定する

設定が終わったら、十字キー（▶）を押します。

4 十字キー（▲▼）で「撮影枚数」を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー（◀▶）を押し、十字キー（▲▼）で枚数を設定する

設定が終わったら、十字キー（▶）を押します。

6 十字キー（▲▼）で「開始トリガー」を選び、十字キー（▶）を押す

7 十字キー（▲▼）で即時／時刻指定を選択してOKボタンを押す

「即時」を選んだ場合は、手順10に進みます。

8 十字キー（▲▼）で「撮影開始時刻」を選び、十字キー（▶）を押す

9 十字キー（◀▶）で時／分を選び、十字キー（▲▼）で時刻を設定する

設定が終わったら、十字キー（▶）を押します。

10 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

11 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

12 シャッターボタンを全押しする

「開始トリガー」が「即時」の場合は、1枚目が撮影されます。「時刻指定」の場合は、設定した時刻に撮影が開始されます。

2枚以上撮影する場合は、手順3で設定した撮影間隔で撮影されます。

設定した枚数を撮影した後、通常の撮影モードに戻ります。

インターバル撮影
待機中
残り撮影枚数 5枚
撮影間隔 00:01'00"
MENU 終了

- 🎥（動画）モードでのインターバル撮影については、「インターバル動画」（p.113）を参照してください。
- 撮影の途中で次のいずれかの操作を行うと、それまで撮影した画像が保存されてインターバル撮影が終了します。
  - 電源ボタンを押す
  - モードダイヤル／クイックダイヤルのどちらかを回す
- ドライブモードの設定にかかわらず、□（1コマ撮影）になります。
- 撮影されるごとにクイックビューが画像モニターに表示されますが、拡大表示／削除はできません。
- オートパワーオフで一度電源が切れた場合は、撮影時刻が近づくと自動的に電源が入ります。

注意

- インターバル撮影を行う場合は、ACアダプターキットK-AC115J（別売）を使用するか、十分に充電されたバッテリーを使用してください。十分に充電されていないと、インターバル撮影中にバッテリーが消耗し、撮影が途中で終了することがあります。
- メモリーカードの空き容量がなくなると、インターバル撮影は終了します。

多重露出

任意の枚数を1枚の画像に合成しながら撮影します。

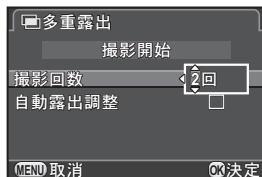
- 以下のときは、多重露出は選択できません。
  - 「記録形式」がRAW／RAW+に設定されているとき
  - 撮影モードが（動画）／**BC**（ボケコントロール）モード、または**SCN**（シーン）モードの（夜景HDR）／（テーブルフォト）／**HDR**（HDR）に設定されているとき
  - デジタルフィルター／HDR撮影が設定されているとき
- 露出ブラケット／インターバル撮影／ディストーション補正との併用はできません。（あとから設定した機能が有効）

1 「撮影2」メニューで「多重露出」を選び、十字キー（▶）を押す

「多重露出」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「撮影回数」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で撮影回数を選択してOKボタンを押す

2～9回が選択できます。

4 十字キー（▲▼）で「自動露出調整」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑（オン）にすると撮影回数に応じて自動的に露出が補正されます。

5 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

6 撮影する

シャッターボタンを1回押すごとに、合成された画面がクイックビューで表示されます。クイックビュー表示中に⦿/🗑ボタンを押すと、それまでに撮影した画像を破棄して、1回目から撮影をやり直すことができます。

設定した回数の撮影が終了すると画像が保存され、手順3の画面に戻ります。

撮影の途中で次のいずれかの操作を行うと、それまで撮影した画像が保存されて多重露出が終了します。

- ▶ボタン／**MENU**ボタン／**INFO**ボタン／十字キー（▼◀▶）のいずれかを押す
- モードダイヤル／クイックダイヤルのどちらかを回す

動画を撮影する

このカメラでは、以下の形式の動画が撮影できます。

- フレームレート　30fps
- 音声　モノラル
- ファイル形式　MPEG-4 AVC/H.264

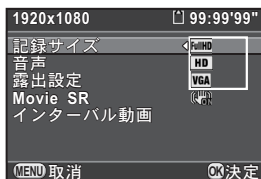
動画の設定を変更する

「動画」メニューで動画の設定を行います。

1 モードダイヤルをに合わせてMENUボタンを押す

「動画1」メニューが表示されます。
他の撮影モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▼）を押してから十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で記録サイズを選択してOKボタンを押す

記録サイズ	画素数	アスペクト比
FullHD（初期設定）	1920×1080	16:9
HD	1280×720	16:9
VGA	640×480	4:3

記録サイズを変更すると、その設定で撮影できる時間が画面右上に表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「音声」を選び、十字キー（▶）を押す

4 十字キー（▲▼）で🔊／🔇を選択してOKボタンを押す

🔊	音声を録音する（初期設定）
🔇	音声を録音しない

5 十字キー（▲▼）で「露出設定」を選び、十字キー（▶）を押す

6 十字キー（▲▼）でAuto／Manualを選択してOKボタンを押す

Auto	自動露出で撮影します。（初期設定）
Manual	シャッター速度／絞り値／ISO感度が任意に設定できます。

7 十字キー（▲▼）で「Movie SR」を選び、十字キー（▶）を押す

8 十字キー（▲▼）で(手ON)／(手OFF)を選択してOKボタンを押す

(手ON)	手ぶれ補正を行う（初期設定）
(手OFF)	手ぶれ補正を行わない

9 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

メモ 記録サイズ／音声／Movie SRは、コントロールパネルで変更することもできます。

動画を撮影する

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

動画撮影画面が表示されます。

2 画像モニターで被写体を確認する

「露出設定」を「Manual」に設定している場合は、露出を設定します。

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル	(露出設定「Auto」)無効 (露出設定「Manual」)シャッター速度調整
☒Avボタン →電子ダイヤル	(露出設定「Auto」)露出補正 (露出設定「Manual」)絞り値調整
⦿/🗑ボタン	「📷撮影3」」メニューの「グリーンボタン」で設定されている動作(p.144) 「グリーンボタン」に設定されているときは、Manualでの露出設定をリセット

3 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。
フォーカスモードが**MF**になっているときは、レンズのピントリングを回してピントを合わせます。

4 シャッターボタンを全押しする

動画の撮影が開始されます。

5 もう一度シャッターボタンを押す

撮影が終了します。

- 音声を 🔊（オン）に設定している場合、カメラの動作音なども録音されます。動画を撮影するときは三脚などで固定し、撮影中はカメラを操作しないようにしてください。
- 動画撮影時は、フォーカスモードの設定にかかわらず、ピントが合っていなくてもシャッターボタンを全押しすると撮影が開始されます。
- 動画撮影中は、オートフォーカスは動作しません。
- ストロボは使用できません。
- デジタルフィルターなどの画像処理を設定して撮影した場合、部分的にコマが抜けて記録されることがあります。
- 動画撮影中にカメラ内部が高温になったときは、回路保護のため強制終了する場合があります。

- 動画は最大4GB、または最長25分まで連続して撮影できます。SDメモリーカードがいっぱいになると撮影が中断し、保存されます。
- 🎥モードでの画面表示は「📷撮影3」メニューの「画面設定」(p.191）の設定に従います。ただし白とび黒つぶれ警告は、撮影中は表示されません。
- 長時間撮影するときは、ACアダプターキットK-AC115J（別売）のご使用をお勧めします。(p.40)
- 別売のリモコンで動画撮影を開始することもできます。(p.100) 🎥 モードで十字キー（▶）を押すと、通常のドライブモードの設定画面ではなく、リモコンのオン／オフを選択する画面が表示されます（撮影を終了するときは、カメラのシャッターボタンを押します)。

インターバル動画

設定した時刻から一定間隔で静止画を1枚ずつ撮影し、1つの動画ファイルとして記録します。
以下の設定を行います。

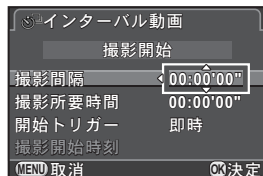
撮影間隔	撮影する間隔を1秒／5秒／10秒／30秒／1分／5分／10分／30分／1時間から選択します。
撮影所要時間	撮影を開始してから終了するまでの所要時間を5秒～99時間で設定します。「撮影間隔」によって、設定できる時間が異なります。
開始トリガー	1枚目を撮影するタイミングを即時／時刻指定から選択します。「即時」はすぐに撮影が開始されます。「時刻指定」の場合は「撮影開始時刻」を設定します。
撮影開始時刻	撮影を開始する時刻を設定します。

注意　モードダイヤルが🎥になっているときだけ選択できます。

1 **「🎥動画1」メニューの「インターバル動画」を選び、十字キー（▶）を押す**

「インターバル動画」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で「撮影間隔」を選び、十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）で撮影間隔を選択してOKボタンを押す**

4 **十字キー（▲▼）で「撮影所要時間」を選び、十字キー（▶）を押す**

5 十字キー（◀▶）で時／分／秒を選び、十字キー（▲▼）で時間を設定する

設定が終わったら、十字キー（▶）を押します。

6 十字キー（▲▼）で「開始トリガー」を選び、十字キー（▶）を押す

7 十字キー（▲▼）で即時／時刻指定を選択してOKボタンを押す

「即時」を選んだ場合は、手順10に進みます。

8 十字キー（▲▼）で「撮影開始時刻」を選び、十字キー（▶）を押す

9 十字キー（◀▶）で時／分を選び、十字キー（▲▼）で時刻を設定する

設定が終わったら、十字キー（▶）を押します。

10 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OKボタンを押す

「シャッターボタンを押すとインターバル撮影を開始します」と表示された後、画像モニターの表示が消えます。

11 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

12 シャッターボタンを全押しする

「開始トリガー」が「即時」の場合は、すぐに撮影されてクイックビューが表示されてから画像モニターの表示が消えます。設定した枚数の撮影が終了すると、「インターバル撮影を終了しました」と表示された後、電源が切れます。

- インターバル動画を撮影する場合は、AC アダプターキット K-AC115J（別売）を使用するか、十分に充電されたバッテリーを使用してください。十分に充電されていないと、インターバル動画撮影中にバッテリーが消耗し、撮影が途中で終了することがあります。
- メモリーカードの空き容量がなくなると、インターバル動画は終了します。

撮影した動画を再生する

撮影した動画は、静止画と同様に再生モードで再生できます。

1 再生モードで十字キー（◀▶）を押し、再生する動画を選ぶ

動画の1コマ目の画像が画像モニターに表示されます。

2 十字キー（▲）を押す

動画が再生されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

操作	内容
十字キー（▲）	一時停止／再開
十字キー（▶）	（一時停止中）コマ送り
十字キー（▶）長押し	早送り再生
十字キー（◀）	（一時停止中）コマ戻し
十字キー（◀）長押し	早戻し再生
十字キー（▼）	停止 （停止中）再生モードパレットを表示（p.152）
電子ダイヤル	音量調節（6段階）
Av ボタン	（一時停止中）表示中の画像をJPEG形式で保存（p.116）

再生が終わると停止し、1コマ目の画像が表示されます。

- 別売のAVケーブルI-AVC7や市販のHDMIケーブルを利用すると、テレビなどのAV機器で動画を再生することができます。（p.168）
- パソコンに転送して動画を再生する場合は、QuickTimeが必要です。（p.204）

動画から静止画を切り出す

動画の1コマを切り出し、JPEG形式の静止画として保存することができます。

1 **p.115の手順2の画面で十字キー（▲）を押す**

2 **十字キー（◀▶）を押して静止画で保存する1コマを表示する**

画面右上に、フレーム番号/総フレーム数が表示されます。

フレーム番号/総フレーム数

3 **Avボタンを押す**

保存の確認画面が表示されます。

4 **十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す**

動画から切り出された画像が新規保存されます。

動画を編集する

動画を分割したり、不要な範囲を消去することができます。

1 再生モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する動画を選ぶ

動画の1コマ目の画像が表示されます。

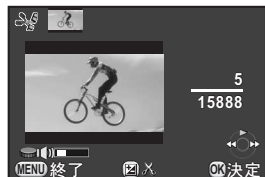
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で ✂（動画編集）を選び、OK ボタンを押す

動画を編集する画面が表示されます。

4 分割する箇所を指定する

画面上部に分割位置の先頭のコマが表示されます。
4箇所まで指定できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲）	再生／一時停止
十字キー（▶）	（一時停止中）コマ送り
十字キー（▶）長押し	早送り再生
十字キー（◀）	（一時停止中）コマ戻し
十字キー（◀）長押し	早戻し再生
電子ダイヤル	音量調節（6段階）
⊠Av ボタン	分割位置指定／解除

消去しない場合は、手順8に進みます。

5 ◉/🗑 ボタンを押す

消去を指定する画面が表示されます。

6 十字キー（◀▶）で選択枠を移動し、OKボタンを押す

消去する範囲が選択されます。
もう一度**OK**ボタンを押すと、選択が解除されます。

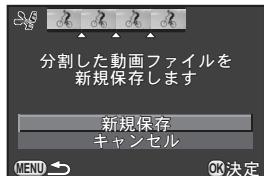
7 MENUボタンを押す

手順4の画面に戻ります。

8 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

9 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選択し、OKボタンを押す

指定した箇所が分割／消去された画像が新規保存され、その動画が表示されます。

- 分割位置は、動画の時系列に沿って先頭から順に指定します。分割位置を解除するときは、逆方向（後ろから前）に順に指定します。分割指定している途中に分割位置を追加したり、途中の分割指定を解除することはできません。
- 録画時間が2秒未満の動画は分割できません。

5 撮影のための設定

この章では、画像の保存形式や撮影時のカメラの動作の設定を説明しています。

画像の記録形式を設定する 120
ホワイトバランスを設定する 124
明るさを補正して撮影する 128
仕上がりイメージを設定して撮影する 131
グリーンボタンと電子ダイヤルの機能を設定する
.... 144
レンズに関する機能を設定する 148

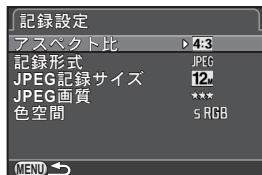
画像の記録形式を設定する

静止画の縦横比／ファイルフォーマット／記録サイズ／画質／色空間を設定します。

1 「◘撮影1」メニューの「記録設定」を選択し、十字キー（▶）を押す

「記録設定」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）でアスペクト比／記録形式／ JPEG 記録サイズ／JPEG画質／色空間を選択し、十字キー（▶）を押す

各設定の詳細は、p.121～p.123を参照してください。

3 十字キー（▲▼）で設定を変更し、OK ボタンを押す

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

メモ

- アスペクト比／記録形式／JPEG記録サイズ／JPEG画質は、コントロールパネルで変更することもできます。
- 記録形式／JPEG記録サイズ／JPEG画質を変更すると、その設定で撮影できる枚数が画像モニターに表示されます。

記録形式

画像のファイルフォーマットを設定します。

JPEG	JPEG形式で記録します。（初期設定） 画像の記録サイズは「JPEG記録サイズ」、画質は「JPEG画質」の設定によって変わります。
RAW	CMOSセンサーからの出力を加工せずに記録するデータ形式です。Adobe Systems社が提唱する汎用の公開フォーマットのDNG（Digital Negative）形式のRAWファイルで記録します。 ホワイトバランス／カスタムイメージ／色空間の設定は画像に反映されませんが、情報として記録されます。RAW展開（p.180）や、付属ソフトウェアの「SILKYPIX Developer Studio 3.0 for PENTAX」（p.208）を使用して展開処理を行う場合には、これらの設定を使ってJPEGの画像データを作成します。
RAW+	RAW形式とJPEG形式の両方で記録します。 ⦿/🗑ボタンに「ワンタッチRAW+」を割り当てているときは、⦿/🗑ボタンを押すと、一時的に両形式で記録することができます。(p.145)

- デジタルフィルター／HDR撮影が設定されているときは、記録形式はJPEGから変更できません。変更するときは、これらの機能をオフに設定してください。
- 撮影モードが**SCN**（シーン）モードの（夜景HDR）／（テーブルフォト）／**HDR**（HDR）、または**BC**（ボケコントロール）モードに設定されているときは、記録形式の設定にかかわらずJPEGで撮影されます。

アスペクト比

画像の横：縦の比率を、16:9／3:2／4:3（初期設定）／1:1から選択します。このカメラの画像モニターのアスペクト比は3:2のため、16:9／4:3／1:1を選択すると、画像モニターもアスペクト比に合った表示になります。

16:9／3:2／1:1に設定すると、連続撮影の撮影可能枚数が4:3よりも少なくなります。

JPEG記録サイズ

記録形式がJPEGのときの記録サイズを選択します。「アスペクト比」の設定によって選択できる記録サイズが異なります。

アスペクト比	記録サイズ	画素数
16:9	9M	4000×2248（初期設定）
	6M	3456×1944
	4M	2688×1512
	2M	1920×1080
3:2	10M	4000×2664（初期設定）
	8M	3456×2304
	5M	2688×1792
	2M	1920×1280
4:3	12M	4000×3000（初期設定）
	9M	3456×2592
	5M	2688×2016
	3M	1920×1440
1:1	9M	2992×2992（初期設定）
	6M	2592×2592
	4M	2016×2016
	2M	1440×1440

- 画素数が多くなるほど画像の容量が大きくなります。また、「JPEG画質」の設定によっても容量が異なります。
- 撮影した画像の美しさや鮮明さは、露出制御などの撮影時の設定や使用するプリンターの解像度等によって異なります。

JPEG画質

JPEG画像の画質（圧縮比）を設定します。初期設定は、★★★（スーパーファイン）です。

★★★	スーパーファイン	↑	画質：鮮明　容量：大
★★	ファイン		
★	エコノミー	↓	画質：粗　容量：小

色空間

使用する色空間を設定できます。

sRGB	パソコンを中心とした機器で広く使われています。（初期設定）
AdobeRGB	sRGB色空間よりも広い色再現範囲を持っており、主に商業印刷などの業務用途で使われています。

色空間の設定によって、ファイル名の付け方が次のように変わります。
sRGBのとき:　　IMGPxxxx.JPG
AdobeRGBのとき:_IGPxxxx.JPG
「xxxx」はファイルNo.で、4桁の連番で表されます。（p.200）

ホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスとは、白いものが白く写るように撮影時の光の状態に応じて画像の色合いを調整する機能です。ホワイトバランス **AWB**（オート）で撮影した色合いに納得がいかないときや、意図的に効果を出したいときなどに、ホワイトバランスを設定してください。

項目	設定	色温度 *1
AWB オート	調整をカメラにまかせます。（初期設定）	約4000～8000K
太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。	約5200K
日陰	日陰で撮影するときに設定します。青みを抑えます。	約8000K
曇天	曇りの日に撮影するときに設定します。	約6000K
蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。蛍光灯の種類が選択できます。 **D** 昼光色蛍光灯 **N** 昼白色蛍光灯 **W** 白色蛍光灯 **L** 電球色蛍光灯	 約6500K 約5000K 約4200K 約3000K
白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。赤みを抑えます。	約2850K
WB ストロボ	内蔵ストロボを使用して撮影するときに設定します。	約5400K
CTE *2	光源の特徴を誇張し、色味を残します。	—
マニュアル	撮影時の光の状態で、手動でホワイトバランスを調整します。	—

*1 色温度（K）は目安です。正確な色を示すものではありません。
*2 CTE ＝ Color Temperature Enhancement

撮影モードが **AUTO**（オートピクチャー）／**SCN**（シーン）モードのときは **AWB** 固定です。

1 撮影モードで十字キー（▼）を押す

ホワイトバランスを設定する画面が表示されます。
電源を入れてから、直前に撮影した画像がある場合は、背景に表示されます。

2 十字キー（◀▶）でホワイトバランスを選択する

（蛍光灯）の場合は、十字キー（▼）を押してから十字キー（◀▶）で**D**／**N**／**W**／**L**を選択します。

3 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

ストロボを発光すると光源が変化するため、ストロボを発光したときのホワイトバランスを設定できます。「**C** カスタム1」メニューの「5. ストロボ発光時のWB」(p.68) で、**AWB**／変更しない／ストロボから選択します。

マニュアルでホワイトバランスを調整する

撮影時の光源に合わせて任意の場所のホワイトバランスを測定します。マニュアルホワイトバランスを使うと、あらかじめカメラに用意されたホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いをカメラに記憶させて、撮影状況に最適なホワイトバランスで撮影できます。

1 p.125の手順2の画面でを選ぶ

2 ホワイトバランスを測定する照明の下で、ファインダーいっぱいに白い紙等を入れるか、白くしたい場所を被写体に選ぶ

3 シャッターボタンを全押しする

シャッターがきれないときは、フォーカスモードを**MF**に設定してください。

必要に応じて微調整をしてください。（p.127）

4 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

- ホワイトバランス調整でシャッターボタンを押しても、画像は記録されません。
- 測定がうまくいかなかったときは、「正しく処理できませんでした」と表示されます。表示中に**OK**ボタンを押すと、再測定できます。
- 極端な露出オーバーや露出アンダーの状態では、ホワイトバランス調整ができない場合があります。その場合は、適正露出に調整した上で、ホワイトバランス調整を行ってください。

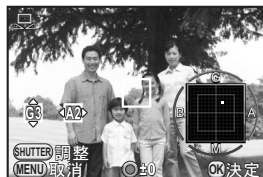
ホワイトバランスを微調整する

設定したホワイトバランスを細かく微調整できます。

1 p.125の手順2で任意の設定をする

2 Av ボタンを押す

微調整画面が表示されます。

3 微調整をする

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼）	G-M（グリーン－マゼンタ）間
十字キー（◀▶）	B-A（ブルー－アンバー）間
⦿/🗑ボタン	調整値をリセット （「📷撮影3」メニューの「グリーンボタン」を「グリーンボタン」に設定しているときのみ有効（p.144））

4 OK ボタンを押す

ホワイトバランスを設定する画面に戻ります。

5 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

明るさを補正して撮影する

明るさを補正し、白とび・黒つぶれを防ぎます。

ハイライト補正

ダイナミックレンジを拡大し、表現できる階調の幅を広げて白とびを防ぎます。

1 撮影モードでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「ハイライト補正」を選択し、OKボタンを押す

「ハイライト補正」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でオート／オン／オフを選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- ハイライト補正をオンに設定すると、最低感度はISO 250になります。
- 以下の撮影モードでは、設定が制限されます。
  - SCN（シーン）モードの（ナイトスナップ）／（ステージライト）　オン固定
  - M（マニュアル）モード　オート不可

シャドー補正

ダイナミックレンジを拡大し、表現できる階調の幅を広げて黒つぶれを防ぎます。

1　撮影モードでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で「シャドー補正」を選択し、OKボタンを押す

「シャドー補正」画面が表示されます。

3　十字キー（◀▶）でオート／オン／オフを選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

メモ

ハイライト補正／シャドー補正をメニューから設定するときは、「撮影2」メニューの「D-Range設定」（p.66）で設定します。

HDR撮影

ハイダイナミックレンジ撮影を行います。自動的に標準／-3 EVアンダー／+3 EVオーバーの画像を撮影して合成します。

注意

- 以下のときは、HDR撮影は選択できません。
  - 「記録形式」がRAW／RAW+に設定されているとき
  - シャッター速度が**Bulb**に設定されているとき
  - 撮影モードが（動画）／**BC**（ボケコントロール）モード、または**SCN**（シーン）モードの（テーブルフォト）に設定されているとき
- HDR撮影を設定すると、以下の機能は使用できません。
  - 連続撮影／リモコン連続撮影／露出ブラケット
  - ストロボモードの（発光禁止）以外
  - 多重露出／デジタルフィルターとの併用（あとから設定した機能が有効）
- HDR撮影では、1/8秒より遅いシャッター速度は使用できません。
- HDR撮影では画像を合成するため、保存に時間がかかります。
- 3コマの撮影中にカメラが動かないように、しっかりと構えて撮影してください。コマ間のずれが大きいと「正しく処理できませんでした」と表示され、画像は保存されません。

1 撮影モードでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「HDR撮影」を選択し、OKボタンを押す

「HDR撮影」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でオフ／オート／Type1／Type2を選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

撮影モードが**SCN**（シーン）モードの（夜景HDR）／**HDR**（HDR）に設定されているときは、オート固定になります。

5 撮影のための設定

仕上がりイメージを設定して撮影する

どのような雰囲気の画像にしたいかを設定して撮影します。

カスタムイメージを設定する

画像の仕上がりイメージ（画像仕上）を設定して撮影することができます。
以下の画像仕上が選択できます。

画像仕上	イメージ
鮮やか	彩度・色相・コントラストを高めにし、メリハリのある画像に仕上げます。（初期設定）
ナチュラル	実際の色合いに近い自然な仕上がりです。
人物	肌色を健康的に仕上げます。
風景	木々の緑や青空などの輪郭・彩度を強調して鮮やかな色に仕上げます。
雅（MIYABI）	色合いを変化させて古風な雰囲気に仕上げます。
ポップチューン	艶やかさを強調し、華やかに仕上げます。
ほのか	彩度を低めにして柔らかな雰囲気に仕上げます。
銀残し	彩度を低くし、コントラストを高めにして古い写真のような雰囲気に仕上げます。
リバーサルフィルム	リバーサルフィルムで撮影したような、明暗差を強調した仕上がりです。
モノトーン	モノクロ用の色フィルターを使用して撮影します。
クロスプロセス	色合いやコントラストを故意に変化させます。撮影するたびに異なった処理結果が得られます。

撮影モードがSCN（シーン）モードのときは、設定できません。

1 撮影モードでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「カスタムイメージ」を選択し、OKボタンを押す

カスタムイメージを設定する画面が表示されます。
電源を入れてから直前に撮影した画像がある場合は、背景に表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で画像仕上を選択する

4 Avボタンを押す

パラメーターを設定する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で変更したいパラメーターを選択する

選択した画像仕上によって以下のパラメーターが変更できます。

画像仕上	パラメーター
鮮やか／ナチュラル／人物／風景／雅（MIABI）／ポップチューン	彩度：－4～＋4
	色相：－4～＋4
	キー：－4～＋4
	コントラスト：－4～＋4
	シャープネス／ファインシャープネス：－4～＋4

画像仕上	パラメーター
ほのか／銀残し	彩度：－4～＋4
	調色：オフ／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／パープル／ブルー／シアン
	キー：－4～＋4
	コントラスト：－4～＋4
	シャープネス／ファインシャープネス：－4～＋4
リバーサルフィルム	シャープネス／ファインシャープネス：－4～＋4
モノトーン	フィルター効果：なし／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／赤外調
	調色：オフ／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／パープル／ブルー／シアン
	キー：－4～＋4
	コントラスト：－4～＋4
	シャープネス／ファインシャープネス：－4～＋4
クロスプロセス	シャッフル／プリセット1～3／お気に入り1～3 *1

*1 再生モードパレットで撮影済み画像の設定を登録します。（p.134）

6 十字キー（◀▶）で設定を変更する

設定に応じて背景画像も変化します。
彩度／色相は、レーダーチャートで確認できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル	シャープネス／ファインシャープネス切り替え（🎥モードは無効）
⦿/🗑ボタン	設定値をリセット

7 OKボタンを押す

手順3の画面に戻ります。

8 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

メニューから設定するときは、「撮影1」メニュー（p.65）で設定します。

撮影済画像のクロスプロセス設定を登録する

クロスプロセスは、撮影するたびに処理結果が異なります。気に入ったクロスプロセス画像が撮影できたときは、その設定を登録しておくことができます。3つまで登録できます。

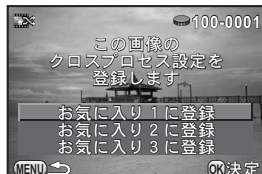
1 再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で （クロスプロセス登録）を選び、OKボタンを押す

最新の画像から順にクロスプロセス画像を検索します（検索中は砂時計のアイコンが表示されます）。クロスプロセス画像が見つかると、登録の画面が表示されます。

クロスプロセス画像がない場合は、「クロスプロセス撮影画像がありません」と表示されます。

3 電子ダイヤルでクロスプロセス画像を選択する

4 十字キー（▲▼）でお気に入り1～3を選択し、OKボタンを押す

指定した画像の設定がお気に入り1～3に登録され、最後に表示していた画像が再生されます。

デジタルフィルターを設定する

フィルターをかけて撮影します。
以下のフィルターが選択できます。

フィルター名	効果	パラメーター
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像を撮影します。	シェーディング強度：弱／中／強
		ぼかし：弱／中／強
		トーンブレイク：レッド／グリーン／ブルー／イエロー
ハイコントラスト	コントラストを強くして撮影します。	強度：1～5
シェーディング	周辺を暗くした画像を撮影します。	シェーディングタイプ：6種類
		シェーディング強度：－3～＋3
スリム	画像の縦横比を変更して撮影ます。	－8～＋8
HDR	擬似的にハイダイナミックレンジ画像にします	弱／中／強
ネガポジ反転	画像を反転して撮影します。	OFF／ON
色抽出	特定の2色だけを抽出し、他の部分を白黒で撮影します。	抽出色 1：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色1の感度：1～5
		抽出色2：OFF／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色2の感度：1～5
カラー	選択したカラーフィルターをかけて撮影します。18種類（6 色×3 段階）の調整ができます。	色：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		濃淡：淡／中／濃
水彩画	絵の具で描いたような画像を撮影します。	強度：弱／中／強
		彩度：OFF／低／中／高
ポスタリゼーション	画像の階調を落として手描きのような雰囲気を表現します。	強度：1～5

フィルター名	効果	パラメーター
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような画像を撮影します。	弱／中／強

注意
- 以下のときは、デジタルフィルターは選択できません。
  - 撮影モードがSCN（シーン）モードの（夜景HDR）／（テーブルフォト）／HDR（HDR）に設定されているとき
  - 「記録形式」がRAW／RAW+に設定されているとき
- デジタルフィルターを設定すると、以下の機能は使用できません。
  - 連続撮影／インターバル撮影／多重露出
  - HDR撮影との併用（あとから設定した機能が有効）
- フィルターによっては、画像の保存に時間がかかることがあります。

1 撮影モードでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「デジタルフィルター」を選択し、OKボタンを押す

フィルターを選択する画面が表示されます。
電源を入れてから直前に撮影した画像がある場合は、背景に表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）でフィルターを選択する

4 Avボタンを押す

パラメーターを設定する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）でパラメーターを選択し、十字キー（◀▶）でパラメーターの値を調整する

6 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- メニューから設定するときは、「📷撮影1」メニュー（p.65）で設定します。
- デジタルフィルター撮影を終了するときは、手順3で「フィルターオフ」を選択します。
- JPEG／RAW画像は、撮影後にデジタルフィルターで加工することもできます。（p.174）

よく使う機能をクイックダイヤルに登録する

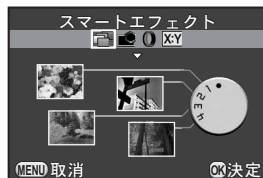
よく使用する機能をクイックダイヤルに登録し、クイックダイヤルを操作するだけでいつでもお好みの画像を撮影することができます。
以下の中から1つの機能を選択し、最大4つの設定が登録できます。

- スマートエフェクト（p.140）
- カスタムイメージ（p.131）
- デジタルフィルター（p.135）
- アスペクト比（p.121）

注意　登録できるのは、上記の機能のいずれか1種類になります。複数の機能を同時に割り当てることはできません。

1　「撮影3」メニューの「クイックダイヤル」を選択し、十字キー（▶）を押す

クイックダイヤルの機能を設定する画面が表示されます。

2　十字キー（◀▶）で登録する機能を選択する

3　十字キー（▲▼）で登録するクイックダイヤルのポジション1〜4を選択する

4　十字キー（◀▶）で設定を選択する

スマートエフェクトで詳細を設定するときは、Avボタンを押します。

5 手順3～4を繰り返す

他のポジションも同様に設定を登録します。

6 OKボタンを押す

設定が登録されます。

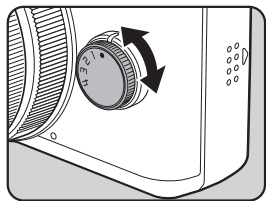
7 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

設定を呼び出して撮影する

クイックダイヤルに登録した設定で撮影します。この間は、メニュー等の設定にかかわらず、クイックダイヤルに登録した設定が優先されます。

1 撮影モードでクイックダイヤルを回してポジション1～4を選択する

登録した設定が呼び出され、撮影できる状態になります。

2 撮影する

3 撮影が終わったら、クイックダイヤルをポジション0に戻す

元の設定に戻ります。

注意 クイックダイヤルを使って撮影しているときは、その設定をメニュー等で変更することはできません。クイックダイヤルの設定を変更するときは、もう一度登録してください。

スマートエフェクトを設定する

画像に様々な効果を設定して撮影することができます。
以下のエフェクトが選択できます。

- 極彩
- ソリッドモノカラー
- Auto110モード
- クロスプロセス
- さくらほのか
- ドラマチックアート
- ハードモノクローム
- 水彩画
- あでみやび
- USER 1～3（p.142）

1 p.138の手順2で「スマートエフェクト」を選択する

2 十字キー（▲▼）で登録するクイックダイヤルのポジション1～4を選択する

3 Avボタンを押す

スマートエフェクトの詳細設定画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）でエフェクトを選択する

5 OKボタンを押す

クイックダイヤルの機能を設定する画面に戻ります。

6 手順2～5を繰り返す

7 OKボタンを押す

設定が登録されます。

8 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

スマートエフェクトを使って撮影する

1 クイックダイヤルを回してポジション1〜4を選択する

スマートエフェクトが呼び出され、撮影できる状態になります。

2 設定を変更するときは、十字キー（▼）を押す

パラメーターを変更する画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でパラメーターを変更する

設定されているエフェクトによって以下のパラメーターが変更できます。

エフェクト	パラメーター
極彩／クロスプロセス／さくらほのか／ドラマチックアート／ハードモノクローム／水彩画／あでみやび	強度：2段階
ソリッドモノカラー	抽出色:レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
Auto110モード	種類：3種類

4 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

カメラの設定を登録する

現在のカメラの設定を登録しておいて、クイックダイヤルの操作で呼び出すことができます。

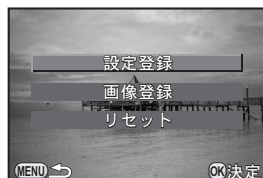
1 必要な設定を行う

2 p.140の手順4でUSER 1～3を選択する

p.140の手順4

3 ⦿/🗑 ボタンを押す

登録の確認画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「設定登録」を選択し、OK ボタンを押す

5 十字キー（▲▼）で「登録」を選択し、OK ボタンを押す

設定が登録され、手順2の画面に戻ります。

画像を登録する

気に入った画像が撮影できたときは、そのときの設定と一緒に撮影した画像を登録しておくと、より使いやすくなります。

1 **p.142の手順2の画面で設定を登録したUSER 1～3を選択する**

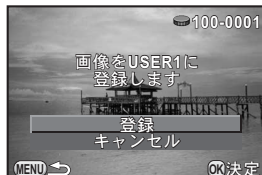
2 **⦿/🗑 ボタンを押す**

登録の確認画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で「画像登録」を選択し、OK ボタンを押す**

画像を選択する画面が表示されます。

4 **電子ダイヤルを回して画像を選択する**

撮影済みの画像の中から選択できます。

5 **十字キー（▲▼）で「登録」を選択し、OK ボタンを押す**

画像が登録され、一覧に画像が表示されます。

グリーンボタンと電子ダイヤルの機能を設定する

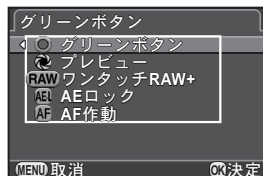
グリーンボタンの動作を設定する

⦿/🗑ボタンに機能を割り当てて、撮影時にボタンを押すだけでその機能を利用することができます。
次の機能が割り当てられます。

グリーンボタン	調整中の値をリセットします。（初期設定）
プレビュー	⦿/🗑ボタンを押している間、設定した絞り値まで絞って被写界深度の確認ができます。（p.94）
ワンタッチRAW+	「記録形式」の設定にかかわらず、JPEG形式とRAW形式を同時に記録します。撮影ごとに解除するかどうかと、ボタンを押したときの記録形式を選択します。（p.145）
AEロック	⦿/🗑ボタンを押すと、露出を記憶します。（p.82）
AF作動	シャッターボタン半押しを無効にし、⦿/🗑ボタンを押したときだけオートフォーカスをします。（p.90）

1 **「📷撮影3」メニューの「グリーンボタン」を選択し、十字キー（▶）を押す**

「グリーンボタン」画面が表示されます。

2 **十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で機能を選択してOKボタンを押す**

3 **MENUボタンを2回押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

ワンタッチRAW+を設定する

⦿/🗑ボタンの機能が「ワンタッチRAW+」に設定されているときの記録形式を設定します。

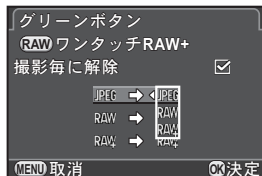
1 p.144の手順2で「ワンタッチRAW+」を選択する

2 十字キー（▲▼）で「撮影毎に解除」を選択し、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	1回撮影するたびに「記録形式」の設定に戻ります。（初期設定）
□	次の場合に設定が解除されます。 ・再度⦿/🗑ボタンを押す ・▶ボタン／MENUボタン／電源ボタンのいずれかを押す ・モードダイヤルを回す

3 十字キー（▲▼）で設定したい記録形式を選ぶ

左側が「記録形式」（p.121）の設定、右側が⦿/🗑ボタンを押したときの記録形式になります。

4 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で⦿/🗑ボタンを押したときの記録形式を選択してOKボタンを押す

5 MENUボタンを2回押す

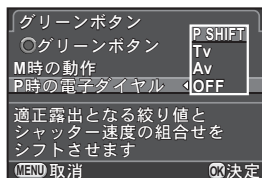
メニュー選択前の画面に戻ります。

P 時の電子ダイヤルの動作を設定する

撮影モードが **P**（プログラム）モードのときに、電子ダイヤルで変更したい値を設定します。

1 **p.144の手順2で「グリーンボタン」を選択する**

2 **十字キー（▲▼）で「P時の電子ダイヤル」を選択し、十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）で電子ダイヤルで変更する値を選択し、OK ボタンを押す**

P SHIFT	シャッター速度と絞り値の組み合わせが適正露出になるようシフトさせます（プログラムシフト）。（初期設定）
Tv	シャッター速度を設定します。
Av	絞り値を設定します。
OFF	**P** モードでの電子ダイヤル操作を無効にします。

4 **MENUボタンを2回押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

メモ **P** モードで電子ダイヤルを操作後に⦿/🗑ボタンを押すと、通常の **P** モードの設定に戻ります。

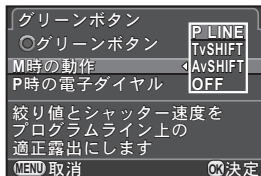
M時のグリーンボタンの動作を設定する

撮影モードが**M**（マニュアル）モードのときの⦿/🗑ボタンの機能を設定します。

1 **p.144の手順2で「グリーンボタン」を選択する**

p.144

2 **十字キー（▲▼）で「M時の動作」を選択し、十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）で⦿/🗑ボタンの動作を選択し、OKボタンを押す**

P LINE	絞り値とシャッター速度をプログラムライン上の適正露出にします。（初期設定）
Tv SHIFT	絞り値を固定のままシャッター速度をシフトし、適正露出にします。
Av SHIFT	シャッター速度を固定のまま絞り値をシフトし、適正露出にします。
OFF	**M**モードでの⦿/🗑ボタン操作を無効にします。

4 **MENUボタンを2回押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

レンズに関する機能を設定する

レンズに関する機能を設定できます。装着しているレンズによって、設定できる機能のみが選択できます。

NDフィルターを設定する

レンズに内蔵されているNDフィルターを使用するかどうか設定します。

1 撮影モードでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「NDフィルター」を選択し、OKボタンを押す

「NDフィルター」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でオフ／オンを切り替えてOKボタンを押す

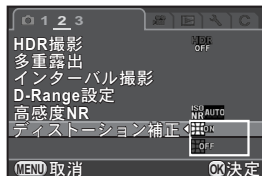
コントロールパネルに戻ります。

- メニューから設定するときは、「📷撮影1」メニュー（p.65）で設定します。
- レンズにNDフィルターが内蔵されていない場合は、オフ固定になります。

歪曲収差を補正する

レンズの特性によって生じる歪曲収差（ディストーション）を軽減します。

1 **「📷 撮影 2」メニューの「ディストーション補正」を選択し、十字キー（▶）を押す**

2 **十字キー（▲▼）でオン／オフを選択し、OK ボタンを押す**

3 **MENU ボタンを押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

メモ：撮影条件等によっては、補正の効果が感じられない場合があります。

6 いろいろな再生

様々な再生方法をご紹介します。

再生関連機能の操作 152
再生モードの表示を設定する 154
画像を拡大表示する 155
複数の画像を表示する 156
連続して再生する 162
画像を回転して表示する 164
複数画像を消去する 165
AV機器と接続する 168

再生関連機能の操作

再生に関する機能は、再生モードパレット／「▶再生」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」(p.32) を参照してください。

再生モードパレットの設定項目

再生モードで十字キー（▼）を押すと、再生モードパレットが表示されます。
動画再生の停止中も、再生モードパレットを表示することができます。

項目	機能	参照
画像回転 *1	画像を回転して表示します。	p.164
デジタルフィルター *1	画像の色調を変えたり、ソフトやスリムに加工します。明るさの調整もできます。	p.174
赤目補正 *1 *2	人物撮影で赤目になった画像を補正します。	p.179
リサイズ *1 *2	画像の記録サイズを変更し、新規保存します。	p.172
トリミング *1	画像の必要な部分だけを切り取って、新規保存します。	p.173
インデックス *1	複数の画像を1枚に貼り付けて、新たな画像を作成します。	p.160
プロテクト	画像を誤って消去しないように保護します。	p.199
スライドショウ	画像を連続して再生します。	p.163
クロスプロセス登録	カスタムイメージの「クロスプロセス」で撮影された画像の設定をお気に入りとして登録します。	p.134
RAW展開 *1	RAW画像をJPEGに変換します。	p.180

項目	機能	参照
動画編集 *3	動画の分割や抽出を行います。	p.117
画像比較 *1	画像を2枚並べて表示します。	p.159
DPOF *1 *2	プリント予約をします。	p.201

*1 動画を表示しているときは実行できません。
*2 RAW画像を表示しているときは実行できません。
*3 動画を表示しているときのみ実行できます。

再生メニューの設定項目

「▶再生」メニューでは、以下の設定を行います。
再生モードで **MENU** ボタンを押すと、「▶再生1」メニューが表示されます。

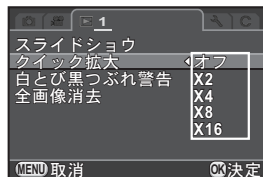
メニュー	項目	機能	参照
▶1	スライドショウ	画像を連続して再生します。スライドショウの表示の設定を行います。	p.162
	クイック拡大	拡大表示するときの最初の拡大率を設定します。	p.154
	白とび黒つぶれ警告	再生時に白とび黒つぶれ警告を表示するかどうかを設定します。	p.154
	全画像消去	保存されているすべての画像を消去します。	p.167

再生モードの表示を設定する

再生モードで拡大表示するときの最初の拡大率と、白とび黒つぶれ警告の表示について設定します。

1 「▶再生1」メニューの「クイック拡大」を選択し、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で倍率を選択して OK ボタンを押す

オフ（初期設定）／×2／×4／×8／×16から選択します。

3 十字キー（▲▼）で「白とび黒つぶれ警告」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑に設定すると、白とび部分を赤、黒つぶれ部分を黄色で点滅表示します。

4 MENU ボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

注意　「白とび黒つぶれ警告」は、RGBヒストグラム表示／詳細情報表示のときは表示されません。

画像を拡大表示する

再生した画像を約16倍まで拡大して表示できます。

1 再生モードで十字キー（◀▶）を押し、画像を選択する

2 電子ダイヤルを右（Q）に回す

1クリック回すごとに画面が拡大（1～16倍）されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル右（Q）	拡大（16倍まで）
電子ダイヤル左（▦）	縮小（1倍まで）
十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動
OKボタン	（拡大位置移動中）表示を中央に戻す
INFOボタン	情報表示切り替え

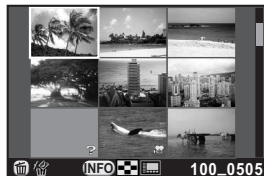
- クイックビュー（p.55）中も、同じ操作で画像を拡大表示できます。（**INFO**ボタンを除く）
- 1クリック目の倍率（拡大倍率の最小値）は、初期設定では1倍です。「▶再生1」メニューの「クイック拡大」で変更できます。（p.154）
- 縦画像は、最初の全体表示が横画像に比べて0.675倍なので、拡大1クリック目は等倍で表示されます。

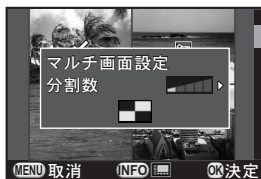
複数の画像を表示する

マルチ画面表示をする

撮影した画像を、画像モニターに複数枚（4／9／20／42／90画像）ずつ表示します。初期設定は9画像表示です。

1 再生モードで電子ダイヤルを左（⊞）に回す

マルチ画面表示になります。
画像が小さなコマで一度に9画像ずつ表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
INFOボタン	マルチ画面設定 （RAW画像の一括展開（p.182）時は、分割数の選択はできません。）
⦿/🗑ボタン	選択消去（p.165）

2 OKボタンを押す

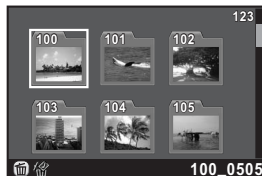
選択した画像が全画面表示されます。

90分割表示では、サムネイル上に🎥や?などのアイコンは表示されません。

フォルダーごとに表示する

画像が保存されているフォルダーごとに表示します。

1 マルチ画面表示で電子ダイヤルをさらに左（⊞）に回す

フォルダー表示になります。
選択中のフォルダー内の画像数が画面右上に表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
⦿/🗑ボタン	フォルダー消去（p.166）

2 OKボタンを押す

選択したフォルダー内の画像がマルチ画面表示されます。

撮影日ごとに表示する（カレンダー表示）

撮影した日付ごとに画像を表示します。

1 マルチ画面表示でINFOボタンを押す

「マルチ画面設定」画面が表示されます。

2 もう一度INFOボタンを押す

カレンダー表示になります。
画像が保存されている撮影日だけが表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼）	撮影日を選択
十字キー（◀▶）	撮影日の画像を選択
電子ダイヤル右（Q）	選択画像を全画面表示 電子ダイヤル左（⊞）でカレンダー表示に戻る
INFOボタン	マルチ画面表示に戻る
⦿/🗑ボタン	画像消去

3 OKボタンを押す

選択した画像が全画面表示されます。

画像を比較する

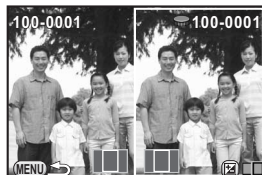
2枚の画像を並べて表示します。

1 再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で□🔍（画像比較）を選び、OKボタンを押す

直前に再生した画像が左右に並んで表示されます。

3 画像を選択し、左右の画像を比較する

ボタン・ダイヤル等の操作

Av ボタン	選択枠切り替え（右→両方→左）
電子ダイヤル	（選択枠：左／右）前後の画像を表示 （選択枠：両方）2枚の画像を同じ倍率で拡大／縮小（1～16倍）
十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動
OK ボタン	（拡大位置移動中）表示を中央に戻す
⦿/🗑 ボタン	（選択枠：左／右）選択画像を消去
INFO ボタン	情報表示切り替え

4 MENUボタンを押す

通常の再生モードに戻ります。

複数画像を貼り付ける（インデックス）

複数の画像を1画面に貼り付けてインデックスプリントのように表示します。表示された画像は、新規保存することができます。貼り付ける画像を選択したり、ランダムに貼り付けることもできます。

1 再生モードで十字キー（▼）を押す

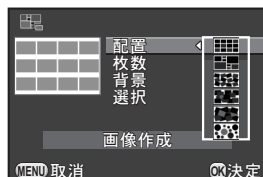
再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（インデックス）を選び、OKボタンを押す

インデックスの設定画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で配置の種類を選択してOKボタンを押す

（サムネイル）／（スクエア）／（ランダム1）／（ランダム2）／（ランダム3）／（バブル）が選択できます。

はファイルNo.の小さい順、それ以外はランダムに画像が配置されます。

4 十字キー（▲▼）で「枚数」を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー（▲▼）で貼り付ける枚数を選択し、OKボタンを押す

12／24／36枚から選択します。

保存されている画像の数が選択した枚数より少ない場合、「配置」が（サムネイル）のときは空欄、それ以外のときは画像が重複して表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「背景」を選び、十字キー（▶）を押す

7 十字キー（▲▼）で背景色を選択し、OKボタンを押す

白または黒を選択します。

8 十字キー（▲▼）で「選択」を選び、十字キー（▶）を押す

9 十字キー（▲▼）で画像の選択方法を選択し、OKボタンを押す

全画像	保存されているすべての画像から自動的に選択します。
手動	貼り付ける画像を1つずつ選択します。続けて「画像選択」を選び、貼り付ける画像を指定します。
フォルダー	指定したフォルダーから自動的に選択します。続けて「フォルダー選択」を選び、フォルダーを指定します。

10 十字キー（▲▼）で「画像作成」を選び、OKボタンを押す

インデックス画像が作成され、確認の画面が表示されます。

11 十字キー（▲▼）で保存／再シャッフルを選び、OKボタンを押す

保存	インデックス画像を7M・★★★のファイルとして保存します。
再シャッフル	貼り付ける画像を選び直して、新たなインデックス画像を表示します。「配置」で▦（サムネイル）を選択した場合は、表示されません。

保存が完了すると再生モードに戻り、インデックス画像が再生されます。

インデックスの画像作成は、処理に時間がかかることがあります。

連続して再生する

SDメモリーカードに保存された全画像を、スライドショウで連続して再生します。

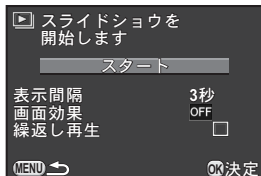
スライドショウの表示方法を設定する

スライドショウでの表示のしかたを設定します。

1 「▶ 再生 1」メニューの「スライドショウ」を選択し、十字キー（▶）を押す

スライドショウの設定画面が表示されます。

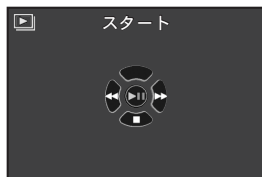
2 十字キー（▲▼）で設定する項目を選ぶ

次の項目が設定できます。

項目	内容	設定値
表示間隔	画像を切り替える間隔を選択します。	3（初期設定）／5／10／30秒
画面効果	画面を切り替えるときの効果を設定します。	オフ（初期設定）／フェード／ワイプ／シュリンク
繰返し再生	最後の画像を再生した後に、また最初から再生を繰り返すかどうか設定します。	□（初期設定）／☑

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で設定を選択してOKボタンを押す

スライドショウを開始する

1 p.162の手順2の画面で「スタート」を選択し、OK ボタンを押す
または再生モードパレットで▣（スライドショウ）を選択し、OK ボタンを押す

スタート画面が表示され、スライドショウが始まります。

ボタン・ダイヤル等の操作

OK ボタン	一時停止／再開
十字キー（◀）	前の画像を表示
十字キー（▶）	次の画像を表示
十字キー（▼）	停止

2 スライドショウを終了する

スライドショウの実行／一時停止中に、次のいずれかの操作をすると終了します。

- 十字キー（▼）を押す *1
- ▶ボタンを押す *1
- MENU ボタンを押す *1
- シャッターボタンを押す *2
- モードダイヤルを回す *2

*1 スライドショウ終了後、通常の再生モードになります。
*2 スライドショウ終了後、撮影モードになります。

動画は1コマ目の画像だけが表示され、表示間隔の設定時間が過ぎると次の画像が再生されます。スライドショウ中に動画を再生するときは、1コマ目が表示されているときに OK ボタンを押します。動画の再生が終わると、スライドショウの続きに戻ります。

画像を回転して表示する

画像の回転情報を変更して再保存します。回転情報を変更した画像は、再生時にその向きで表示されます。

注意

- 次の画像は、回転情報を変更できません。
  - プロテクトされた画像
  - 回転情報タグがない画像
- 動画は回転表示できません。

1 再生モードで回転したい画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で ◇（画像回転）を選び、OK ボタンを押す

選択した画像を90°ずつ回転させた画像が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で回転方向を選択し、OK ボタンを押す

画像の回転表示情報が保存されます。

複数画像を消去する

複数の画像をまとめて消去します。消去した画像は復元できないので、注意してください。

☞画像を消去できないようにする（プロテクト）（p.199）

選択して消去する

マルチ画面表示で複数の画像を選択し、一括して削除します。

- プロテクトされている画像は選択できません。
- 一度に選択できるのは、100枚までです。

1 再生モードで電子ダイヤルを左（⊞）に回す

マルチ画面表示になります。

2 ⊙/🗑ボタンを押す

削除画像を選択する画面になります。
マルチ画面設定（p.156）が90分割になっているときは、一時的に42分割になります。

3 削除する画像を選択する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
OK ボタン	消去画像を選択／解除
電子ダイヤル	選択画像を全画面表示 十字キー（◀▶）で画像切り替え

4 ⊙/🗑ボタンを押す

消去の確認画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「選択消去」を選び、OKボタンを押す

選択した画像が消去されます。

フォルダーを消去する

選択しているフォルダーごと画像を削除します。

1 再生モードで電子ダイヤルを左（⊞）に2クリック回す

フォルダー表示になります。

2 十字キー（▲▼◀▶）で消去するフォルダーを選択し、⊙/🗑ボタンを押す

フォルダー消去の確認画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「消去」を選び、OKボタンを押す

フォルダーとフォルダー内の画像が消去されます。
プロテクトされた画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）ですべて消去／すべて残すを選び、**OK**ボタンを押します。「すべて消去」を選ぶと、プロテクトされていた画像も消去されます。

まとめて消去する

保存されているすべての画像を消去します。

1 「▶ 再生 1」メニューの「全画像消去」を選択し、十字キー（▶）を押す

全画像消去の確認画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「全画像消去」を選び、OK ボタンを押す

全画像が消去されます。
プロテクトされた画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）ですべて消去／すべて残すを選び、**OK** ボタンを押します。「すべて消去」を選ぶと、プロテクトされていた画像も消去されます。

AV機器と接続する

ビデオ端子またはHDMI端子を備えたテレビなどと接続し、画像を再生することができます。

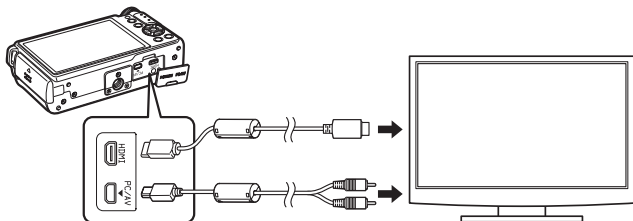
- 複数の映像入力端子があるAV機器で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続する映像入力端子を選択してください。
- ビデオ出力とHDMI出力を同時に行うことはできません。
- AV機器と接続中は、カメラの画像モニターは表示されません。また、カメラで音量調節はできません。AV機器側で音量を調節してください。
- 長時間使用するときは、ACアダプターキットK-AC115J（別売）のご使用をお勧めします。（p.40）

ビデオ端子／HDMI端子に接続する

ビデオ端子またはHDMI端子を備えた機器に接続します。
接続する機器の端子によって、以下のケーブルを用意してください。

AV機器の端子	使用するケーブル
ビデオ端子	AVケーブル I-AVC7（別売）
HDMI端子	HDMI端子（タイプD）を備えたHDMIケーブル（市販品）

1 AV機器とカメラの電源を切る

2 カメラの端子カバーを開き、ケーブルを PC/AV 端子またはHDMI端子に接続する

3　ケーブルのもう一方の端子を AV 機器の映像入力端子に接続する

4　AV機器とカメラの電源を入れる

カメラがビデオモード／HDMIモードで起動し、AV機器にカメラの情報が表示されます。

注意

ビデオ出力の場合は、AV機器の対応解像度にかかわらず、通常の解像度になります。ハイビジョンで出力する場合は、HDMI出力を利用するか、パソコンへ転送して再生してください。

出力方式を設定する

接続した端子に応じて、出力方式を設定します。
通常は初期設定のままでお使いいただけますが、うまく映らない場合は、設定を変更してください。

設定を変更する場合は、ケーブルを抜いた状態で操作してください。

ビデオ出力方式を選択する

初期設定（p.48）で現在地を設定すると、その地域に合ったビデオ出力方式が設定されます。国や地域によっては、初期設定のビデオ出力方式では、うまく映らない場合があります。その場合は、設定を変更してください。

1　「🔧詳細設定2」メニューの「ビデオ出力」を選び、十字キー（▶）を押す

2　十字キー（▲▼）でNTSC／PALを選択し、OKボタンを押す

3　MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

ビデオ出力方式は地域によって異なります。「ワールドタイム」（p.187）を✈（目的地）に切り替えると、その都市の出力方式に切り替わります。日本国内では、NTSC方式です。現在地／目的地で設定できる都市のビデオ出力方式は、「都市名一覧」（p.189）を参照してください。

HDMI出力方式を選択する

HDMI出力方式は、AV機器とカメラが対応する最大のサイズが自動選択されます。うまく映らない場合は、設定を変更してください。

1 「🔧 詳細設定2」メニューの「HDMI出力」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で出力方式を選択し、OKボタンを押す

オート	AV機器とカメラが対応する最大のサイズを自動で選択します。（初期設定）
1080i	1920×1080i
720p	1280×720p
480p 576p	720×480p（ビデオ出力が「NTSC」のとき） 720×576p（ビデオ出力が「PAL」のとき）

3 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

1080i／720pでの出力は、一部の表示がカメラとは異なる画面デザインで表示されます。

7 画像を編集する

撮影した画像の編集方法をご紹介します。

画像のサイズを変更する 172

画像を加工・補正する 174

RAW展開する 180

画像のサイズを変更する

記録サイズを変更する（リサイズ）

画像の記録サイズを変更して新規保存します。

注意
- リサイズできるのは、このカメラで撮影したJPEG画像のみです。
- このカメラでリサイズされた 0.2M ／ 0.3M の画像はリサイズできません。

1 再生モードでリサイズする画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（リサイズ）を選び、OK ボタンを押す

記録サイズを選択する画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で記録サイズを選択し、OK ボタンを押す

元の画像より1つ小さいサイズから選択できます。選択できるサイズは、元の画像のサイズ・アスペクト比によって異なります。

4 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OK ボタンを押す

リサイズされた画像が新規保存されます。

画像の一部を切り取る（トリミング）

画像の必要な部分だけを切り取って、新規保存します。アスペクト比を変更することもできます。

注意
- トリミングできるのは、このカメラで撮影したJPEG画像のみです。
- このカメラでリサイズされた 0.2M ／ 0.3M の画像はトリミングできません。

1 再生モードでトリミングする画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で ⬚（トリミング）を選び、OK ボタンを押す

トリミング範囲を指定する画面が表示されます。

3 トリミングする大きさと範囲を指定する

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル	トリミングサイズを変更
十字キー（▲▼◀▶）	トリミング範囲を移動
Av ボタン	アスペクト比を変更
⦿/🗑 ボタン	トリミング範囲を回転（回転可能なときのみ）

4 OK ボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OK ボタンを押す

トリミングされた画像が新規保存されます。

画像を加工・補正する

デジタルフィルターで加工する

撮影した画像を、デジタルフィルターで加工します。
以下のフィルターが選択できます。

フィルター名	効果	パラメーター
モノトーン	白黒写真のような単色の画像に加工します。	フィルター効果：OFF／レッド／グリーン／ブルー／赤外調
		調色（B-A）：7段階
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像に加工します。	シェーディング強度：弱／中／強
		ぼかし：弱／中／強
		トーンブレイク：レッド／グリーン／ブルー／イエロー
ハイコントラスト	コントラストを強くします。	強度：1～5
シェーディング	周辺を暗くしたような画像に加工します。	シェーディングタイプ：6種類
		シェーディング強度：－3～＋3
スリム	画像の縦横比を変更します。	－8～＋8
HDR	擬似的にハイダイナミックレンジ画像にします。	弱／中／強
ネガポジ反転	画像を反転します。	OFF／ON
色抽出	特定の2色だけを抽出し、他の部分を白黒に加工します。	抽出色 1：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色1の感度：1～5
		抽出色2：OFF／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色2の感度：1～5
カラー	選択したカラーフィルターをかけた画像に加工します。18種類（6色×3段階）の調整ができます。	色：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		濃淡：薄／中／濃
水彩画	絵の具で描いたような画像に加工します。	強度：弱／中／強
		彩度：OFF／低／中／高

フィルター名	効果	パラメーター
ポスタリゼーション	画像の階調を落として手描きのような雰囲気を表現します。	強度：1～5
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような画像に加工します。	弱／中／強
レトロ	古い写真のような画像に加工します。	調色（B-A）：7段階
		縁取り：なし／細／中／太
ソフト	全体をぼかしたようなやわらかい画像に加工します。	ソフトフォーカス：弱／中／強
		シャドーぼかし：OFF／ON
デッサン	鉛筆で下書きしたような画像に加工します。	コントラスト：低／中／高
		スクラッチ：OFF／ON
ミニチュア	画像のボケ具合を操作してミニチュア風の写真に加工します。	芯の位置：－3～＋3
		幅：狭／中／広
		角度：横／縦／右上がり／右下がり
		ぼかし：弱／中／強
フレーム	画像に縁取りを付けます。	フレームタイプ：1／2／3
		幅：細／中／太
トゥインクル	夜景や水面の光の輝きなど、ハイライト部に光条を表現し、キラキラした雰囲気を強調します。	形状：クロス／星／雪／ハート／音符
		個数：少／中／多
		大きさ：小／中／大
		角度：0／30／45／60°
ベースメイク	各パラメーターを調整し、お好みの画像に加工します。	明るさ：－8～＋8
		彩度：－3～＋3
		色相：－3～＋3
		コントラスト：－3～＋3
		シャープネス：－3～＋3

デジタルフィルターで加工できるのは、このカメラで撮影したJPEG／RAW画像のみです。

1 再生モードでフィルターをかける画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（デジタルフィルター）を選び、OKボタンを押す

フィルターを選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）でフィルターを選択する

フィルターを選択すると、効果が画面で確認できます。

電子ダイヤルを回して画像を切り替えることもできます。

パラメーターを変更する必要がないときは、手順7に進みます。

4 Avボタンを押す

パラメーターを調整する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）でパラメーターを選択し、十字キー（◀▶）で値を調整する

カラーフィルター

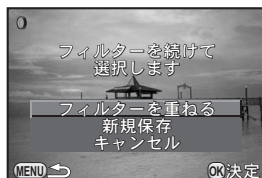
スリムフィルター

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）でフィルターを重ねる／新規保存を選択し、OKボタンを押す

続けて他のフィルターを重ねて指定する場合は「フィルターを重ねる」を選択します。手順3の画面に戻ります。

「新規保存」を選んだ場合は、フィルター処理された画像が新規保存されます。

フィルターは撮影時デジタルフィルター（p.135）も含めて、通算20回まで重ねることができます。

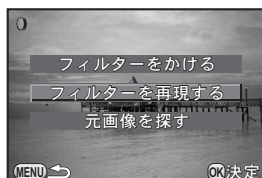
フィルターを再現する

フィルターをかけた画像の設定を呼び出し、他の画像に同じフィルターを適用します。

1 再生モードでデジタルフィルターを設定した画像を選択する

2 再生モードパレットで◐（デジタルフィルター）を選び、OKボタンを押す

3 十字キー（▲▼）で「フィルターを再現する」を選び、OKボタンを押す

選択した画像に設定されているフィルターの履歴が表示されます。

4 詳細を確認する場合はINFOボタンを押す

フィルターのパラメーターが確認できます。

MENUボタンを押すと、元の画面に戻ります。

5 OKボタンを押す

画像を選択する画面が表示されます。

6 電子ダイヤルでフィルターをかける画像を選択し、OKボタンを押す

フィルター処理されていない画像のみ選択できます。
保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

フィルターが適用された画像が保存されます。

元画像を探す

フィルターをかける前の元の画像を探して表示します。

1 p.177の手順3の画面で「元画像を探す」を選び、OKボタンを押す

フィルターをかける前のオリジナル画像が呼び出されます。

メモ：オリジナル画像がSDメモリーカード内に残っていない場合は、「フィルター処理前の画像が見つかりません」と表示されます。

赤目を補正する

ストロボ撮影で人物の目が赤く写った画像を補正します。

- 赤目補正ができるのは、このカメラで撮影したJPEG画像のみです。
- カメラ側で赤目が特定できなかった画像は、補正できません。手順 3 でエラーメッセージが表示されます。

1 再生モードで赤目補正する画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（赤目補正）を選び、OK ボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OK ボタンを押す

赤目補正された画像が新規保存されます。

RAW展開する

撮影したRAW画像からJPEG形式に変換して新規保存します。

RAW展開できるのは、このカメラで撮影したRAW画像のみです。他のカメラで撮影したRAW画像やJPEG画像はRAW展開できません。

1画像ずつRAW展開する

1 再生モードでRAW画像を選択し、十字キー（▼）を押す

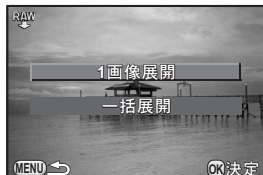
再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でRAW（RAW展開）を選び、OKボタンを押す

展開方法を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「1 画像展開」を選び、OKボタンを押す

画像に記録されているパラメーターが表示されます。

パラメーターを変更しない場合は、手順7に進みます。

4 十字キー（▲▼）で変更したいパラメーターを選択する

電子ダイヤルを回して画像を切り替えることもできます。

以下のパラメーターが変更できます。

パラメーター	値	参照
アスペクト比	16:9／3:2／4:3／1:1	p.121
記録サイズ	アスペクト比に対応したJPEG記録サイズ	p.122
画質	★★★／★★／★	p.123
色空間	sRGB／AdobeRGB	p.123
カスタムイメージ	鮮やか／ナチュラル／人物／風景／雅（MIYABI）／ポップチューン／ほのか／銀残し／リバーサルフィルム／モノトーン／クロスプロセス	p.131
ホワイトバランス	AWB／☼／⌂／☁／D／N／W／L／☀／WB／CTE／	p.124
増減感	–2.0～+2.0	—
高感度NR	オート／弱／強	p.85
シャドー補正	オート／オン／オフ	p.129
ディストーション補正	オン／オフ	p.149

5 十字キー（◀▶）で値を変更する

ホワイトバランス／カスタムイメージは、十字キー（▶）を押すと設定画面が表示されます。

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

画像がRAW展開されて新規保存されます。

8 十字キー（▲▼）で継続／終了を選び、OKボタンを押す

他の画像も展開する場合は、「継続」を選びます。手順5のパラメーターを指定する画面に戻ります。

まとめてRAW展開する

複数の画像を同じ設定でまとめてRAW展開します。

1 p.180の手順3の画面で「一括展開」を選び、OKボタンを押す

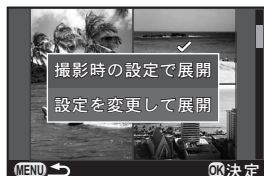
マルチ画面表示になります。
マルチ画面表示の操作については、p.156を参照してください。

2 十字キー（▲▼◀▶）でRAW展開する画像を選択し、OKボタンを押す

3 Avボタンを押す

展開の確認画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で撮影時の設定で展開／設定を変更して展開を選択し、OKボタンを押す

パラメーターを変更する場合は、「設定を変更して展開」を選びます。

5 十字キー（▲▼◀▶）でJPEG記録サイズ／JPEG画質を設定する

手順4で「設定を変更して展開」を選択した場合は、p.181を参照してその他のパラメーターを変更してください。

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

選択した画像がRAW展開されて新規保存されます。

8 その他の設定を変更する

その他の設定変更のしかたをご紹介します。

詳細設定メニューの操作 184
カメラの設定 186
画像管理に関する設定 198

詳細設定メニューの操作

カメラの全般的な設定は「🔧詳細設定」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」(p.32)を参照してください。

詳細設定メニューの設定項目

「🔧詳細設定1～3」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影または再生モードで**MENU**ボタンを押し、十字キー(◀▶)または電子ダイヤルで「🔧詳細設定1～3」メニューを表示します。

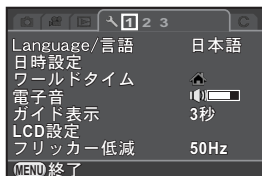
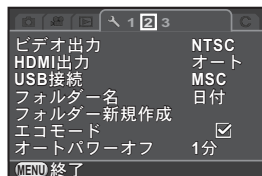
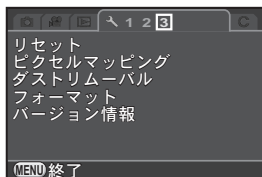
メニュー	項目	機能	参照
🔧1	Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を切り替えます。	p.190
	日時設定	年月日の表示形式と日時を設定します。	p.187
	ワールドタイム	現在地とは別に、指定した都市の日時を画像モニターに表示できるようにします。	p.187
	電子音	電子音の音量とオン/オフを切り替えます。	p.186
	ガイド表示	撮影モードを変更したときに表示されるガイドの表示時間を設定します。	p.191
	LCD設定	画像モニターの明るさと色味を調整します。	p.193
	フリッカー低減	ご使用の地域の電源周波数を設定し、画面のちらつきを抑えます。	p.29
🔧2	ビデオ出力	ビデオ端子を備えたAV機器と接続するときの出力方式を設定します。	p.169
	HDMI出力	HDMI端子を備えたAV機器と接続するときに設定します。	p.170
	USB接続	パソコンと接続するときの転送モードを設定します。	p.205
	フォルダー名	画像が保存されるフォルダー名の付け方を設定します。	p.200

メニュー	項目	機能	参照
🔧2	フォルダー新規作成	SDメモリーカードに新しいフォルダーを作成します。	p.201
	エコモード	10秒間操作しなかったときに、画像モニターの明るさを暗くしてバッテリーの消耗を抑えます。	p.190
	オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.190
🔧3	リセット	設定内容を初期化します。	p.196
	ピクセルマッピング	CMOSセンサーの画素の欠損部分を補完します。	p.194
	ダストリムーバル	CMOSセンサーを振動させてクリーニングします。	p.227
	フォーマット	SDメモリーカードをフォーマットします。	p.198
	バージョン情報	カメラのファームウェアのバージョンを表示します。	p.197

●「🔧詳細設定1」メニュー

●「🔧詳細設定2」メニュー

●「🔧詳細設定3」メニュー

カメラの設定

音／日時／言語を設定する

電子音を設定する

カメラ操作時の電子音の音量とオン／オフを設定できます。
設定できる項目は以下のとおりです。

- 合焦音
- AE-L（AEロック時の操作音）
- セルフタイマー
- リモコン
- ワンタッチRAW+（⦿/🗑ボタンに「ワンタッチRAW+」を割り当てているときの操作音）
- シャッター音

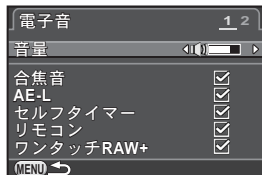
1 「🔧詳細設定1」メニューの「電子音」を選び、十字キー（▶）を押す

「電子音1」画面が表示されます。

2 十字キー（▼）を押してから十字キー（◀▶）で音量を設定する

6段階で設定できます。「0」にすると、すべての項目の電子音を鳴らさない設定になります。

3 十字キー（▲▼）で項目を選択し、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

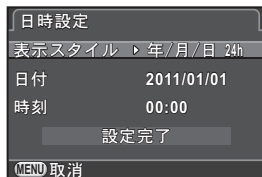
電子ダイヤルで「電子音2」画面に切り替えます。

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

日時の表示を変更する

初期設定で設定した日付と時刻や表示形式を変更します。

「🔧 詳細設定 1」メニューの「日時設定」（p.184）で設定します。

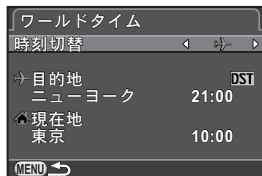
☞日時を設定する （p.50）

ワールドタイムを設定する

「初期設定をする」（p.48）で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。
「ワールドタイム」で目的地を設定しておくと、海外で使用する際に画像モニターに目的地の都市の日時を表示できます。

1 「🔧 詳細設定 1」メニューの「ワールドタイム」を選び、十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で✈（目的地）／⌂（現在地）を切り替える

ガイド表示とコントロールパネルの日時は、この設定で切り替わります。

3 十字キー（▼）でカーソルを✈（目的地）に移動し、十字キー（▶）を押す

「✈目的地」画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）で目的地の都市名を選ぶ

電子ダイヤルを回すと、表示する地域が切り替わります。

選択した都市の位置・時差・現在時刻が表示されます。

5 十字キー（▼）で「夏時間」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

目的地が夏時間を採用している場合は、☑（オン）にします。

6 OKボタンを押す

目的地の設定が保存され、「ワールドタイム」画面に戻ります。

7 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- 目的地として指定できる都市については、「都市名一覧」（p.189）を参照してください。
- 手順3で⌂（現在地）を選択すると、現在地の都市や夏時間を設定できます。
- 時刻切替を ✈（目的地）に設定すると、コントロールパネルとガイド表示（p.69）に✈が表示されます。またビデオ出力方式（p.169）はその都市の初期設定に切り替わります。

● 都市名一覧

地域	都市名	ビデオ出力方式
北米	ホノルル	NTSC
	アンカレジ	NTSC
	バンクーバー	NTSC
	サンフランシスコ	NTSC
	ロサンゼルス	NTSC
	カルガリー	NTSC
	デンバー	NTSC
	シカゴ	NTSC
	マイアミ	NTSC
	トロント	NTSC
	ニューヨーク	NTSC
	ハリファックス	NTSC
中南米	メキシコシティ	NTSC
	リマ	NTSC
	サンティアゴ	NTSC
	カラカス	NTSC
	ブエノスアイレス	PAL
	サンパウロ	PAL
	リオデジャネイロ	NTSC
ヨーロッパ	リスボン	PAL
	マドリード	PAL
	ロンドン	PAL
	パリ	PAL
	アムステルダム	PAL
	ミラノ	PAL
	ローマ	PAL
	コペンハーゲン	PAL
	ベルリン	PAL
	プラハ	PAL
	ストックホルム	PAL
	ブダペスト	PAL
	ワルシャワ	PAL
	アテネ	PAL
	ヘルシンキ	PAL
	モスクワ	PAL
アフリカ・西アジア	ダカール	PAL
	アルジェ	PAL
	ヨハネスブルグ	PAL

地域	都市名	ビデオ出力方式
アフリカ・西アジア	イスタンブール	PAL
	カイロ	PAL
	エルサレム	PAL
	ナイロビ	PAL
	ジッダ	PAL
	テヘラン	PAL
	ドバイ	PAL
	カラチ	PAL
	カブール	PAL
	マーレ	PAL
	デリー	PAL
	コロンボ	PAL
	カトマンズ	PAL
	ダッカ	PAL
東アジア	ヤンゴン	NTSC
	バンコク	PAL
	クアラルンプール	PAL
	ビエンチャン	PAL
	シンガポール	PAL
	プノンペン	PAL
	ホーチミン	PAL
	ジャカルタ	PAL
	香港	PAL
	北京	PAL
	上海	PAL
	マニラ	NTSC
	台北	NTSC
	ソウル	NTSC
	東京	NTSC
	グアム	NTSC
オセアニア	パース	PAL
	アデレード	PAL
	シドニー	PAL
	ヌーメア	PAL
	ウェリントン	PAL
	オークランド	PAL
	パゴパゴ	NTSC

表示言語を設定する

メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。
英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／ポルトガル語／イタリア語／オランダ語／デンマーク語／スウェーデン語／フィンランド語／ポーランド語／チェコ語／ハンガリー語／トルコ語／ギリシャ語／ロシア語／韓国語／中文繁体／中文簡体／日本語に対応しています。

「🔧詳細設定1」メニューの「Language/言語」（p.184）で設定します。

☞言語を設定する （p.48）

画像モニター／メニュー表示を設定する

バッテリーの消耗を抑える

一定時間操作しないときに、画像モニターを暗くしたり、自動的に電源が切れるように設定できます。

「🔧詳細設定2」メニューのエコモード／オートパワーオフ（p.185）で設定します。

エコモード	10秒間操作しなかったときに、画像モニターの明るさを暗くします。初期設定は☑（オン）です。 いずれかのボタンを操作すると、もとの明るさに戻ります。
オートパワーオフ	自動的に電源を切ります。電源が切れるまでの時間は、1分（初期設定）／3分／5分／オフから選択できます。 復帰するときは、電源ボタンを押します。

- 動画撮影中はエコモードには移行しません。
- 次のときは、オートパワーオフは働きません。
  - スライドショウ再生中
  - USB接続中

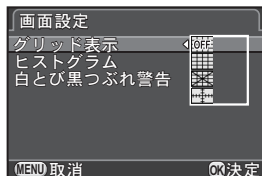
撮影モードの表示を設定する

撮影モードの画像モニターの表示を設定します。

1 「撮影3」メニューの「画面設定」を選び、十字キー（▶）を押す

「画面設定」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で「グリッド表示」の種類を選択してOKボタンを押す

（初期設定）／（16分割）／（黄金分割）／（スケール）が選択できます。

3 十字キー（▲▼）でヒストグラム／白とび黒つぶれ警告を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

ヒストグラム	画像の明るさの分布をグラフで表示します。（p.26）
白とび黒つぶれ警告	白とび部分を赤、黒つぶれ部分を黄色で点滅表示します。（p.28）

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

ガイドの表示時間を設定する

撮影モードを変更したときに、画像モニターにガイド（p.69）を表示する時間を設定します。
3秒（初期設定）／10秒／30秒／オフから選択します。
「詳細設定1」メニューの「ガイド表示」（p.184）で設定します。

メニューの表示ページを設定する

MENU ボタンを押してメニューを表示したときに最初に表示するページについて設定します。

1 「C カスタム2」メニューの「12. メニュー選択の記憶」を選び、十字キー（▶）を押す

「12. メニュー選択の記憶」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で記憶しない／記憶するを選び、OK ボタンを押す

1	記憶しない	常に「撮影1」（モードのときは「動画1」、再生モードのときは「再生1」）から表示する（初期設定）
2	記憶する	最後に選択したメニューのページを最初に表示する

3 MENU ボタンを押す

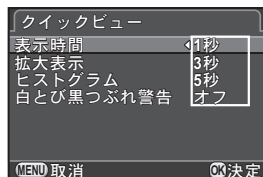
メニュー選択前の画面に戻ります。

クイックビューの表示を設定する

撮影直後に画像を表示するクイックビュー（p.55）の表示を設定します。

1 「撮影3」メニューの「クイックビュー」を選び、十字キー（▶）を押す

「クイックビュー」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でクイックビューの表示時間を選択して OK ボタンを押す

3 十字キー（▲▼）で拡大表示／ヒストグラム／白とび黒つぶれ警告を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

拡大表示	電子ダイヤルで拡大表示ができます。(p.155)
ヒストグラム	画像の明るさの分布をグラフで表示します。(p.26)
白とび黒つぶれ警告	白とび部分を赤、黒つぶれ部分を黄色で点滅表示します。(p.28)

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

画像モニターの明るさと色味を設定する

画像モニターの明るさと色味を調整します。

1 「🔧 詳細設定 1」メニューの「LCD 設定」を選び、十字キー（▶）を押す

「LCD設定」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で明るさ／色調整を選択する

明るさ	明るさを調整します（−3～＋3）
色調整（ブルー／アンバー）	ブルー－アンバー間の色味を調整します。(B7～A7)
色調整（グリーン／マゼンタ）	グリーン－マゼンタ間の色味を調整します。(G7～M7)

3 十字キー（◀▶）で調整する

⦿/🗑ボタンを押すと調整値がリセットされます。（「📷撮影3」メニューの「グリーンボタン」を「グリーンボタン」に設定しているときのみ有効（p.144））

4 OKボタンを押す

5 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

センサー画素の欠けを補完する（ピクセルマッピング）

CMOSセンサーの画素に欠けがあった場合に補完処理を行います。
レンズは、01 STANDARD PRIMEまたは02 STANDARD ZOOMを取り付けてください。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「ピクセルマッピング」を選び、十字キー（▶）を押す

「ピクセルマッピング」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「ピクセルマッピング」を選び、OKボタンを押す

補完処理が行われ、メニュー選択前の画面に戻ります。

- 補完処理は、30秒程の時間がかかります。
- バッテリーの容量が少ない場合、「電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません」と画像モニターに表示されます。ACアダプターキット K-AC115J（別売）を使用するか、十分に充電されたバッテリーを使用してください。

カメラに保存する設定を選択する（モードメモリ）

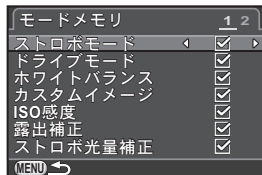
カメラの電源を切っても設定を記憶しておく機能を選択します。以下の機能について設定できます。

機能	初期設定	機能	初期設定
ストロボモード	☑	ストロボ光量補正	☑
ドライブモード	☑	フォーカス位置	□
ホワイトバランス	☑	デジタルフィルター	□
カスタムイメージ	☑	HDR撮影	□
ISO感度	☑	再生情報表示	☑
露出補正	☑	ファイルNo.	☑

1 「📷 撮影 3」メニューの「モードメモリ」を選び、十字キー（▶）を押す

「モードメモリ1」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で項目を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

電子ダイヤルで「モードメモリ2」画面に切り替えます。

☑	電源を切っても設定は記録されます。
□	電源を切ると設定は消去され、初期設定に戻ります。

3 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- 「ファイルNo.」を☑（オン）にすると、フォルダーが新しくなってもファイル名の連番が継続されます。詳しくは、「ファイルNo.の付け方を選択する」（p.200）を参照してください。
- 「🔧 詳細設定3」メニューの「リセット」（p.196）を実行すると、モードメモリの設定はすべて初期設定に戻ります。

設定をリセットする

撮影／動画／再生／詳細設定メニューのリセット

「撮影」メニュー／「動画」メニュー／「再生」メニュー／「詳細設定」メニュー／ダイレクトキー／再生モードパレットの設定内容を初期設定に戻します。

1 「詳細設定3」メニューの「リセット」を選び、十字キー（▶）を押す

「リセット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「リセット」を選び、OKボタンを押す

設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。

以下の内容はリセットされません。
- Language/言語
- 日時設定
- ワールドタイムの都市設定
- フリッカー低減
- ビデオ出力
- 「Cカスタム」メニュー

カスタムメニューのリセット

「Cカスタム」メニューの設定内容をすべて初期設定に戻します。

1 「Cカスタム2」メニューの「カスタムのリセット」を選び、十字キー（▶）を押す

「カスタムのリセット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「リセット」を選び、OKボタンを押す

設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。

カメラのバージョンを確認する

カメラ内のソフトウェア（ファームウェア）のバージョンを確認します。ファームウェアのアップデートファイルが公開された場合は、カメラをアップデートし、最新の状態にすることができます。

アップデートについての情報や詳しい手順は、当社ホームページをご確認ください。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「バージョン情報」を選び、十字キー（▶）を押す

「バージョン情報」画面に、カメラとレンズのファームウェアのバージョンが表示されます。

SD メモリーカード内にアップデートファイルがある場合は、このあとアップデートを実行することができます。

2 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- アップデートしたカメラを元のバージョンに戻すことはできません。
- アップデートを実行する前に、SDメモリーカード内のデータをパソコンなどに保存しておいてください。
- バッテリーの容量が少ない場合、「電池容量がたりないためアップデートを行えません」と画像モニターに表示されます。ACアダプターキットK-AC115J（別売）を使用するか、十分に充電されたバッテリーを使用してください。

画像管理に関する設定

SDメモリーカードをフォーマットする

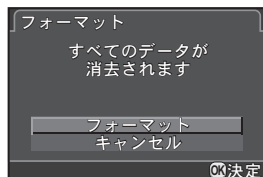
未使用または他の機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。
フォーマットを行うと、SDメモリーカードに保存されていたすべてのデータが消去されます。

注意
- SDメモリーカードのフォーマット中は、絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトされた画像も消去されます。ご注意ください。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「フォーマット」を選び、十字キー（▶）を押す

「フォーマット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「フォーマット」を選び、OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。
フォーマットが終わると、メニュー選択前の画面に戻ります。

メモ
フォーマットすると、SDメモリーカードに「PENTAX Q」というボリュームラベルが付きます。本機をパソコンに接続した場合、SDメモリーカードは「PENTAX Q」という名称のリムーバブルディスクとして認識されます。

画像を消去できないようにする（プロテクト）

画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）することができます。

注意 プロテクトされた画像も、SDメモリーカードをフォーマットすると消去されます。

1 再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で O-n（プロテクト）を選び、OKボタンを押す

設定方法を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で1画像／全画像を選び、OKボタンを押す

「全画像」を選択した場合は、手順5に進みます。

4 電子ダイヤルでプロテクトする画像を選択する

5 十字キー（▲▼）で「プロテクト」を選び、OKボタンを押す

プロテクトを解除する場合は「解除」を選びます。

画像がプロテクトされ、画面右上に O-n が表示されます。

他の画像をプロテクトする場合は、手順4～5を繰り返します。

6 MENUボタンを押す

再生モードに戻ります。

フォルダー名の付け方を選択する

画像が保存されるフォルダー名の付け方を設定します。

日付	「xxx_MMDD」の形式で、画像を撮影した月／日が2桁表示でフォルダー名に付けられます。「xxx」は100から999までの連番です。「MMDD」（月日）の表示は、「日時設定」（p.50）の表示スタイルに準じます。（初期設定） 例）101_0125：1月25日に撮影した画像が保存されるフォルダー
PENTX	「xxxPENTX」の形式でフォルダー名が付けられます。 例）101PENTX

「詳細設定2」メニューの「フォルダー名」（p.184）で設定します。

撮影可能枚数が500枚を超える場合、撮影画像は500枚ごとにフォルダーが分かれて保存されます。ただし、露出ブラケット撮影のときは、500枚を超えても撮影が終了するまで同じフォルダーに保存されます。

ファイルNo.の付け方を選択する

「撮影3」メニューの「モードメモリ」（p.195）で「ファイルNo.」を設定することで、画像が保存されるフォルダーが新しくなったときの、画像のファイルNo.の付け方を選ぶことができます。

☑	前のフォルダーに最後に保存された画像のファイルNo.が記憶され、フォルダーが新しくなっても続きのファイルNo.になります。
□	画像を保存するフォルダーが新しくなるたびに、最初に保存される画像のファイルNo.が0001に戻ります。

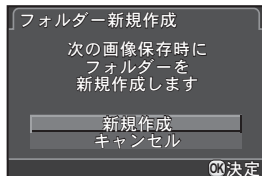
フォルダーを作成する

SDメモリーカードに新しくフォルダーを作成します。使用中のフォルダーの次の番号のフォルダーが作成されます。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「フォルダー新規作成」を選び、十字キー（▶）を押す

「フォルダー新規作成」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「新規作成」を選び、OKボタンを押す

次に画像が保存されるときに、新しい番号のフォルダーが作成されます。

この操作で作成されるフォルダーは1つのみです。空のフォルダーを続けて複数作成することはできません。

DPOFを設定する

画像を記録したSDメモリーカードにDPOF（Digital Print Order Format）を設定することで、プリント枚数や日付印刷が指定できます。このSDメモリーカードをプリント取扱店に持っていくと、従来の写真のようにプリントが注文できます。

- RAW画像と動画はDPOFを設定できません。
- DPOFが設定できるのは、最大で999画像です。

1 再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（DPOF）を選び、OKボタンを押す

設定方法を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で1画像／全画像を選び、OKボタンを押す

「全画像」を選択した場合は、手順5に進みます。

4 電子ダイヤルで DPOF を設定する画像を選択する

5 十字キー（▲▼）でプリント枚数を指定する

99枚まで設定できます。
枚数を指定した画像には、画面右上に⎙が表示されます。
DPOF設定を解除するときは、枚数を「00」に設定します。

6 ☒Avボタンで日付の☑／□を切り替える

☑	日付をプリントする
□	日付をプリントしない

他の画像も設定する場合は、手順4～6を繰り返します（最大999画像）。

7 OKボタンを押す

DPOF設定が保存され、再生モードに戻ります。

- プリンターやプリント取扱店の機器によっては、DPOFの設定で日付を☑にしても日付がプリントされないことがあります。
- 全画像設定では、すべての画像に同じプリント枚数が設定され、1画像ずつの設定は解除されます。プリントをする前に必ず、枚数の設定が正しいか確認してください。

9 パソコンと接続する

カメラとパソコンの接続方法や、付属ソフトウェアのインストール手順と概要を説明します。

画像をパソコンで利用するには 204
画像をパソコンに保存する 205
付属ソフトウェアを使用する 207

画像をパソコンで利用するには

撮影した静止画・動画は、本機とパソコンをUSBケーブルで接続して転送したり、付属ソフトウェア「SILKYPIX Developer Studio」でRAW画像の展開ができます。
パソコンとの接続と付属ソフトウェアの使用には、以下のシステム環境が必要です。

● Windows

OS	Windows 7（32bit／64bit）／Windows Vista（32bit／64bit）／Windows XP（SP3以降、Home／Pro 32bit） • インストールには管理者権限が必要 • 64bit OS上では、32bitアプリケーションとして動作可能
CPU	Intel Pentium互換プロセッサ（Pentium 4／Athlon XP以上推奨） • マルチコア（Intel Core i7, i5／Core 2 Quad, Duo／AMD Phenom II X6, X4／Athlon II X4, X2等）対応
メモリ	1GB以上（2GB以上推奨）
HDD	プログラムのインストール、起動時：100MB以上の空き容量 画像ファイル保存：1ファイルあたり10MB程度
モニター	1024×768ドット、24bitフルカラー以上
その他	キーボード、マウス等の入力デバイス

● Macintosh

OS	Mac OS X 10.6／10.5／10.4
CPU	Intelプロセッサ対応／Power PC
メモリ	1GB以上（2GB以上推奨）
HDD	プログラムのインストール、起動時：100MB以上の空き容量 画像ファイル保存：1ファイルあたり10MB程度
モニター	1024×768ドット、24bitフルカラー以上
その他	キーボード、マウス等の入力デバイス

本機で撮影した動画をパソコンで再生するときは、QuickTimeが必要です。
QuickTimeは下記アドレスからダウンロードできます。
http://www.apple.com/jp/quicktime/download/

画像をパソコンに保存する

転送モードを設定する

本機とパソコンを接続するときの転送モードを設定します。

1 「🔧 詳細設定 2」メニューの「USB 接続」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）でMSC／PTPを選択し、OK ボタンを押す

MSC	マスストレージクラス（初期設定） パソコンにUSB接続された機器を記憶装置として扱うための汎用のドライバプログラムです。
PTP	ピクチャートランスファープロトコル USBを通じてデジタル画像の転送やデジタルカメラの制御を行うためのプロトコルです。

特に指定がない限り、「MSC」を選択します。

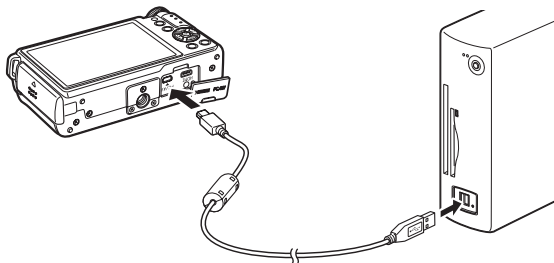
3 MENU ボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

カメラとパソコンを接続する

付属のUSBケーブルI-USB7を使用してパソコンと接続します。

1 パソコンの電源を入れる

2 カメラの電源を切り、USBケーブルでパソコンとカメラのPC/AV端子を接続する

3 カメラの電源を入れる

カメラは「PENTAX Q」というボリュームラベルで、リムーバブルディスクまたはSDメモリーカードとして認識されます。

カメラの電源を入れたときに「PENTAX Q」ダイアログが表示された場合は、ダイアログ内の「フォルダを開いてファイルを表示する エクスプローラ使用」を選択してOKボタンをクリックします。

4 カメラの画像をパソコンに保存する

画像ファイルまたはフォルダーをパソコンのハードディスクなどにコピーします。

5 カメラをパソコンから取り外す

付属ソフトウェアを使用する

付属のCD-ROM（S-SW115）には、「SILKYPIX Developer Studio 3.0 for PENTAX」が収録されています。SILKYPIX Developer Studioは、RAWファイルを展開（現像）して色調整などを行い、JPEGまたはTIFF形式で保存します。

ソフトウェアのインストール

付属のCD-ROMからソフトウェアをインストールします。
ご使用のOSで複数アカウントを設定している場合は、administrator（管理者）権限でログオンしてからインストールを始めてください。

1 パソコンの電源を入れる

他に起動しているソフトがあるときは、終了させます。

2 CD-ROM（S-SW115）をパソコンのCD／DVDドライブにセットする

「PENTAX Software Installer」の画面が表示されます。

「PENTAX Software Installer」の画面が表示されない場合

- **Windows**
  1 スタートメニューから「マイコンピュータ」をクリックする
  2「CD／DVDドライブ（S-SW115）」のアイコンをダブルクリックする
  3「Setup.exe」のアイコンをダブルクリックする
- **Macintosh**
  1 デスクトップのCD／DVD（S-SW115）のアイコンをダブルクリックする
  2「PENTAX Installer」のアイコンをダブルクリックする

3 「SILKYPIX Developer Studio 3.0 for PENTAX」をクリックする

Macintoshの場合は、以降の操作は画面の指示に従ってください。

4 「設定言語の選択」画面で「日本語」を選択し、[OK] ボタンをクリックする

5 日本語の「InstallShield Wizard」画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックする

以降の操作は画面の指示に従ってください。

SILKYPIX Developer Studioの画面

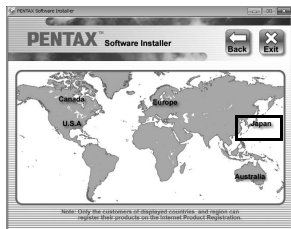
SILKYPIX Developer Studio 3.0 for PENTAXを起動すると、右図の画面が表示されます。

ソフトウェアの詳しい使い方は、ヘルプを参照してください。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力ください。

p.208の手順3の画面で、「Product Registration」をクリックします。

右図のような地図画面が表示されたら、「Japan」をクリックしてください。パソコンがインターネットに接続できる環境にあれば、弊社ホームページのユーザー登録画面が表示されます。画面の指示に従って、登録をしてください。

ユーザー登録画面が表示されない場合は、下記アドレスから直接アクセスしてください。

https://service.pentax.jp/pentax/user

10 ストロボの活用

内蔵ストロボの詳細、および外付けストロボを使用した撮影方法をご紹介します。

内蔵ストロボの詳細 212
外付けストロボ（別売）を利用する 215

内蔵ストロボの詳細

露出モードによるストロボ撮影の特徴

Tvモードでストロボを使う

- 動きのあるものを撮影するときに、ぶれの効果を変えてストロボ撮影ができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化します。

Avモードでストロボを使う

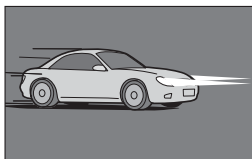
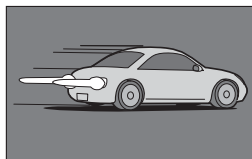
- ピントが合って見える範囲（被写界深度）を変えて撮影したいときや、より遠くのものを写したいときなどに、絞り値を自由に変えてストロボ撮影ができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化します。

スローシンクロを利用する

夕景などを背景にして人物撮影をするときは、SCN（シーン）モードの（夜景人物）や、Tv（シャッター優先）モードを使ってスローシンクロを行うと、人物も背景もきれいに撮影できます。P（プログラム）／Av（絞り優先）モードのときは、ストロボモードの／が使用できます。

- スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため「Shake Reduction」を使用するか、「Shake Reduction」をオフに設定してカメラを三脚などに固定してください。また、撮影される側が動いても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。
- スローシンクロは、外付けストロボでも同様に行うことができます。

後幕シンクロを利用する

後幕シンクロではシャッター幕が閉じる直前にストロボが発光します。動いている被写体などを低速で撮影する場合、ストロボの発光タイミングの違いにより、スローシンクロとは違う効果の写真になります。
例えば、走っている車を後幕シンクロで撮影すると、シャッターが開いている間にライトの光跡などが露光され、ストロボ発光によって最後に車の姿を露光します。そのため、光跡が流れるような写真を撮影できます。

スローシンクロ
（先幕シンクロ）

後幕シンクロ

後幕シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため「Shake Reduction」を使用するか、「Shake Reduction」をオフに設定してカメラを三脚などに固定してください。

内蔵ストロボ撮影時の距離と絞り

ストロボを使って撮影する場合、ストロボのガイドナンバーとカメラの絞り値、撮影距離の間には、一定の条件が必要です。
計算してみて光量が不足する場合、撮影条件を見直してください。

ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー	ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー
ISO 125	約5.6	ISO 1600	約20
ISO 200	約7	ISO 3200	約28
ISO 400	約10	ISO 6400	約40
ISO 800	約14		

使用絞りから撮影距離を算出する方法

絞り値が決まった場合、ストロボをどの距離まで使用できるかは、次の式で計算できます。

遠距離側の目安　距離L1＝ガイドナンバー÷絞り値
近距離側の目安　距離L2＝遠距離側目安÷6 *

*「6」という数値は、このカメラの内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用される数値です。

例）ISO感度がISO 200の場合、絞り値F2.0で使用すると、

L1＝7÷2.0＝約3.5（m）

L2＝3.5÷6＝約0.6（m）

すなわち、約0.6～3.5mの範囲でストロボが使用できます。
ただし、このカメラの内蔵ストロボは、0.7m以下の距離では使用できません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレ、露出オーバーの原因となります。

撮影距離から使用絞りを算出する方法

撮影距離が決まっている場合は、次の式で絞り値を算出します。

絞り値F＝ガイドナンバー÷撮影距離

例）ISO感度がISO 200の場合、撮影距離3mで計算すると、

F＝7÷3＝約2.3

上記のように計算で出た数字が「2.3」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方で近い値、この例では「2.0」に設定します。

レンズと内蔵ストロボの適合

本機と組み合わせるレンズによっては、レンズフードなしで取り付けても、ケラレが発生するために内蔵ストロボが使用できなかったり、使用できても制限がある場合があります。

ケラレが発生するので使用不可

レンズ名
03 FISH-EYE

外付けストロボ（別売）を利用する

別売の外付けストロボAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCを使用すると、P-TTLオートストロボ撮影が可能なほか、ストロボの機能に応じて様々なストロボ撮影ができます。

○：使用可　　×：使用不可

カメラの機能 ＼ ストロボ	内蔵ストロボ	AF540FGZ AF360FGZ	AF200FG AF160FC
赤目軽減機能	○	○	○
ストロボ自動発光	○	○	○
同調速度への自動切り替え	○	○	○
P／**Tv**モードで絞り値自動セット	○	○	○
P-TTLオートストロボ撮影	○	○	○
スローシンクロ撮影	○	○	○
ストロボ光量補正	○	○	○
オートズーム連動	×	○	×
外付けストロボのAF補助光使用	×	×	×
後幕シンクロ撮影 *1	○	○	×
光量比制御モード	×	×	×
スレーブ機能	×	×	×
ワイヤレス撮影	×	×	×

*1 01 STANDARD PRIME／02 STANDARD ZOOM は 1/2000秒以下（外付けストロボ時は1/250秒以下）、03 FISH-EYE／04 TOY WIDE／05 TOY TELEPHOTO は 1/13秒以下

- 外付けストロボを接続した場合、内蔵ストロボは発光しません。
- 極性が逆（ホットシューの中心の接点がマイナス）のストロボは使用できません。カメラやストロボが壊れる恐れがあります。

- 本機のホットシューに外付けストロボを直接取り付けると、重心が大きくずれて撮影しにくくなります。外付けストロボを使用する場合は、延長コードを利用してカメラとストロボを離すことをお勧めします。（p.217）
- AF160FC の発光部をカメラに取り付ける場合は、市販のステップアップリングなどを利用してください。
- AF540FGZ／AF360FGZの外光オートモードを使用する場合は、撮影モードを **M**（マニュアル）モード、内蔵ストロボを⊛（発光禁止）に設定してください。

P-TTLで撮影する

AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCと組み合わせた場合、「P-TTLオートストロボ」で撮影できます。

1 **カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける**

2 **カメラと外付けストロボの電源を入れる**

3 **外付けストロボの発光モードを「P-TTL」に設定する**

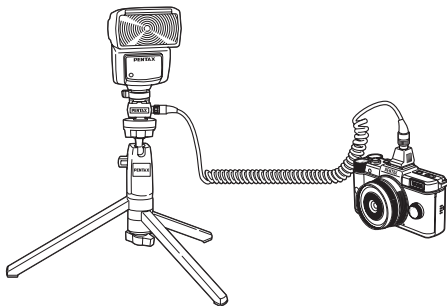
4 **外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する**

- 外付けストロボ使用時の同調速度は、最高で1/250秒です。
- P-TTL オートストロボ撮影は、AF540FGZ ／ AF360FGZ ／ AF200FG ／ AF160FCと組み合わせた場合のみ可能です。
- 操作のしかたや撮影できる距離など詳しい内容については、外付けストロボの使用説明書を参照してください。
- ストロボモードが⚡A／⚡◎の場合は、撮りたいものが明るいと発光しませんので、日中シンクロ撮影ではご注意ください。
- 外付けストロボを取り付けた状態で、内蔵ストロボをポップアップしないでください。内蔵ストロボが外付けストロボに接触します。

赤目軽減機能について

内蔵ストロボ同様、外付けストロボでも赤目軽減機能が使用できます。外付けストロボのみを使用しているときも、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が働きます。
ストロボの種類によって使用できない場合や使用条件がありますので、p.215の一覧表を参照してください。

外付けストロボを延長コードで接続する

図のようにカメラのホットシュー部分にホットシューアダプター FG（別売）を、外付けストロボの下にオフカメラシューアダプターF（別売）を付け、延長コードF5P（別売）で接続します。オフカメラシューアダプターFの下には三脚取り付け用のねじがありますので、三脚に固定することができます。
外付けストロボを接続した場合、内蔵ストロボは発光しません。

- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。

11 付録

初期設定一覧 220
各種レンズを組み合わせたときの機能 226
CMOSセンサーのクリーニング 227
別売アクセサリー 228
エラーメッセージ 232
困ったときは 234
主な仕様 237
索引 243
アフターサービスについて 250
製品の点検・修理について 251

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
カメラの電源を切っても、モードメモリ（p.195）で設定した機能は保存されます。

リセット設定
する　：リセット（p.196）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される

ダイレクトキー

項目	初期設定	リセット設定	参照
ISO感度	AUTO（ISO 125～3200）	する	p.75
ホワイトバランス	**AWB**（オート）	する	p.124
ストロボモード	撮影モードによって異なる	する	p.57
ドライブモード	□（1コマ撮影）	する	p.80 p.98 p.100 p.102

クイックダイヤル

ポジション	初期設定	リセット設定	参照
1	スマートエフェクト「極彩」	する	p.138
2	スマートエフェクト「ソリッドモノカラー」		
3	スマートエフェクト「Auto110モード」		
4	スマートエフェクト「クロスプロセス」		

「撮影」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
カスタムイメージ		鮮やか	する	p.131
デジタルフィルター		フィルターオフ	する	p.135
記録設定	記録形式	JPEG	する	p.121
	アスペクト比	4:3	する	p.121
	JPEG記録サイズ	12M (4000×3000)	する	p.122
	JPEG画質	★★★（スーパーファイン）	する	p.123
	色空間	sRGB	する	p.123
フォーカス設定	フォーカスモード	AF	する	p.86
	AF方式	（セレクト（25点））	する	p.87
	MFアシスト	オフ	する	p.93
測光方式		（分割）	する	p.84
NDフィルター		オフ	する	p.148
HDR撮影		オフ	する	p.130
多重露出	撮影回数	2回	する	p.107
	自動露出調整	□（オフ）	する	
インターバル撮影	撮影間隔	1秒間	する	p.104
	撮影枚数	2枚	する	
	開始トリガー	即時	する	
	撮影開始時刻	12：00AM／00：00	する	
D-Range設定	ハイライト補正	オート	する	p.128
	シャドー補正	オート	する	p.129
高感度NR		オート	する	p.85
ディストーション補正		オン	する	p.149
クイックダイヤル		スマートエフェクト	する	p.138

項目			初期設定	リセット設定	参照
グリーンボタン	グリーンボタン		グリーンボタン	する	p.144
	ワンタッチRAW+	撮影毎に解除	☑（オン）	する	
		JPEG／RAW／RAW+からの記録形式	すべてRAW+	する	
	M時の動作		P LINE	する	p.147
	P時の電子ダイヤル		P SHIFT	する	p.146
画面設定	グリッド表示		（オフ）	する	p.191
	ヒストグラム		□（オフ）	する	
	白とび黒つぶれ警告		□（オフ）	する	
クイックビュー	表示時間		1秒	する	p.192
	拡大表示		□（オフ）	する	
	ヒストグラム		□（オフ）	する	
	白とび黒つぶれ警告		□（オフ）	する	
モードメモリ	フォーカス位置／デジタルフィルター／HDR撮影		□（オフ）	する	p.195
	上記以外		☑（オン）	する	
Shake Reduction			（オン）	する	p.96

「動画」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
記録サイズ		FullHD（1920×1080、16:9）	する	p.109
音声		（オン）	する	
露出設定		Auto	する	
Movie SR		（オン）	する	
インターバル動画	撮影間隔	1秒間	する	p.113
	撮影所要時間	5秒	する	
	開始トリガー	即時	する	
	撮影開始時刻	12：00AM／00：00	する	

再生モードパレット

項目	初期設定	リセット設定	参照
画像回転	—	—	p.164
デジタルフィルター	モノトーン	する	p.174
赤目補正	—	—	p.179
リサイズ	設定可能な最大値	—	p.172
トリミング	設定可能な最大値	—	p.173
インデックス	—	—	p.160
プロテクト	—	しない	p.199
スライドショウ	—	する	p.163
クロスプロセス登録	—	する	p.134
RAW展開	記録サイズ：12M 画質：★★★	する	p.180
動画編集	—	—	p.117
画像比較	—	—	p.159
DPOF	—	しない	p.201

「▶再生」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	p.162
	画面効果	オフ	する	
	繰返し再生	□（オフ）	する	
クイック拡大		オフ	する	p.154
白とび黒つぶれ警告		□（オフ）	する	
全画像消去		—	—	p.167

「🔧詳細設定」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
Language/言語		初期設定による	しない	p.190
日時設定		初期設定による	しない	p.187
ワールドタイム	ワールドタイム設定	⌂（現在地）	する	p.187
	現在地（都市）	初期設定による	しない	
	現在地（夏時間）	初期設定による	しない	
	目的地（都市）	現在地と同じ	しない	
	目的地（夏時間）	現在地と同じ	しない	
電子音	音量	3	する	p.186
	設定	すべて☑（オン）		
ガイド表示		3秒	する	p.191
LCD設定		±0	する	p.193
フリッカー低減		50Hz	しない	p.29
ビデオ出力		初期設定による	しない	p.169
HDMI出力		オート	する	p.170
USB接続		MSC	する	p.205
フォルダー名		日付	する	p.200
フォルダー新規作成		—	—	p.201
エコモード		☑（オン）	する	p.190
オートパワーオフ		1分	する	p.190
リセット		—	—	p.196
ピクセルマッピング		—	—	p.194
ダストリムーバル	ダストリムーバル	—	—	p.227
	起動時の作動／終了時の作動	□（オフ）	する	
フォーマット		—	—	p.198
バージョン情報		—	—	p.197

「Cカスタム」メニュー

項目	初期設定	リセット設定	参照
1. AFロック時のAE-L	オン	する	p.83
2. 測距点と露出の関連付	オフ	する	p.84
3. ブラケット撮影順	0 – +	する	p.80
4. Shake Reductionの動作	Mode1	する	p.97
5. ストロボ発光時のWB	**AWB**	する	p.125
6. 白熱灯下のAWB	弱	する	—
7. AFの動作	フォーカス優先	する	p.88
8. AF補助投光	オン	する	p.87
9. リモコン時のAF	オフ	する	p.101
10. ストロボ収納時の発光	発光する	する	p.60
11. 充電中のレリーズ	オフ	する	p.60
12. メニュー選択の記憶	記憶しない	する	p.192
13. 電子シャッターの併用	禁止	する	p.226
カスタムのリセット	—	—	p.196

各種レンズを組み合わせたときの機能

○：使用可
△：機能制限あり
×：使用不可

機能＼レンズ	01 STANDARD PRIME（単焦点） 02 STANDARD ZOOM（ズーム）	04 TOY WIDE（広角） 05 TOY TELEPHOTO（望遠）	03 FISH-EYE（魚眼）
オートフォーカス	○	×	×
マニュアルフォーカス	○	○	○
クイックシフトフォーカス	○	×	×
AF方式	○	×	×
絞り制御	○	×	×
レンズ内蔵NDフィルター	○	×	×
レンズ内蔵シャッター	○	×	×
電子シャッター	○*1	○	○
分割測光	○	○	×（中央重点）
AUTO／**SCN**／**BC**モード	○	△*2	△*2
P／**Tv**モード	○	△*2	△*2
Avモード	○	△*2	△*2
Mモード	○	△*2 *3	△*2 *3
動画モード	○	△*2	△*2
P-TTLオートストロボ	○*4	○*5	△*5 *6

*1「**C**カスタム2」メニューの「13. 電子シャッターの併用」で「許可」に設定します。許可に設定した場合、レンズ内蔵シャッターよりも高速側を電子シャッターで撮影することができます。
例） 01 STANDARD レンズの場合
1/2000秒以下はレンズ内蔵シャッターで撮影、1/2000秒超～1/8000秒を電子シャッターで撮影
*2 絞り固定
*3 **Bulb**モード不可　シャッター速度の低速側は2秒まで
*4 内蔵ストロボ＝1/2000秒、外付けストロボ＝1/250秒
*5 ストロボ同調速度は約1/13秒
*6 配光ムラが生じる

CMOSセンサーのクリーニング

CMOSセンサーに汚れやほこりが付着していると、背景が白いものなど撮影の条件によっては画像に影が写り込むことがあります。そのような場合には、CMOSセンサーのクリーニングが必要です。

CMOSセンサーを振動させてほこりを落とす（ダストリムーバル）

CMOSセンサーを振動させて付着したゴミを落とします。

1 **「🔧詳細設定3」メニューの「ダストリムーバル」を選び、十字キー（▶）を押す**

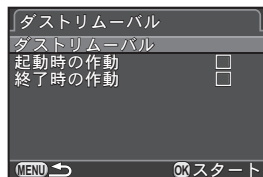
「ダストリムーバル」画面が表示されます。

2 **OKボタンを押す**

CMOSセンサーが駆動し、ダストリムーバル機能が作動します。

電源のON／OFF時に毎回ダストリムーバルを作動させたい場合は、起動時の作動／終了時の作動をそれぞれ☑にします。

ダストリムーバブルが終了すると、「🔧詳細設定3」メニューに戻ります。

注意

ブロアーで清掃する場合は、ブラシが付いていないものを使用してください。ブラシを使用するとCMOSセンサーが傷つくことがあります。また、CMOSセンサーは絶対に布で拭かないでください。

別売アクセサリー

このカメラには、各種専用アクセサリーが用意されています。アクセサリーの詳細については、当社のお客様相談センター、またはお客様窓口にお問い合わせください。
（※）の製品は同梱品と同じものです。

電源関連

バッテリー充電器キット K-BC115J（※）
（バッテリー充電器D-BC68P・ACコードD-CO2Jのセット）

充電式リチウムイオンバッテリー D-LI68（※）

ACアダプターキット K-AC115J
（ACアダプター D-AC115・DCカプラー D-DC115・ACコードD-CO2Jのセット）
家庭用電源からカメラへ電源を供給します。

ACアダプター／バッテリー充電器は、それぞれキットでの販売となります。

ファインダー

外付け光学ファインダー O-VF1
カメラのホットシューに取り付ける光学式ファインダーです。
01 STANDARD PRIME レンズ専用のフレームが付いており、視野率は約90%です。（近距離補正枠付き）

ストロボ関連

オートストロボ AF540FGZ
オートストロボ AF360FGZ

AF540FGZはガイドナンバー最大値が約54（ISO 100・m）、AF360FGZはガイドナンバー最大値が約36（ISO 100・m）のP-TTL対応のオートストロボです。

AF540FGZ

AF360FGZ

オートストロボ AF200FG

ガイドナンバー最大値が約20（ISO 100・m）のP-TTL対応のオートストロボです。

AF200FG

オートマクロストロボ AF160FC

近接撮影用のストロボシステムで、小さな被写体の無影撮影などができます。従来のTTLオートストロボ機能にも対応し、同梱のアダプターリングと組み合わせて、幅広くペンタックス製品に利用できます。

AF160FC

ホットシューアダプター FG

延長コード F5P

ホットシューアダプター FG

オフカメラシューアダプター F
外付けストロボをカメラから離して使用するときのアダプターと接続コードです。

オフカメラシューアダプター F

オフカメラシュークリップ CL-10
AF540FGZ／AF360FGZ を机やスタンドなどに固定するための大型クリップです。

オフカメラシュークリップ CL-10

リモートコントロール

リモコン撮影に使用します。

リモコン操作可能距離
　カメラ正面：約4m
　カメラ背面：約5cm

リモートコントロール F

防水リモートコントロール O-RC1

カメラケース／ストラップ

カメラケース O-CC115

カメラストラップ O-ST115（※）

その他

ホットシューカバー Fk（※）

USBケーブル I-USB7（※）

AVケーブル I-AVC7

エラーメッセージ

エラーメッセージ	内容
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードの容量いっぱいに画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.43、p.165）記録設定を変更すると、保存できる可能性があります。（p.120）
これ以上保存できません	SDメモリーカードに65535枚の画像が記録されているため、保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.43、p.165）
画像がありません	SDメモリーカードに再生できる画像が保存されていません。
この画像を表示できません	このカメラでは再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
カードが入っていません	カメラにSDメモリーカードがセットされていません。（p.43）
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコンでは表示できる場合もありますが、カメラでは使用できません。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、他の機器でフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています。カメラでフォーマットしてからお使いください。（p.198）
カードがロックされています	ライトプロテクトスイッチがロックされたSDメモリーカードがセットされています。SDメモリーカードのロックを外してください。
この画像を拡大表示できません	拡大不可能な画像を拡大表示しようとしています。
この画像はプロテクトされています	消去しようとしている画像がプロテクトされています。画像のプロテクトを外してください。（p.199）
電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません	ピクセルマッピング時にバッテリー容量が足りない場合に表示されます。十分に充電されたバッテリーと交換するか、ACアダプターキットK-AC115J（別売）を使用してください。（p.40）

エラーメッセージ	内容
電池容量がたりないため アップデートを行えません	アップデート時にバッテリー容量が足りない場合に表示されます。十分に充電されたバッテリーと交換するか、AC アダプターキット K-AC115J（別売）を使用してください。（p.40）
ファイルが壊れているため アップデートを行えません	アップデートファイルが壊れているためアップデートが実行できません。アップデートファイルを再度ダウンロードしてください。（p.197）
フォルダーが作成できません	最大のフォルダー No.（999）／ファイル No.（9999）が使用されているため、画像が保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください。（p.198）
画像を保存 できませんでした	SDメモリーカードの異常で、撮影した画像が保存できませんでした。
設定を正しく 保存できませんでした	SD メモリーカードが容量いっぱいまで使用されていて、DPOF設定が保存できません。不要な画像を消去して、再度DPOF 設定をしてください。（p.165）
正しく処理できませんでした	マニュアルホワイトバランス測定（p.125）／HDR撮影（p.130）に失敗しました。もう一度やり直してください。
これ以上 選択できません	インデックス（p.160）／選択削除（p.165）処理は、上限枚数（100枚）以上は選択できません。
処理できる 画像がありません	デジタルフィルター（p.174）を適用できる画像、またはRAW展開（p.180）できる画像がありません。
この画像を処理できません	他のカメラで撮影した画像に対してリサイズ（p.172）／トリミング（p.173）／デジタルフィルター（p.174）／赤目補正（p.179）／RAW展開（p.180）を実行した場合、または最小サイズの画像に対してリサイズ／トリミングを実行した場合に表示されます。
画像の作成に 失敗しました	インデックスで画像の作成に失敗しました。（p.160）
このモードでは 設定することができません	撮影モードが **AUTO**（オートピクチャー）／**SCN**（シーン）／動画アイコン（動画）モードのときに、設定できない機能を設定しようとしています。
カメラが高温になりました 電源をオフします	カメラ内部が高温になったため、電源がオフになります。しばらくしてから電源を入れてください。

困ったときは

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、バッテリーを入れ直してみてください。カメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。
修理を依頼される前にもう一度、次の点をご確認ください。

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	バッテリーの入れ方が間違っている	バッテリーの挿入方向を確認してください。（p.38）
	バッテリーの残量がない	充電されたバッテリーに交換するか、ACアダプターキットK-AC115J（別売）を使用してください。（p.40）
シャッターがきれない	内蔵ストロボが充電中	充電が完了するまで待ってください。
	SDメモリーカードに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.43、p.165）
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	コントラストの低いもの（青空や白壁など）、暗いもの、細かい模様のもの、速く動いているもの、窓やネット越しの風景などは、オートフォーカスが苦手なものです。いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。あるいはマニュアルフォーカスを使用してください。（p.92）
	AFエリアに被写体が入っていない	画像モニターのAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、 AF エリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。（p.91）

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影してください。
	フォーカスモードが**MF**になっている	「フォーカスモード」を**AF**にしてください。（p.86）
フォーカスロックができない	AF方式が顔検出／追尾になっている	「AF方式」が顔検出／追尾に設定されているときは合焦後もピントが固定（フォーカスロック）されず、シャッターボタン半押し中は被写体のピントを追い続けます。ピントを合わせたいものが決まっている場合は、「AF方式」をセレクト（25点）／セレクト／スポットに設定し、フォーカスロックを用いて撮影してください。（p.91）
	SCNモードの／／／／になっている	SCN（シーン）モードの（動体）／（ナイトスナップ）／（ペット）／（キッズ）／（ステージライト）以外にしてください。（p.72）
AEロックが働かない	シャッター速度が**Bulb**になっている	シャッター速度を**Bulb**以外にしてください。（p.78）
内蔵ストロボが発光しない	ストロボモードが／になっているときは、被写体が明るいとストロボは発光しません	ストロボモードを（強制発光）または（強制発光＋赤目軽減）にしてください。（p.57）
	SCNモードの／／／／**HDR**／／／／になっている	SCN（シーン）モードの（夕景）／（青空）／（夜景）／（夜景HDR）／**HDR**（HDR）／（逆光シルエット）／（キャンドルライト）／（ステージライト）／（美術館）以外にしてください。（p.72）
パソコンとのUSB接続がうまくいかない	転送モードが「PTP」になっている	「詳細設定2」メニューの「USB接続」を「MSC」に切り替えてください。（p.205）

現象	原因	対処方法
手ぶれ補正が効かない	手ぶれ補正機能がオフになっている	「Shake Reduction」をオンに設定してください。（p.96）
	流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件で、手ぶれ補正機能の補正範囲を超えている	手ぶれ補正機能の補正範囲を超える場合は、「Shake Reduction」をオフにして、三脚などを使用してください。
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影するか、「Shake Reduction」をオフにして、三脚などを使用してください。
撮影の設定が変更できない	クイックダイヤルがポジション1～4になっている	クイックダイヤルを使って撮影しているときは、登録されている設定が優先されます。（p.139）

主な仕様

型式

型式	レンズ交換式デジタル一眼カメラ
レンズマウント	ペンタックスバヨネットQマウント
使用レンズ	Qマウントレンズ

撮像部

撮像素子	種類：原色フィルター／CMOS、サイズ：1/2.3型
有効画素数	約1240万画素
総画素数	約1275万画素
ダストリムーバル	超音波振動による撮像素子クリーニング機能「DR II」
感度（標準出力感度）	AUTO 125～6400（1/3 EVステップ）***Bulb**時はISO 1600まで
手振れ補正	撮像素子シフト方式

記録形式

画像ファイル形式	RAW（DNG）、JPEG（Exif 2.3）準拠、DCF 2.0準拠
記録サイズ（画素数）	JPEG：16:9 9M（4000×2248） 6M（3456×1944） 4M（2688×1512） 2M（1920×1080） 3:2 10M（4000×2664） 8M（3456×2304） 5M（2688×1792） 2M（1920×1280） 4:3 12M（4000×3000） 9M（3456×2592） 5M（2688×2016） 3M（1920×1440） 1:1 9M（2992×2992） 6M（2592×2592） 4M（2016×2016） 2M（1440×1440） RAW：4:3 12M（4000×3000）
画質	RAW：DNG（12bit） JPEG：★★★（スーパーファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー） RAWとJPEGの同時記録可能
色空間	sRGB、AdobeRGB
記録媒体	SD、SDHC、SDXCメモリーカード
記録フォルダー	日付（100_1018、100_1019・・・）／ PENTX（100PENTX、101PENTX・・・）

画像モニター

形式	TFTカラーLCD、広視野角タイプ
イメージサイズ	3.0型
ドット数	約46万ドット
調整	明るさ調整、色調整
表示	視野率約100%、グリッド表示（16分割表示、黄金分割表示、スケール表示）、白とび黒つぶれ警告表示、ヒストグラム表示

ホワイトバランス

オート	撮像素子によるTTL方式
プリセット	太陽光、日陰、曇天、蛍光灯（**D**：昼光色、**N**：昼白色、**W**：白色、**L**：電球色）、白熱灯、ストロボ、**CTE**、マニュアル
マニュアル	モニター確認による設定
微調整	A-B軸、G-M軸で±7ステップで調整可

フォーカス

方式	コントラスト検出式
輝度範囲	EV 1～18（ISO 125）
フォーカスモード	AF／MF切り替え式
AF方式	顔検出、追尾、セレクト（25点）、セレクト、スポット
AF補助光	専用LEDによるAF補助光
MFアシスト	オフ／×2／×4

露出制御

測光方式	TTL撮像センサー測光、分割／中央重点／スポット
露出範囲	EV 1.3～17（ISO 125・F 1.9レンズ使用時）、シャッター拡張設定で+2 EV、NDフィルター使用で+2 EV
露出モード	オートピクチャーモード （標準、人物、風景、マクロ、夜景人物、夜景、青空、フォレスト） シーンモード（人物、風景、マクロ、動体、夜景人物、夕景、青空、夜景、夜景HDR*、ナイトスナップ、料理、テーブルフォト*、ペット、キッズ、フォレスト、サーフ＆スノー、HDR*、逆光シルエット、キャンドルライト、ステージライト、美術館） プログラム、シャッター優先、絞り優先、マニュアル、バルブ、ボケコントロール* *JPEGのみ
露出補正	± 3EV（1/3 EVステップ）
AEロック	メニューにて⦿/🗑ボタンに割り当て可能、シャッターボタン半押しで継続

シャッター	レンズシャッター方式：1/2000～30秒（1/3 EVステップ、拡張設定の電子シャッター併用許可で1/8000～30秒）、バルブ *レンズシャッター非搭載レンズ使用時は、電子シャッターによる1/8000～2秒、バルブは不可
絞り	開放～F 8　*レンズシャッター非搭載レンズは設定不可
NDフィルター	オフ／オン　*レンズシャッター非搭載レンズは設定不可

ドライブ

ドライブモード	１コマ、連続（Hi、Lo）、セルフタイマー（12秒後、2秒後）、リモコン（即、3秒後、連続）、オートブラケット（3コマ、リモコン）
連続撮影	約5コマ/秒、JPEG（12M・★★★・連続Hi）：5コマまで 約1.5コマ/秒、JPEG（12M・★★★・連続Lo）：100コマまで

ストロボ

内蔵ストロボ	P-TTL内蔵ストロボ、ガイドナンバー約7（ISO 200・m）、約5.6（ISO 125・m）、28mmレンズの画角（35ミリ判換算）をカバー
発光方式	P-TTL、赤目軽減、スローシンクロ、後幕シンクロ
シンクロ同調速度	レンズシャッター時：1/2000秒、電子シャッター時：1/13秒、外付けストロボ時：1/250秒
ストロボ光量補正	－2.0～＋1.0 EV

撮影機能

カスタムイメージ	鮮やか、ナチュラル、人物、風景、雅、ポップチューン、ほのか、銀残し、リバーサルフィルム、モノトーン、クロスプロセス
ノイズリダクション	高感度NR
ダイナミックレンジ設定	ハイライト補正、シャドー補正
レンズ収差補正	ディストーション補正
デジタルフィルター	トイカメラ、ハイコントラスト、シェーディング、スリム、HDR、ネガポジ反転、色抽出、カラー、水彩画、ポスタリゼーション、フィッシュアイ
HDR撮影	オート、Type1、Type2
多重露出	撮影回数2～9回、自動露出調整
インターバル	撮影間隔（1秒～24時間）、最大撮影枚数999枚、開始トリガー（即時、時刻指定）
スマートエフェクト	極彩、ソリッドモノカラー、Auto110モード、クロスプロセス、さくらほのか、ドラマチックアート、ハードモノクローム、水彩画、あでみやび、USER 1～3

動画

ファイル形式	MPEG-4 AVC/H.264
記録サイズ	FullHD（1920×1080・16:9・30fps）、HD（1280×720・16:9・30fps）、VGA（640×480・4:3・30fps）
音声	内蔵モノラルマイク
記録時間	最長約25分、内部温度上昇時は自動終了
カスタムイメージ	鮮やか、ナチュラル、人物、風景、雅、ポップチューン、ほのか、銀残し、リバーサルフィルム、モノトーン、クロスプロセス
デジタルフィルター	トイカメラ、ハイコントラスト、シェーディング、スリム、HDR、ネガポジ反転、色抽出、カラー、水彩画、ポスタリゼーション、フィッシュアイ
インターバル	撮影間隔（1秒、5秒、10秒、30秒、1分、5分、10分、30分、1時間）、撮影所要時間5秒～99時間、開始トリガー（即時、時刻指定）

再生機能

再生方法	1画像、2画像比較、マルチ画面表示（4、9、20、42、90画面）、拡大（最大16倍まで、スクロール可、クイック拡大可）、回転表示、ヒストグラム（Yヒストグラム、RGBヒストグラム）、白とび黒つぶれ警告表示、詳細情報表示、フォルダー表示、カレンダー表示、スライドショウ
消去機能	1画像消去、全画像消去、選択消去、フォルダー消去、クイックビュー消去
デジタルフィルター	モノトーン、トイカメラ、ハイコントラスト、シェーディング、スリム、HDR、ネガポジ反転、色抽出、カラー、水彩画、ポスタリゼーション、フィッシュアイ、レトロ、ソフト、デッサン、ミニチュア、フレーム、トゥインクル、ベースメイク
RAW展開	記録形式（JPEG）、アスペクト比、色空間、カスタムイメージ、ホワイトバランス、増減感、高感度NR、シャドー補正、ディストーション補正
編集機能	リサイズ、トリミング（アスペクト比変更可）、インデックス、動画編集（分割および不要部分削除）、動画フレーム画像JPEG保存、赤目補正、バッファ RAW保存

カスタマイズ機能

カスタム ファンクション	13項目
モードメモリ	12項目
カスタムボタン	◉/🗑ボタン（グリーンボタン、プレビュー、ワンタッチRAW+、AEロック、AF作動） クイックダイヤル（スマートエフェクト、カスタムイメージ、デジタルフィルター、アスペクト比）
ワールドタイム	世界75都市に対応（28タイムゾーン）
言語	日本語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、オランダ語、デンマーク語、スウェーデン語、フィンランド語、ポーランド語、チェコ語、ハンガリー語、トルコ語、ギリシャ語、ロシア語、韓国語、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）

電源

使用電池	充電式リチウムイオンバッテリー D-LI68
ACアダプター	ACアダプターキット K-AC115J（別売）
電池寿命	撮影可能枚数…ストロボ50％発光：約230枚、 ストロボ発光なし：約250枚 再生時間…約160分 ※新品のリチウム電池使用、23℃、撮影枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

外部インターフェース

端子	USB 2.0（ハイスピード対応）／AV出力端子、HDMI出力端子（タイプD）
USB接続	MSC／PTP
ビデオ出力方式	NTSC／PAL

外形寸法・質量

外形寸法	約98.0mm（幅）× 57.5mm（高）× 31.0mm（厚）（吊り環、操作部を除く）
質量	約200g（専用電池、SDカード付き）、約180g（本体のみ）

付属品

同梱物	USBケーブル I-USB7、ストラップ O-ST115、充電式リチウムイオンバッテリー D-LI68、専用充電器 D-BC68P、ACコード、ソフトウェア（CD-ROM）S-SW115 <これ以降はカメラに装着状態で出荷> ホットシューカバー FK、ボディマウントカバー
ソフトウェア	SILKYPIX Developer Studio 3.0 for PENTAX

撮影可能枚数の目安

(2GBのSDメモリーカードを使用した場合)

アスペクト比	記録サイズ(画素数)	JPEG画質			RAW
		★★★	★★	★	
16:9	9M (4000×2248)	561枚	1067枚	1797枚	90枚
	6M (3456×1944)	845枚	1607枚	2708枚	−
	4M (2688×1512)	1263枚	2402枚	4046枚	−
	2M (1920×1080)	2115枚	4020枚	6772枚	−
3:2	10M (4000×2664)	503枚	957枚	1613枚	88枚
	8M (3456×2304)	629枚	1196枚	2015枚	−
	5M (2688×1792)	998枚	1897枚	3196枚	−
	2M (1920×1280)	2115枚	4020枚	6772枚	−
4:3	12M (4000×3000)	418枚	796枚	1341枚	85枚
	9M (3456×2592)	561枚	1067枚	1797枚	−
	5M (2688×2016)	998枚	1897枚	3196枚	−
	3M (1920×1440)	1510枚	2871枚	4837枚	−
1:1	9M (2992×2992)	561枚	1067枚	1797枚	90枚
	6M (2592×2592)	845枚	1607枚	2708枚	−
	4M (2016×2016)	1263枚	2402枚	4046枚	−
	2M (1440×1440)	2115枚	4020枚	6772枚	−

* 撮影可能枚数は、SDメモリーカードの記憶容量にかかわらず最大65535枚です。
* 撮影可能枚数は、被写体・撮影状況・撮影モード・使用するSDメモリーカード等により異なります。

索引

記号

「撮影」メニュー 65, 221
「動画」メニュー
.... 67, 109, 222
「再生」メニュー 153, 223
「詳細設定」メニュー
.... 184, 224
「C カスタム」メニュー
.... 68, 225
（再生）ボタン 19, 21, 61
/（グリーン／消去）ボタン
.... 19, 21, 62, 144
Av（露出補正）ボタン
.... 19, 21, 79
AUTO オートピクチャー
.... 54, 70
標準 70
人物 70, 71
風景 70, 71
マクロ 70, 71
夜景人物 70, 71
夕景 70, 71
青空 70, 71
フォレスト 70, 71
動体 71
夜景 71
夜景HDR 71
ナイトスナップ 71
料理 71
テーブルフォト 71
ペット 71
キッズ 71
サーフ＆スノー 71
HDR HDR 71
逆光シルエット 71
キャンドルライト 72
ステージライト 72
美術館 72
動画 111

数字

1画像消去 62

A

ACアダプター 40
AdobeRGB 123
AEロック 82
AFエリア 89
AF（オートフォーカス） 86
AF作動 90
AFフレーム 55
AF方式 87
AF補助光ランプ 17
AF補助投光 87
Auto110モード（スマートエフェクト） 140
AV機器 168
Av（絞り優先）モード 76
AWB（ホワイトバランス）
....124

B

BC（ボケコントロール）モード
....73
Bulb（バルブ） 78

C

CTE（ホワイトバランス）
....124

D

DPOF 201
D-Range設定 129

H

HDMI出力方式 170
HDMI端子 168
HDR 71

HDR撮影 130
HDR（デジタルフィルター）
.... 135, 174

I

INFOボタン 19, 21, 22, 25
ISO感度 75

J

JPEG 121
JPEG画質 123
JPEG記録サイズ 122

L

LCD設定 193

M

Macintosh 204
MENUボタン 19, 21, 32
MFアシスト 93
MF（マニュアルフォーカス）
.... 86, 92
Movie SR 110
MSC 205
M時の動作 147
M（マニュアル）モード 76

N

NDフィルター 148
NTSC 169

O

OKボタン 19, 21

P

PAL 169
PC/AV端子 168, 206
PTP 205
P-TTL（ストロボ）............... 216
P時の電子ダイヤル 146
P（プログラム）モード 76

R

RAW 121
RAW追加保存 61
RAW展開 180

S

SCN（シーン）モード 71
SDメモリーカード 43
Shake Reduction 96, 110
SILKYPIX Developer Studio
....207
sRGB 123

T

Tv（シャッター優先）モード
....76

U

USB接続 205
USER 142

W

Windows 204

あ行

青空 70, 71
赤目軽減 57, 216
赤目補正 179
明るさ補正 128
アクセサリー 228
鮮やか（カスタムイメージ）
....131
アスペクト比 109, 121, 173
アップデート 197
あでみやび（スマートエフェクト）.......................................140
後幕シンクロ 57, 213
アフターサービス 250
色空間 123
色抽出（デジタルフィルター）
...................................135, 174
色調整 193

インストール 207
インターバル撮影 104
インターバル動画 113
インデックス 160
エコモード 190
エフェクト 140
エラーメッセージ 232
オートパワーオフ 190
オートピクチャーモード AUTO
.... 54, 70
オートフォーカス AF 86
オートブラケット 80
音 186
音声 109

か行

カードアクセスランプ 17
回転 164
ガイドナンバー 213
ガイド表示 69, 191
顔検出 87
拡大表示 155, 193
画質 123
カスタムイメージ 131
「C カスタム」メニュー
.... 68, 225
画像回転 164
画像仕上 131
画像登録 143
画像比較 159
画像モニター 22, 193
画素数 109, 122
画面設定 191
カラー（デジタルフィルター）
.... 135, 174
カレンダー表示 158
感度 75
キー（カスタムイメージ）... 132
キッズ 71
機能登録 138
逆光シルエット 71
キャンドルライト 72
強制発光 57
切り取る 173
記録形式 121
記録サイズ 109, 122
記録設定 120
銀残し（カスタムイメージ）
....131
クイック拡大 154
クイックダイヤル 19, 138
クイックビュー 55, 192
クリーニング 227
◉/🗑（グリーン／消去）ボタン
.........................19, 21, 62, 144
グリッド表示 191
クロスプロセス登録 134
クロスプロセス（カスタムイメージ）..............................131
クロスプロセス（スマートエフェクト）............................140
黒つぶれ 28, 129
蛍光灯（ホワイトバランス）
....124
言語設定 48, 190
現在地 187
現像 180
高感度NR 85
光量補正 58
極彩（スマートエフェクト）
....140
コンティニュアスオート
フォーカス 92
コントラスト（カスタムイメージ）....................................132
コントロールパネル 24, 31

さ行

サーフ＆スノー 71
サイズ変更 172
再生 61
再生時間 40

▶（再生）ボタン 19, 21, 61
「▶再生」メニュー 153, 223
再生モードパレット 152, 223
彩度（カスタムイメージ）... 132
先幕シンクロ 213
さくらほのか（スマートエフェクト）................................ 140
撮影可能枚数 40, 242
撮影情報 22
「📷撮影」メニュー 65, 221
撮影モード 69
SCN（シーン）モード 71
シェーディング（デジタルフィルター）....................... 135, 174
色相（カスタムイメージ）... 132
自動発光 57
絞り優先モードAv 76
シャープネス（カスタムイメージ）.................................... 132
シャッターボタン 19, 21
シャッター優先モードTv 76
シャドー補正 129
十字キー（▲▼◀▶）
.... 19, 21, 30, 64
充電 37
修理 251
仕様 237
消去 62, 165
詳細情報表示 27
「🔧詳細設定」メニュー
.... 184, 224
初期化 198
初期設定 48, 220
白とび 28, 128
白とび黒つぶれ警告
.... 154, 191, 193
人物 70, 71
人物（カスタムイメージ）... 131
水彩画（デジタルフィルター）
.... 135, 174
水彩画（スマートエフェクト）
....140
ズームレンズ 56
ステージライト 72
ストラップ 36
ストロボ 57, 211
ストロボ光量補正 58
ストロボポップアップレバー
....19, 59
ストロボ（ホワイトバランス）
....124
スピーカー 17
スポット 87
スポット測光 84
スマートエフェクト 140
スライドショウ 162
スリム（デジタルフィルター）
.................................135, 174
スローシンクロ 57, 212
接続ケーブルカバー 41
設定登録 142
セルフタイマー 98
セルフタイマーランプ 17
セレクト 87
全画像消去 167
選択消去 165
操作ガイド 29
測光方式 84
外付けストロボ 215
ソフトウェア 207
ソフト（デジタルフィルター）
....175
ソリッドモノカラー（スマートエフェクト）........................140

た行

ダイナミックレンジ
.....................................76, 128
太陽光（ホワイトバランス）
....124
ダイレクトキー 30, 64, 220

多重露出 107
ダストリムーバル 227
縦横比 120
中央重点測光 84
調色（カスタムイメージ）... 133
追尾 87
ディストーション補正 149
テーブルフォト 71
デジタルフィルター 135, 174
デッサン（デジタルフィルター）
.... 175
手ぶれ補正 96, 110
点検 251
電源 47
電源ボタン 19, 21, 47
電子音 186
電子シャッター 226
電子ダイヤル 19, 21
転送モード 205
電池 37
トイカメラ（デジタル
フィルター）................. 135, 174
トゥインクル（デジタルフィル
ター）................................. 175
動画 109
動画再生 115
動画編集 117
「動画」メニュー
.... 67, 109, 222
動体 71
都市名 189
ドライブモード 64
ドラマチックアート（スマート
エフェクト）........................ 140
トリミング 173
曇天（ホワイトバランス）... 124

な行

内蔵ストロボ 57
ナイトスナップ 71
ナチュラル（カスタムイメージ）
....131
日時設定 50
日時変更 187
ネガポジ反転（デジタルフィル
ター）............................135, 174
ノイズリダクション 85

は行

バージョン情報 197
ハードモノクローム（スマート
エフェクト）..........................140
ハイコントラスト（デジタル
フィルター）..................135, 174
ハイダイナミックレンジ 130
ハイライト補正 128
白熱灯（ホワイトバランス）
....124
パソコン 203
発光禁止 57
バッテリー 37
バルブ撮影 78
日陰（ホワイトバランス）....124
ピクセルマッピング 194
被写界深度 73, 94
美術館 72
ヒストグラム 26, 28, 191, 193
ピックアップリペアサービス
....251
日付を入れる 202
ビデオ出力方式 169
ビデオ端子 168
表示言語 190
標準 70
標準表示 22
ピント合わせ 86
ピントリング 92
ピントを固定 91
ファームウェア 197
ファイルNo. 200

フィッシュアイ（デジタルフィルター）................. 136, 175
フィルター加工 135, 174
風景 70, 71
風景（カスタムイメージ）... 131
フォーカス設定 87
フォーカスモード 86
フォーカスロック 91
フォーマット 198
フォルダー作成 201
フォルダー消去 166
フォルダー表示 157
フォルダー名 200
フォレスト 70, 71
付属ソフトウェア 207
ブラケット撮影 80
フリッカー低減 29
プリント 201
フレームレート 109
フレーム（デジタルフィルター）... 175
プレビュー 94, 144
プログラムモード P 76
プロテクト 199
分割測光 84
分割表示 156
ベースメイク（デジタルフィルター）.................................... 175
別売アクセサリー 228
ペット 71
ボケコントロールモード BC 73
保護 199
ポスタリゼーション（デジタルフィルター）................. 135, 175
ホットシュー 17
ポップチューン（カスタムイメージ）............................... 131
ほのか（カスタムイメージ）... 131
ホワイトバランス 124

ま行

マイク 17
マウント指標 45
マクロ 70, 71
マニュアルフォーカス MF 86, 92
マニュアルホワイトバランス 125
マニュアルモード M 76
マルチ画面表示 156
ミニチュア（デジタルフィルター）...................................175
雅（MIYABI）（カスタムイメージ）.......................................131
メニューの操作 32
メニューの表示 192
メモリーカード 43
モードダイヤル 19, 69
モードメモリ 195
目的地 187
モノトーン（カスタムイメージ）..131
モノトーン（デジタルフィルター）..........................174

や行

夜景 71
夜景HDR 71
夜景人物 70, 71
夕景 70, 71
ユーザー登録 209

ら行

ライトプロテクト 5
リサイズ 172
リセット 196
リバーサルフィルム（カスタムイメージ）..........................131
リモコン 100
リモコン受光部 17
料理 71

レトロ（デジタルフィルター）
.... 175
レリーズ優先 88
レンズ 45, 226
レンズ情報接点 17
レンズ取り外しボタン
.... 19, 46
連続再生 162
連続撮影 102
露出 75
露出記憶 82
露出設定 110
露出ブラケット 80
露出補正 79
Av（露出補正）ボタン
.... 19, 21, 79
露出モード 76

わ行

ワールドタイム 187
歪曲収差 149
ワンタッチRAW+ 145

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理いたしますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ほこり・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。

4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。

5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。従って本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。

6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］

7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

製品の点検・修理について

ペンタックスピックアップリペアサービス

全国（離島など、一部の地域を除く）どこからでも電話一本でペンタックス指定の宅配業者がお客様ご指定の日時・場所に梱包資材を持って不具合品を引き取りにお伺いし、専門修理スタッフが修理を行って、お客様ご指定の場所に完成品をお届けするサービスです。（全国一律料金）
※弊社修理受付後のお問い合わせは、東京サービスセンターにて承ります。

電話受付
TEL 0120-97-0405 （フリーダイヤル）
受付時間　平日　8：00～21：00
土・日・祝日・年末年始　9：00～18：00

宅配便・郵便による修理受付、修理に関するお問い合わせ

http://www.pentax.jp/japan/support/repair.html

PENTAX東京サービスセンター
TEL 03-3960-5140（代）　FAX 03-3960-5147
〒174-0041　東京都板橋区舟渡1-12-11　ヘリオスⅡビル3階
営業時間　9：00～17：30
休業日　土・日・祝日および弊社休業日

PENTAX大阪サービスセンター
TEL 06-6271-7996（代）　FAX 06-6271-3612
〒542-0081　大阪府大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間　9：00～17：00
休業日　土・日・祝日および弊社休業日

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックス製品をご愛用の方なら、どなたでも入会できる全国的な写真クラブです。
ペンタックスファミリーは、たくさんの会員特典や楽しいイベントであなたのフォトライフをバックアップ！あなたもペンタックスファミリーで、すばらしい写真の世界をお楽しみください。
詳しくは、下記ホームページをご覧いただくか、Pentax Family事務局までお問い合わせください。

ペンタックスファミリーホームページ　http://pentax.jp/family/

Pentax Family事務局　TEL 03-3580-2060　FAX 03-3580-2065
〒100-0014　東京都千代田区永田町1-11-1 三宅坂ビル2階
営業時間　9：00～17：00
休業日　土・日・祝日および弊社特別休業日

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス **http://www.pentax.jp/**

[本製品に関するお問い合わせ]

http://www.pentax.jp/japan/support/

PENTAX お客様相談センター

ナビダイヤル　0570-001323
（市内通話料金でご利用いただけます。）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、右記の電話番号をご利用ください。 **TEL 03-3960-5705（代）**
FAX 03-3960-4976

営業時間　9：00～18：00（平日）
10：00～17：00（土・日・祝日）
休業日　年末年始およびビル点検日

[ショールーム・写真展・修理受付]
ペンタックスフォーラム **TEL 03-3348-2941（代）**
FAX 03-3345-8076

〒163-0690　東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービルMB（中地下1階）
営業時間　10：30～18：30
休業日　毎週火曜日、年末年始およびビル点検日

PENTAX 大阪サービスセンター **TEL 06-6271-7996（代）**
FAX 06-6271-3612

〒542-0081　大阪府大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間　9：00～17：00
休業日　土・日・祝日および弊社休業日

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属の CD-ROM と当社ホームページから登録が可能です。p.209 を参照してください。

ペンタックスリコーイメージング株式会社
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-35-7

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

58222
R02DTK11
Printed in Philippines